



## **展開およびアドミニストレーション ガイド for Cisco Media Experience Engine 3500 Release 3.0**

**Deployment and Administration Guide for Cisco Media  
Experience Engine 3500 Release 3.0**

2010 年 1 月 26 日

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意**  
([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/))をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。  
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップ  
デートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合があ  
りますことをご了承ください。  
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サ  
イトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊  
社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco Explorer, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, the Cisco logo, Cisco Nurse Connect, Cisco Pulse, Cisco SensorBase, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco TrustSec, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flipshare (Design), Flip Ultra, Flip Video, Flip Video (Design), Instant Broadband, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Capital, Cisco Capital (Design), Cisco:Financed (Stylized), Cisco Store, Flip Gift Card, and One Million Acts of Green are service marks; and Access Registrar, Aironet, AllTouch, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, Continuum, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Explorer, Follow Me Browsing, GainMaker, iLync, IOS, iPhone, IronPort, the IronPort logo, Laser Link, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, PCNow, PIX, PowerKEY, PowerPanels, PowerTV, PowerTV (Design), PowerVu, Prisma, ProConnect, ROSA, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1002R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

展開およびアドミニストレーションガイド for Cisco Media Experience Engine 3500 Release 3.0

© 2010 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.

Copyright © 2010, シスコシステムズ合同会社.

All rights reserved.



## CONTENTS

はじめに	vii
目的	vii
対象読者	vii

### CHAPTER 1

<b>スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開</b>	<b>1-1</b>
Cisco MXE 3500 のスタンドアロン展開の概要	1-1
スタンドアロン展開に関するガイドライン	1-1
Cisco MXE 3500 の展開手順の特定	1-2
Cisco MXE 3500 の Web ユーザ インターフェイスへのアクセス	1-2
Cisco MXE 3500 へのライセンスのインストール	1-3
MAC アドレスの入手	1-3
新規、アップグレード、または機能ライセンスの入手	1-4
新規、アップグレード、または機能ライセンスのインストール	1-5
入力および出力メディア ディレクトリの設定	1-6
システム管理 E メール通知の有効化	1-7
ホスト設定の設定	1-8
サービス アカウントの確認およびデバイス タイプの特定	1-9
フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成	1-11
ディレクトリの作成	1-12
ウォッチの作成	1-13
Cisco MXE 3500 ツールへのアクセス	1-15
管理ツールを使った Cisco MXE 3500 の設定	1-16
ホストの設定	1-16
システム設定	1-19
[Input] セクション	1-19
[Output] セクション	1-21
[General Settings] セクション	1-22
[Status Settings] セクション	1-23
[Data Purging] セクション	1-24
[Audio Capture] セクション	1-25
ユーザ設定	1-25
ユーザ メタデータ設定	1-26
IP キャプチャ (ライブ ストリーミング) 設定	1-27

Cisco MXE 3500 の展開の確認	1-28
テスト 1: ファイル ジョブ送信を使ったジョブの送信	1-28
テスト 2: フォルダ アテンダントを使ったジョブの送信	1-29
テスト 3: ライセンス機能が有効であることの確認	1-29

CHAPTER 2

<b>Resource Manager 設定での Cisco MXE 3500 の展開</b>	<b>2-1</b>
Cisco MXE 3500 Resource Manager 展開の概要	2-1
Resource Manager 展開に関するガイドライン	2-2
Resource Manager の展開手順の特定	2-3
3 つのノードの Resource Manager の展開ワークフロー例	2-3
Cisco MXE 3500 ユーザ インターフェイスへのアクセス	2-5
Resource Manager デバイスへのライセンスのインストール	2-5
Resource Manager MAC アドレスの入手	2-6
Resource Manager のライセンスの取得	2-7
Resource Manager へのライセンスのインストール	2-8
入力および出カメディア ディレクトリの設定	2-9
システム管理 E メール通知の有効化	2-9
サービス アカウントの確認	2-9
フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成	2-10
管理ツールを使った Resource Manager デバイスの設定	2-10
Resource Manager 展開のホスト設定	2-10
容量、費用、および制限について	2-13
Resource Manager 展開のホスト設定の設定	2-14
Resource Manager 展開のシステム設定	2-15
[Input] セクション	2-15
[Output] セクション	2-17
[General Settings] セクション	2-18
[Status Settings] セクション	2-18
[Data Purging] セクション	2-18
[Audio Capture] セクション	2-18
ユーザ設定	2-18
役割設定	2-19
プロファイル スペース設定	2-21
ユーザ メタデータ設定	2-21
IP キャプチャ設定	2-22
Resource Manager の展開の確認	2-22
テスト 1: ファイル ジョブ送信を使ったジョブの送信	2-22
テスト 2: フォルダ アテンダントを使ったジョブの送信	2-23

テスト 3 : ライセンス機能が有効であることの確認 2-24

### CHAPTER 3

<b>Cisco MXE 3500 にライセンスされる機能の展開</b>	<b>3-1</b>
ライブストリーミング (IP キャプチャ) 機能	3-1
ライブストリーミング機能に必要なコンポーネント	3-1
取り込み (入力)	3-2
ジョブ プロファイル (トランスコード)	3-2
配信 (出力)	3-2
ライブ WMV IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開のネットワーク設計	3-3
ライブ WMV IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー	3-3
ライブ Flash 8 および H.264 IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開のネットワーク設計	3-4
ライブ Flash 8 および H.264 IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー	3-5
音声文字変換機能とグラフィック オーバーレイ 機能	3-6
音声文字変換機能とグラフィック オーバーレイ 機能の概要	3-6
音声文字変換機能とグラフィック オーバーレイ 機能に必要なコンポーネント	3-7
音声文字変換の設定ワークフロー	3-7
グラフィック オーバーレイ機能の設定ワークフロー	3-9
音声文字変換の精度向上のためのガイドライン	3-10
音声入力スタイル	3-10
ビデオに複数のスピーカが登場する場合	3-10
スピーカ プロファイル	3-10
オーディオを取得する方法	3-10
Cisco MXE 3500 へのスピーカ プロファイルのインポート	3-11
Cisco.com からのスピーカ プロファイルのインポート	3-11
Dragon Naturally Speaking を使用して作成されたスピーカ プロファイルのインポート	3-12

### CHAPTER 4

<b>Cisco MXE 3500 のセキュリティに関するベスト プラクティスとバックアップのガイドライン</b>	<b>4-1</b>
Cisco MXE 3500 のセキュリティに関するベスト プラクティス	4-1
Cisco MXE 3500 マイクロソフト ホット フィックス リリース ポリシー	4-2
Windows サービス	4-2
Cisco MXE 3500 のバックアップに関するガイドライン	4-5
Cisco MXE 3500 のバックアップ	4-5
フォルダ アテンダント データベースのバックアップ	4-6
Cisco MXE 3500 ファイルのバックアップ	4-6
Cisco MXE 3500 設定の復元	4-7
Cisco MXE 3500 のリカバリ	4-7

フォルダ アテンダント データベースの復元	4-7
その他の Cisco MXE 3500 ファイルの復元	4-8

**CHAPTER 5**

<b>スタンドアロン デバイスからの Cisco MXE 3500 のアップグレード</b>	<b>5-1</b>
アップグレードのガイドライン	5-1
スタンドアロン デバイスから Resource Manager デバイスへの Cisco MXE 3500 のアップグレード	5-1
アップグレードの準備	5-2
Resource Manager へのアップグレード用のライセンスの入手	5-3
Resource Manager デバイスのアップグレード	5-3
アップグレード ソフトウェアの入手	5-3
Resource Manager へのアップグレードの実行	5-4
Resource Manager アップグレード設定の完了	5-5
スタンドアロン デバイスから Resource Node デバイスへの Cisco MXE 3500 のアップグレード	5-6
アップグレードの準備	5-7
Resource Node へのアップグレード用のライセンスの入手	5-8
Resource Node デバイスのアップグレード	5-9
既存の Resource Manager 展開への新しい Resource Node の追加	5-11

**CHAPTER 6**

<b>トラブルシューティング Cisco MXE 3500</b>	<b>6-1</b>
ロギング	6-1
トラブルシューティング	6-1
トラブルシューティングの手順	6-2
トラブルシューティングの FAQ	6-2
スタンドアロン展開と Resource Manager 展開	6-2
Resource Manager 展開	6-3

**CHAPTER 7**

<b>Cisco MXE 3500 のリカバリ</b>	<b>7-1</b>
リカバリの準備	7-1
Cisco MXE 3500 の復旧	7-3
Quiet Boot 設定の無効化およびハード ドライブの RAID-0 としての設定	7-3
アプライアンスを復旧する Cisco MXE 3500 ソフトウェアのインストール	7-4
設定の復元	7-5
スタンドアロン設定または Resource Manager の設定	7-5
Resource Node の設定	7-6



## はじめに

---

この項では、次のトピックを扱います。

- 「目的」 (P.vii)
- 「対象読者」 (P.vii)

## 目的

このガイドでは、スタンドアロン設定または **Resource Manager** 設定に Cisco MXE 3500 を展開する前に、システム管理者が完了する必要があるインストール作業および設定作業について説明します。

Cisco MXE 3500 の使用方法については説明していません。『*User Guide for Cisco MXE 3500*』を参照してください。

## 対象読者

このガイドは、Cisco MXE 3500 の展開を担当するシステム管理者を対象としています。エンドユーザは対象としていません。

このガイドの発行日以降にこの製品に生じた変更については、次の URL のリリース ノートを参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps9892/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps9892/prod_release_notes_list.html)

このリリース ノートには、システム要件、製品に関する制限、制約事項、警告、およびドキュメントの更新情報などの重要な情報が含まれています。





# CHAPTER 1

## スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開

この項では、次のトピックを扱います。

- 「Cisco MXE 3500 のスタンドアロン展開の概要」 (P.1-1)
- 「スタンドアロン展開に関するガイドライン」 (P.1-1)
- 「Cisco MXE 3500 の展開手順の特定」 (P.1-2)
- 「Cisco MXE 3500 の Web ユーザ インターフェイスへのアクセス」 (P.1-2)
- 「Cisco MXE 3500 へのライセンスのインストール」 (P.1-3)
- 「システム管理 E メール通知の有効化」 (P.1-7)
- 「サービス アカウントの確認およびデバイス タイプの特定」 (P.1-9)
- 「フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成」 (P.1-11)
- 「Cisco MXE 3500 ツールへのアクセス」 (P.1-15)
- 「管理ツールを使った Cisco MXE 3500 の設定」 (P.1-16)
- 「Cisco MXE 3500 の展開の確認」 (P.1-28)

## Cisco MXE 3500 のスタンドアロン展開の概要

- スタンドアロン展開は、個々のデバイスとして実行中の 1 つまたは複数の Cisco MXE 3500 で構成されます。各デバイスは、独自のユーザ アカウント、ジョブ プロファイル、ライセンス機能、およびユーザ インターフェイスを持ちます。Resource Manager の展開の詳細については、第 2 章「Resource Manager 設定での Cisco MXE 3500 の展開」を参照してください。
- ライセンス機能を有効にするには、機能ライセンスを購入して Cisco MXE 3500 にインストールする必要があります。ライセンス機能の展開の詳細については、第 3 章「Cisco MXE 3500 にライセンスされる機能の展開」を参照してください。

## スタンドアロン展開に関するガイドライン

スタンドアロン展開には、次の設定に関するガイドラインおよび制約事項が適用されます。

- ディレクトリは、ネットワーク共有へのローカル パスまたは UNC パスとして設定できます。マップされたドライブは、ストレージエリア ネットワーク (SAN) を使用する展開でのみ使用できません。ディレクトリの場所は、すべてのホストにアクセス可能である必要があります。

- MXE-Service は、すべての MXE サービスにログインするために使用するデフォルトのユーザーアカウントです。MXE-Service には、すべての設定された UNC パスおよび IIS への読み取り/書き込みアクセス権がある必要があります。このアカウントは、削除または変更しないでください。**Cisco MXE 3500 が機能しなくなる場合があります。**
- Cisco MXE 3500 は、出荷時に **mxe3500** というホスト名が設定されています。ホスト設定を設定する前に、ホスト名をデバイス上で一意の名前に変更する必要があります。
- Cisco MXE 3500 は、DHCP が有効の状態では出荷されています。固定 IP アドレスを使用する場合は DHCP を無効にし、デバイスに IP アドレスを割り当ててからホスト設定を設定します。

## Cisco MXE 3500 の展開手順の特定

Cisco MXE 3500 は、システムを使用する前に次の手順のみ実行する必要がある状態で出荷されています。また、省略可能な展開手順も含まれています。

### 必須の展開手順

- 「Cisco MXE 3500 へのライセンスのインストール」(P.1-3)
- 「入力および出力メディア ディレクトリの設定」(P.1-6)
- 「システム管理 E メール通知の有効化」(P.1-7)
- 「ホスト設定の設定」(P.1-8)

### 省略可能な展開手順

- 「サービス アカウントの確認およびデバイス タイプの特定」(P.1-9)
- 「フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成」(P.1-11)
- 「Cisco MXE 3500 の展開の確認」(P.1-28)
- 「Cisco MXE 3500 にライセンスされる機能の展開」(P.3-1)

## Cisco MXE 3500 の Web ユーザ インターフェイスへのアクセス



(注)

ユーザ インターフェイスを含む Cisco MXE 3500 のコンポーネントの詳細については、[Cisco.com](https://www.cisco.com) の『*User Guide for Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照するか、UI の [Help] をクリックしてください。

Cisco MXE 3500 の Web ユーザ インターフェイス (UI) は、エンコーダ サーバおよびクライアント設定の設定、ジョブ プロファイルの作成、ジョブの送信などに使用するメイン インターフェイスです。UI の使用の詳細については、[Cisco.com](https://www.cisco.com) の『*User Guide for Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照するか、UI の [Help] をクリックしてください。

### 手順

**ステップ 1** Cisco MXE 3500 の Web UI には、次の方法でアクセスします。

- Cisco MXE 3500 (スタンドアロンまたは Resource Manager デバイス) のデスクトップのアイコン (図 1-1 を参照) をクリックし、デフォルトの資格情報を入力してログオンします。
- ネットワークへ接続可能な任意の PC またはサーバでサポートされている Web ブラウザを開き、**http://TCP-IP-name-or-address/Mxeui** と入力します。ここで *TCP-IP-name-or-address* は、Cisco MXE 3500 の TCP/IP 名または IP アドレスです。デフォルトの資格情報を入力してログオンします。

図 1-1 ユーザインターフェイスのデスクトップアイコン



**ステップ 2** 次のデフォルトの資格情報を入力します。

- ログイン ユーザ名 : **admin**
- パスワード : **admin**



(注) 資格情報はデフォルトから変更することを推奨します。

## Cisco MXE 3500 へのライセンスのインストール

この項では、次のトピックを扱います。

- 「[MAC アドレスの入手](#)」 (P.1-3)
- 「[新規、アップグレード、または機能ライセンスの入手](#)」 (P.1-4)
- 「[新規、アップグレード、または機能ライセンスのインストール](#)」 (P.1-5)

### MAC アドレスの入手



(注) ライセンス処理では、Cisco MXE 3500 の 2 つのイーサネット MAC アドレスのうちどちらかを指定する必要があります。また、使用する MAC アドレスを一度選択すると、初期またはアップグレードのすべてのライセンス要求において、**同じ MAC アドレス**を使用する必要があります。

#### 手順

- ステップ 1** アプリアンスを起動します。
- ステップ 2** **C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\bin** へ移動します。
- ステップ 3** **Imtools.exe** をダブルクリックします。
- ステップ 4** [System Settings] タブを選択します (図 1-2 を参照)。

図 1-2 [System Settings] タブ

- ステップ 5** [Ethernet Address] フィールドで引用符の間に表示されているイーサネットアドレスのうち 1 つをコピーします。この数字を使用して Cisco MXE 3500 のライセンスを生成します。「[新規、アップグレード、または機能ライセンスの入手](#)」(P.1-4) も参照してください。



**ヒント** MAC アドレスおよびイーサネットアダプタの状態は、コマンドプロンプトを起動して **ipconfig /all** コマンドを実行することで確認できます。コマンドプロンプトは、デスクトップの [Command Prompt] ショートカットをダブルクリックして起動します。コマンド出力には、各イーサネットアダプタの状態および MAC アドレス（「Physical Address」の下）が表示されます。

- ステップ 6** [LMTOOLS] ウィンドウを閉じます。

## 新規、アップグレード、または機能ライセンスの入手

### 作業を開始する前に

- ライセンス Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のアカウントが必要です。アカウントは、<http://www.cisco.com/web/siteassets/account/index.html> で登録できます。
- Cisco MXE 3500 の MAC アドレスを入手します。「[MAC アドレスの入手](#)」(P.1-3) も参照してください。



(注) ライセンス処理では、Cisco MXE 3500 の 2 つのイーサネット MAC アドレスのうちどちらかを指定する必要があります。また、使用する MAC アドレスを一度選択すると、初期またはアップグレードのすべてのライセンス要求において、同じ MAC アドレスを使用する必要があります。

- 製品認証キー (PAK) を入手します。PAK は、アプライアンスに付属するソフトウェア ライセンス権利証明書に記載されています。

#### 手順

- ステップ 1** <http://www.cisco.com/go/license> にアクセスします。
- ステップ 2** PAK を入力します。
- ステップ 3** Cisco MXE 3500 を使用して登録 Web サイトへアクセスする場合は、Enter キーを押します。その他の場合は、[Submit] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 画面上のプロンプトに従います。登録してすぐ後、Cisco MXE 3500 のライセンス ファイルが添付された E メールが届きます。



(注) ライセンス ファイルは保存しておくことを推奨します。ライセンス ファイルを紛失すると、再度複製を入手するのに最大 1 営業日かかる場合があります。

#### トラブルシューティングに関するヒント

登録 Web サイトに関して問題が発生した場合や、その他の質問がある場合に、すぐに回答を得るには、<http://tools.cisco.com/ServiceRequestTool/create/DefineProblem.do> の TAC Service Request ツールを使用して Service Request を開きます。

有効な Cisco ID およびパスワードをお手元にご用意ください。または、以下の電話番号のいずれかに問い合わせることもできます。

- アジア太平洋 : +61 2 8446 7411 (オーストラリア : 1 800 805 227)
- EMEA : +32 2 704 55 55
- 米国 : 1 800 553-2447

Cisco TAC の連絡先一覧は、<http://www.cisco.com/techsupport/contacts> で確認できます。

## 新規、アップグレード、または機能ライセンスのインストール

#### 作業を開始する前に

Cisco MXE 3500 のライセンス ファイルを入手します。「[新規、アップグレード、または機能ライセンスの入手](#)」(P.1-4) も参照してください。

#### 手順

- ステップ 1** スタンドアロンの Cisco MXE 3500 または Resource Manager で、生成された mxe.lic ファイルをライセンス ディレクトリ (C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license) にコピーします。

## ■ 入力および出力メディア ディレクトリの設定

- ステップ 2** デバイスを再起動します。
- ステップ 3** デバイスにログインします。
- ステップ 4** <http://localhost/mxeUI> から UI にログインします。または、デスクトップの [Cisco MXE Web Interface] アイコンをクリックして、UI にログインします。
- ステップ 5** [Tools] をクリックしてから [Reset License Cache] をクリックし、ライセンスのキャッシュをリセットします。

## 次の手順

完了するタスク	参照するセクション
スタンドアロンの Cisco MXE 3500 の展開を完了する	1. 「入力および出力メディア ディレクトリの設定」 (P.1-6) 2. 「システム管理 E メール通知の有効化」 (P.1-7)
スタンドアロンから Resource Manager 設定へアップグレードする	「スタンドアロン デバイスからの Cisco MXE 3500 のアップグレード」 (P.5-1)
スタンドアロンまたは Resource Manager Cisco MXE 3500 で新しい機能ライセンスをテストする	「Cisco MXE 3500 にライセンスされる機能の展開」 (P.3-1)

## 入力および出力メディア ディレクトリの設定

Cisco MXE 3500 で入力メディアを取得し、出力メディアを保存するには、入力および出力ディレクトリを設定する必要があります。

### 作業を開始する前に

設定するディレクトリが存在し、共有されていることを確認します。

### 手順

- ステップ 1** <http://localhost/mxeUI> から UI にログインします。または、デスクトップの [Cisco MXE Web Interface] アイコンをクリックします。
- ステップ 2** ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [System] をクリックします。
- ステップ 3** [Input] セクションの以下のフィールドに、Cisco MXE 3500 が入力メディアを取得するディレクトリを、~~¥¥localhost¥¥media~~ のように入力します。詳細については、「[Input] セクション」 (P.1-19) を参照してください。
- [Bumper]
  - [common]
  - [Media]
  - [Watermark]
- ステップ 4** [Output] セクションのすべてのフィールドに、Cisco MXE 3500 が出力メディアを保存するディレクトリを、~~¥¥localhost¥¥output~~ のように入力します。詳細については、「[Output] セクション」 (P.1-21) を参照してください。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

## システム管理 E メール通知の有効化

Cisco MXE 3500 でジョブの完了または失敗を通知する E メールを送信するには、E メールを中継できる E メール サーバを指定するように設定する必要があります。

Eメールの送信は、トランスコードジョブの完了には必要ありません。

### 手順

- ステップ 1** <http://localhost/mxeUI> から UI にログインします。または、デスクトップの [Cisco MXE Web Interface] アイコンをクリックします。
- ステップ 2** 次の手順に従って、SMTP サーバおよびシステム管理者の E メールを入力します。
- ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [System] をクリックします。
  - [General Settings] セクションで、以下の設定を入力します。
    - [SMTP Server] フィールドに、E メール通知メッセージの送信に使用するサーバの名前を入力します。このサーバは、Simple Mail Transport Protocol (SMTP) サービスを実行している必要があります。
    - [System Administrator Email] フィールドに、システム管理者への連絡に使用する E メールアドレスを入力します。この E メールアドレスは、通常の E メールアカウント、文字対応のポケットベルまたは携帯電話へのメッセージの送信に使用できます。システム管理者の E メールアドレスは、[From Email Address] または [To Email Address] で [System Administrator] オプションが選択されている場合、通知プロファイルで使用されます。「[General Settings] セクション」(P.1-22) も参照してください。
  - [Save] をクリックします。
- ステップ 3** 通知プロファイルを以下のように作成します。
- ツールボックスで、[Profile Management] をクリックしてから [New Profile] をクリックします。
  - [New Profile] ポップアップの [Profile Class] ドロップダウンから、[Distribution] を選択します。
  - [Notification] を強調表示し、[New Profile] ボタンをクリックします。[New Notification Profile] ページが表示されます。
  - 以下の通知設定を入力し、[Save] をクリックします。
    - [Common] セクションの [Profile Enabled] チェックボックスをオンにします。
    - [Notification Criteria] セクションで、通知を送信する状態を選択します。
    - [Email Notification] セクションで、以下の設定を入力します。
      - [Enabled] チェックボックスをオンにし、ジョブ処理に対してこのプロファイルを有効にします。
      - [From] フィールドで、[System Administrator] を選択します。
      - [To] フィールドで、[System Administrator] を選択します。
- ステップ 4** (省略可能) 通知を受け取るジョブプロファイルに、通知プロファイルを追加します。
- ツールボックスで、[Profile Management] をクリックしてから、[New Profile]、または [Open Profile] をクリックします。

- b. [Profile Class] ドロップダウンから [Job] を選択し、[New Profile] または [Open Profile] をクリックします。
- c. [Notification] セクションを展開します。
- d. 通知プロファイルを 1 つまたは複数選択します。
- e. [Save] をクリックします。

## ホスト設定の設定

次の手順に従って、スタンドアロンの Cisco MXE 3500 のホスト設定を設定します。

### 手順

- ステップ 1** ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [Host] をクリックします。「[ホストの設定 \(P.1-16\)](#)」も参照してください。
- ステップ 2** 次の手順に従って、ホストを変更します。
- a. [Host Administration] メニューから、[Host Options] の右にある矢印をクリックしてから、[Edit] をクリックします。[Edit Host] ポップアップが表示されます。
  - b. [Host Name] フィールドに**ホスト名**を入力します。この名前は、スタンドアロンの Cisco MXE 3500 用に設定した、有効なコンピュータ名である必要があります。
  - c. [Temp Directory] フィールドに、手順 b. で設定した、ホスト上の一時フォルダのローカルパスまたは UNC パスを入力します。
  - d. [Save] をクリックします。[Hosts] ペインに変更後のホストが表示されます。



**(注)** ホスト設定中、Cisco MXE 3500 はホスト名および一時ディレクトリが有効であることの確認を行いません。いずれかの設定が無効だった場合、その設定を使用する必要がある操作の間にエラーが発生します。

- ステップ 3** 次の手順に従って、[ステップ 2](#) で作成したホストにワーカーを追加します。
- a. ホストに割り当てる各ワーカーを選択します。
  - b. [Permit] をクリックするか、[Permit All] をクリックします。



**(注)** 表示されるワーカーのリストは、ライセンス レベルによって制御されます。[Permit All] オプションを選択した場合、すべての非ライブ ワーカーのみが許可されます。ライブ ワーカーは、追加データを手作業で入力する必要があります。

- ステップ 4** 次の手順に従って、各ワーカーの [Limit]、[Expense]、およびライブ キャプチャ情報を設定します。
- a. 各ワーカーをクリックし、[Edit] をクリックします。[Edit worker] ポップアップが表示されます。
  - b. [Limit] および [Expense] を入力します。
  - c. ライブ キャプチャの場合は、[Capture Name]、[Capture Type]、[Video CH]、および [Audio CH] を入力します。
  - d. [Save] をクリックします。

**ステップ 5** ページ上部の [Apply Configuration] をクリックします。

## サービス アカウントの確認およびデバイス タイプの特定

この手順は必須ではありませんが、サービス アカウントが有効でネットワークの場所にアクセスできることを確認するために選択できます。サービス アカウントは、Cisco MXE 3500 上のローカル管理者であるアカウントです。このアカウントは、ローカル コンピュータ アカウントまたはドメイン アカウントの場合があります。



### ヒント

Cisco MXE 3500 のデバイス タイプ (スタンドアロンまたは Resource Manager、または Resource Node) は、どのサービスが開始されたかを確認することで、すぐに判断できます。表 1-1 を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** デスクトップまたはコントロール パネルの [Services] アイコンをダブルクリックして、サービスを開きます。

**ステップ 2** Cisco MXE 3500 のデバイス タイプの MXE サービスを、一度に 1 つずつ選択します (図 1-3 を参照)。



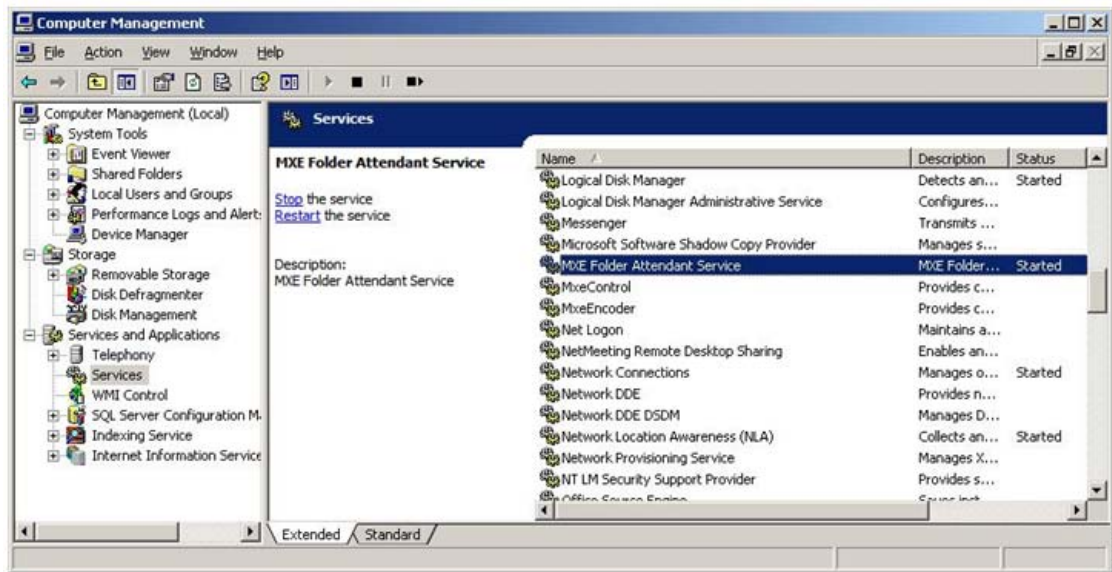
### (注)

それぞれの Cisco MXE 3500 のデバイス タイプのサービスの一覧は、表 1-1 のとおりです。

表 1-1 Cisco MXE 3500 のデバイス タイプのサービスの状態

サービス	スタンドアロンまたは Resource Manager	Resource Node
IIS Admin Service	開始	サービスは存在しません
Mxe CAM	開始	サービスは存在しません
Mxe ECS	開始	サービスは存在しません
Mxe Encoder	開始	開始
Mxe Folder Attendant	開始	サービスは存在しません
Mxe Log Service	開始	開始

図 1-3 サービス アカウントの選択



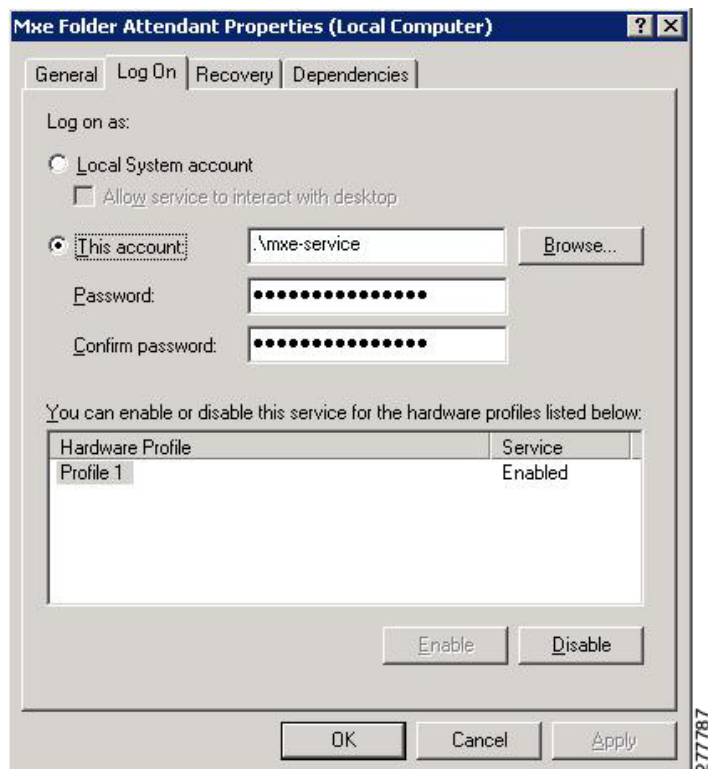
192345

**ステップ 3** 各サービス（IIS 管理サービスを除きます）をダブルクリックし、[Log On] タブを選択します（図 1-4 を参照）。サービス アカウントは、このページでデフォルトから変更できます。

**(注)**

- この処理は、Cisco MXE 3500 を機能させるためには必要ありません。システムは、デフォルト設定を実行するための正しい権限を持つデフォルトのサービス アカウントで出荷されています。
- 異なるコンピュータへの出力ファイルのコピーなど、ネットワークを介する一部の機能では、Cisco MXE 3500 はサービス アカウントを使用してそれらのネットワーク リソースに対する認証およびアクセスを行います。これらのサービス アカウントに適切なアクセス権があることを確認する必要があります。

図 1-4 [Service Log On] タブ



277787

## フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成

フォルダアテンダントの主要な機能の1つは、ディレクトリを監視し、新規または更新されたメディアファイルまたはXMLファイルが出現した際、自動的にジョブの処理を開始する機能です。監視対象のディレクトリに指定された条件を満たす新規または更新ファイルが出現した際、フォルダアテンダントは、プロファイルやプライオリティなど設定されているジョブパラメータ設定に基づき、自動的にジョブの処理を開始します。

最初に、視聴するディレクトリを [Folder Attendant Administration] ページで定義する必要があります。次に、ディレクトリごとに複数のウォッチを設定できます。



(注)

フィールドおよび設定に関する説明、ディレクトリおよびウォッチの作成、編集、削除方法に関する手順の詳細については、[Cisco.com](http://Cisco.com) またはフォルダアテンダントのユーザインターフェイスのメインメニューから、[Help] をクリックし、『*User Guide for Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照してください。

この項では、次のトピックを扱います。

- 「ディレクトリの作成」 (P.1-12)
- 「ウォッチの作成」 (P.1-13)

## ディレクトリの作成

### 手順

- ステップ 1** ツールボックスで、[Folder Attendant] をクリックします。
- ステップ 2** [Directory] ドロップダウンで、[Add] をクリックします (図 1-5 を参照)。[Directory] フィールド (図 1-6 を参照) が [Folder Attendant Administration] ページに表示されます。

図 1-5 ディレクトリの追加

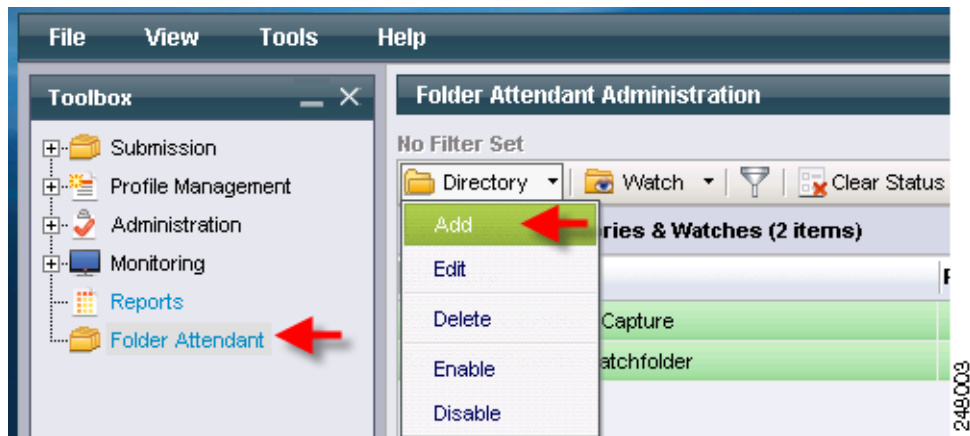
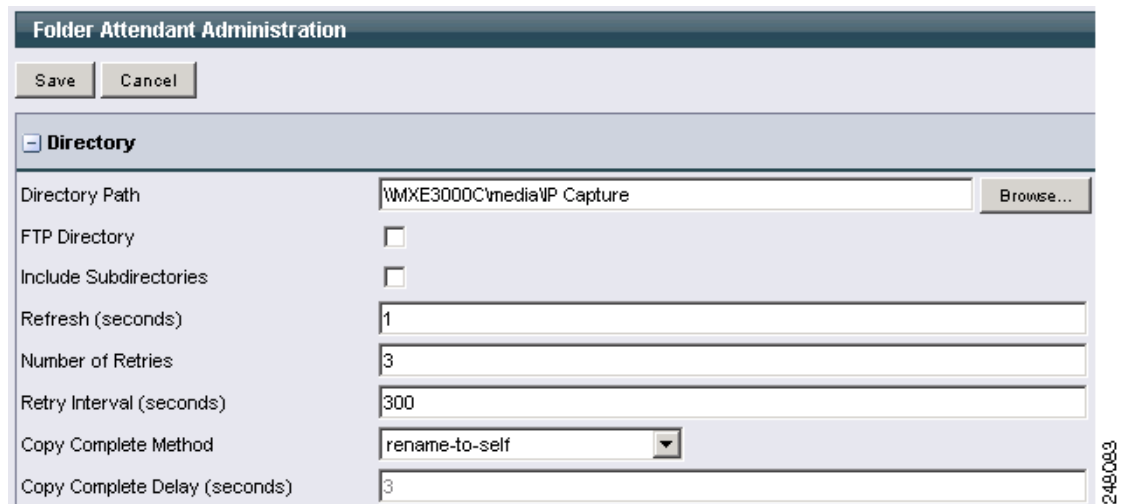


図 1-6 [Directory] フィールド



**ステップ 3** 各フィールドに適切な情報を入力し、[Save] をクリックします。



(注) [Directory Path] (図 1-6 を参照) にネットワークの場所が指定されている場合、サービス アカウントに、そのネットワークの場所への適切なアクセス権があることを確認してください。

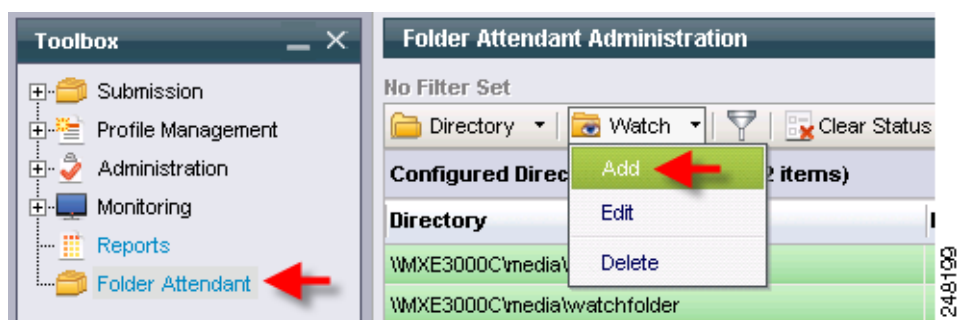
## ウォッチの作成

### 手順

**ステップ 1** ツールボックスで、[Folder Attendant] をクリックします。

**ステップ 2** ウォッチを追加するディレクトリを強調表示し、[Watch] ドロップダウンで [Add] をクリックします (図 1-7 を参照)。

図 1-7 ディレクトリの選択およびウォッチの追加



[Folder Attendant Administration] ページには、[Directory]、[Watch]、[Custom]、[Metadata]、[Override System Settings] の各セクション（[図 1-8](#)、[図 1-9](#)、および[図 1-10](#)を参照）が表示され、各セクションには一連のフィールドが含まれています。

図 1-8 [Watch] フィールドの入力

Watch Extensions*	.lst, .mov, .mpg, .mpeg, .mp3, .qt, .ref, .wmv
Is XML Watch	<input type="checkbox"/>
File Name Pattern	
Title	
Description	
Rating	none
Author*	admin
Copyright*	Cisco © 2009
Keywords	
Profile Space	System Default
Job Profile*	Blackberry 81xx WMV 16x9
Job Priority (1-100)*	2
Delete Source After Processing	<input type="checkbox"/>

図 1-9 [Custom Metadata] フィールドの入力

Custom User Metadata:			
Name	Description	Data Type	Value
cgms-code	CGMS-A code	Integer	
cgms-enabled	Enable CGMS-A Override	Integer	
ip-capture-name	IP capture name	String	

図 1-10 [Override System Settings] フィールドの入力

Override System Settings	
Input	
<input type="checkbox"/> Bumper/Trailer Directory	WMXE3000C\media
<input type="checkbox"/> Watermark Directory	WMXE3000C\media
Output	
<input type="checkbox"/> Flash7 Output Directory	WMXE3000C\output
<input type="checkbox"/> Flash8 Output Directory	WMXE3000C\output
	WMXE3000C\output

**ステップ 3** 各セクションを展開し、各フィールドに適切な情報を入力します。

**ステップ 4** ウォッチを保存します。

## Cisco MXE 3500 ツールへのアクセス

ほとんどのメンテナンスおよび運用タスクは Cisco MXE 3500 の Web UI を使用して実行します。しかし、以下のタスクは、その他の Cisco MXE 3500 ツールを使用して実行します。

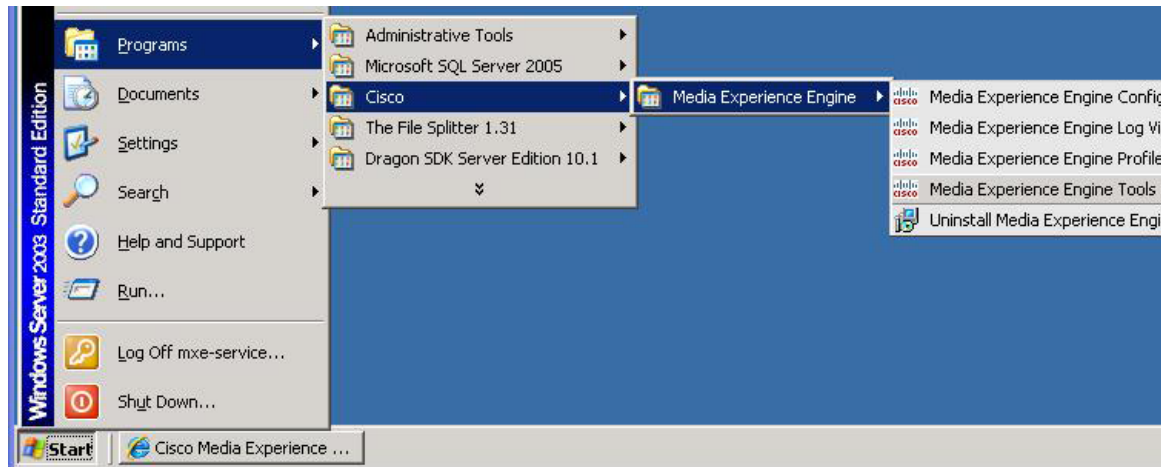
- 独立したプロファイルスペースの設定
- プリプロセッサクリップのプレビュー
- QuickTime エンコーダプロファイルの作成および編集
- 追加のデッキコントロールツールの使用

これらのツールには、Web ブラウザではなく Cisco MXE 3500 へ直接ログインし、[Start]、[Cisco]、[Media Experience Engine]、[Media Experience Engine Tools] の順にクリックするだけでアクセスできます。



(注) Cisco MXE 3500 ツールの詳細については、[Cisco.com](http://Cisco.com) の『*User Guide for Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照するか、UI の [Help] をクリックしてください。

図 1-11 Cisco Media Experience Engine ツール



## 管理ツールを使った Cisco MXE 3500 の設定



(注)

ここにはすべての可能な設定オプションがありますが、システムおよびユーザ設定は事前設定されています。また、一部の設定はスタンドアロンの Cisco MXE 3500 展開では設定できません。スタンドアロン設定に必要な初期設定は、システム管理 E メール通知の有効化だけです。その他の変更は必要ありません。ただし、パスワードの追加とデフォルトユーザアカウントの変更を推奨します。

ツールボックスの [Administration] セクションでは、以下の設定を設定できます。

- 「ホストの設定」(P.1-16)
- 「システム設定」(P.1-19)
- 「ユーザ設定」(P.1-25)
- 「ユーザメタデータ設定」(P.1-26)
- 「IP キャプチャ (ライブストリーミング) 設定」(P.1-27)



(注)

これらの設定を設定するには、管理ツール権限が必要です。

## ホストの設定

管理者は [Host Administration] ページを使用して、ネットワーク上のコンピュータと関係して動作するように Cisco MXE 3500 を設定できます。ホストとは、Cisco MXE 3500 を実行しているコンピュータまたはシステムを言い換えただけの用語です。[Host Administration] ページは、ホストが実行できる機能（マシンの負荷容量およびインストールされているソフトウェア）をエンタープライズコントロールシステム（ECS）に指示するために使用します。

ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [Host] をクリックして、[Host Administration] ページを表示します。そのホスト上で設定されているワーカーの概要情報が表示され、一部のフィールドを編集できます。

図 1-12 は、[Host Administration] ページを示しています。

図 1-12 [Host Administration] ページおよび設定

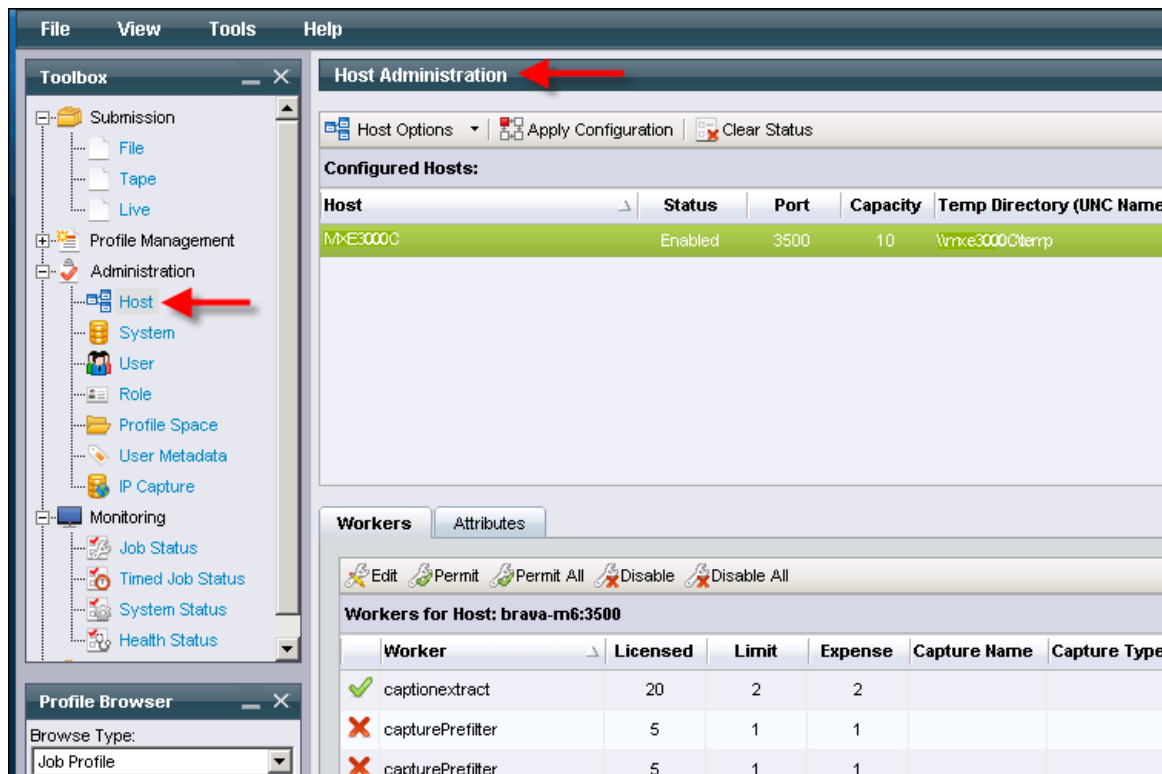


表 1-2 は、ホスト設定を説明しています。

表 1-2 ホスト設定および説明

設定	説明
Host	<p>Cisco MXE 3500 LCS を実行しているマシンの名前です。コンピュータ名とホスト名は正確に一致している必要があります。</p> <p>Windows Server コンピュータの名前を確認するには、デスクトップまたは [Start] メニューの [My Computer] アイコンを右クリックし、[Properties] を選択して、[Computer Name] を選択します。NT コンピュータの場合、[Network Neighborhood] を右クリックし、[Properties] を選択して、[Identification] タブを選択します。または、コマンドプロンプトで hostname コマンドを入力し、コンピュータ名を表示します。</p>
Status	<p>ホストの状態 ([Enabled] または [Disabled]) を表示します。</p> <p>状態を変更するには、[Host] を右クリックするか [Host Options] をクリックし、[Enabled] または [Disabled] を選択します。</p> <p>(注) 状態が無効になっている場合、その Cisco MXE 3500 ノードではジョブがスケジュールされません。</p>
Port	<p>LCN がリスンしている TCP ポートです。デフォルトは 3500 です。</p>

表 1-2 ホスト設定および説明 (続き)

Capacity	<p>表示されているホストの使用可能な合計処理容量に割り当てられている数値 (0 ~ 99) を反映しています。</p> <p>特定のホストの容量は任意の数値にできますが、すべてのホストで同じ基準に従った数値にすることが重要です。たとえば、ある特定のホストについて合計容量が 5 に設定されているか 10 に設定されているかは問題ではありません。ただし、2 倍の容量を持つ別のホストがある場合、両方のホストの容量が同じ条件で指定されている必要があります。つまり、性能が 2 倍のホストは、最初のホストが 5 であれば 10 の容量を持ち、最初のホストが 10 であれば 20 の容量を持つこととなります。</p> <p>容量は、プロセッサ容量に直接関係しますが、ドライブの速度やネットワークの輻輳などその他の要素の影響を受ける場合もあります。容量の値を割り当てる際は、特定のホストが効率的に実行できる作業量に影響するすべての要素を考慮する必要があります。</p> <p><b>(注)</b> 一般的に、5 ~ 30 の間の数値が最適です。この設定を 30 より大きな数値に設定すると、システム状態モニタの読み取りが難しくなる場合があります。</p>
Temp Directory (UNC Name)	<p>一時ファイルおよびプリプロセッサ出力を保存するディレクトリを、C:\Temp のように指定します。</p> <p>[Output Profile] の [Preprocessor] チェックボックスがオンになっていて、プリプロセッサ ファイルを保存するように指定されていない場合、一時ディレクトリへ書き込まれたファイルは、エンコード完了時に自動的に削除されます。</p>
Permitted?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 緑色のチェックマーク：右側に一覧表示されているワーカーが、表示されているホスト上で実行するように設定されており、現在オンラインでタスクを処理可能であることを示します。</li> <li>• 赤い X：次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– 右側に一覧表示されているワーカーが、表示されているホスト上で実行するように設定されているが現在オフラインであり、ECS で連絡を取ることができないことを示します。</li> <li>または</li> <li>– ワーカーが有効になっていないか、設定されていません。</li> </ul> </li> </ul>
Worker	<p>表示されているホスト上で実行するように設定されているすべてのワーカーの一覧を表示します。</p> <p>[Name]、[DV]、[DVCAM]、[Video Channel]、および [Audio Channel] の各フィールドは、ライブ キャプチャ ワーカーの場合のみ表示され、ホスト上のキャプチャカードの場所を指定します。チャンネルには 0 から順番に番号が付きま。</p>
Licensed	<p>このワーカー タイプ (プリフィルタ、エンコーダ、配布) の、システム (その ECS によって制御されるすべてのノード) 上で実行可能な同時インスタンス数を示します。この値は、Cisco MXE 3500 ライセンス ファイルで定義されています。</p>
Limit	<p>表示されているホスト上で同時に実行可能な特定のワーカーの最大数を表示します。</p> <p>最大限可能なパフォーマンスを発揮するため、Cisco MXE 3500 では [Limit] の設定は固定されています。</p>
Expense	<p>ワーカーの費用がホスト容量の割り当てとして表示されます。</p> <p>最大限可能なパフォーマンスを発揮するため、Cisco MXE 3500 では [Expense] の設定は固定されています。</p>

表 1-2 ホスト設定および説明 (続き)

Capture Name	この設定は、Cisco MXE 3500 Release 3.0 では使用できません。 ライブ キャプチャ ワーカーに関連付けられる名前を定義します。ホストは 2 つ以上のビデオ キャプチャを持つことができ、2 つ以上のライブ キャプチャ ワーカーを実行するように設定できるため、ワーカーが使用する特定のキャプチャカードを特定するために [Capture Name] が必要です。この設定は、ライブ キャプチャ ワーカーに対してのみ表示されます。
Capture Type	この設定は、Cisco MXE 3500 Release 3.0 では使用できません。 キャプチャカードのタイプ (DV、DVCAM、AJA-SDI、Custom など) です。カスタム以外の値を選択すると、オーディオおよびビデオチャンネルが事前定義されます。
Video CH/Audio CH	この設定は、Cisco MXE 3500 Release 3.0 では使用できません。 各ライブ キャプチャ ワーカーのビデオチャンネルおよびオーディオチャンネルを表示します。

## システム設定

システム管理は、Cisco MXE 3500 で使用するファイルおよびディレクトリの場所とパラメータを定義するために使用します。また、その他のシステム全体に関するパラメータの設定も含んでいます。

このページへは、**ツールボックス**で、[Administration] をクリックしてから [System] をクリックしてアクセスできます。



(注)

これらの設定を設定するには、管理ツール権限が必要です。

[System] ページは、以下のセクションで構成されています。

- 「[Input] セクション」 (P.1-19)
- 「[Output] セクション」 (P.1-21)
- 「[General Settings] セクション」 (P.1-22)
- 「[Status Settings] セクション」 (P.1-23)
- 「[Data Purging] セクション」 (P.1-24)
- 「[Audio Capture] セクション」 (P.1-25)

## [Input] セクション

図 1-13 は、[Input] セクションの設定を示しています。

図 1-13 入力設定

Input	
Bumper/Trailer Directory	WMXE3000C\media
Common Directories	WMXE3000C\media
Media Directory	WMXE3000C\media
Profile Directory	C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles
Valid Input Extensions	.mov; .avi; .mpg; .mpeg; .mpv; .mpa; .m1v; .m2v; .mp2; .mp4; .m4v; .omf; .ref; .lst; .raw; .saf; .c
Watermark Directory	WMXE3000C\media

表 1-3 は、これらの設定を説明しています。

表 1-3 入力設定および説明

設定	説明
Bumper/Trailer Directory	<p>Cisco MXE 3500 でエンコードされたクリップへのバンパーまたはトレーラとして使用できるファイルの場所を定義します。[Bumper/Trailer Directory] は、Cisco MXE 3500 が [Preprocessing Profile] ページの [Bumper Source] および [Trailer Source] フィールドに表示されるファイルを検索するディレクトリパスを制御します。</p> <p>[Bumper/Trailer Directory] の値は、ストレージエリア ネットワーク (SAN) を使用した展開または単一ノード展開の場合、ネットワーク共有またはマップされたドライブのいずれかへの UNC パスとして入力できます。[Bumper/Trailer Directory] の場所は、すべてのホストへアクセス可能な場所である必要があります。</p>
Common Directories	<p>メディアファイルが保存されるディレクトリを定義します。複数のディレクトリを定義できます。セミコロンを使用して、ディレクトリの入力を区切ります。</p> <p>[Common Directory] の値は、ストレージエリア ネットワーク (SAN) を使用した展開または単一ノード展開の場合、ネットワーク共有またはマップされたドライブのいずれかへの UNC パスとして入力できます。[Common Directory] の場所は、すべてのホストにアクセス可能である必要があります。</p>
Media Directory	<p>Cisco MXE 3500 へ送信されるメディアファイルが保存されるディレクトリを定義します。[Media Directory] は、Cisco MXE 3500 が [File Submission] ページの [Source] ボックスに表示されるファイルを検索するディレクトリパスを制御します。</p> <p>[Media Directory] の値は、ストレージエリア ネットワーク (SAN) を使用した展開または単一ノード展開の場合、ネットワーク共有またはマップされたドライブのいずれかへの UNC パスとして入力できます。[Media Directory] は、すべてのホストへアクセス可能な共有された場所である必要があります。</p> <p>入力された値が、推奨される UNC パスではない場合、[System Administration] ページにより警告が示されます。マップされたドライブを使用している場合、Cisco MXE 3500 と動作するように設定されているすべてのノードでは、同じドライブとしてマップされている場所が設定されている必要があります。</p>
Profile Directory	<p>ECS が、送信されたジョブを処理する際にジョブ プロファイルを検索するために使用するデフォルトパスを定義します。</p>

表 1-3 入力設定および説明（続き）

Valid Input Extensions	共通ディレクトリ内のファイルの有効な拡張子の一覧を定義します。このフィールドの一覧にある拡張子を持つファイルのみが、[File Job Submission] フォームの [Input] セクションの [Selection List] ウィンドウに表示されます。ファイル拡張子の入力、セミコロンで区切ります。
Watermark Directory	Cisco MXE 3500 でエンコードされたクリップへのウォーターマークとして使用できるファイルの場所を定義します。ウォーターマークは、Cisco MXE 3500 が、[Preprocessing Profile] ページの [Watermark] セクションの [Source] ドロップダウンに表示されるファイルを検索するディレクトリ パスを制御します。  [Watermark Directory] の値は、ストレージエリア ネットワーク (SAN) を使用した展開または単一ノード展開の場合、ネットワーク共有またはマップされたドライブのいずれかへの UNC パスとして入力できます。[Watermark Directory] の場所は、すべてのホストへアクセス可能な場所である必要があります。

## [Output] セクション

出力ディレクトリは、Cisco MXE 3500 が、Cisco MXE 3500 システムのライセンス レベルによってサポートされている各エンコード形式のファイルを保存するために使用する場所を定義します。エンコードされたファイルは、[Distribution] > [Output Profile] がジョブ プロファイルに含まれていないか、[Output Profile] の [Save Local File] のチェックボックスがオンになっているかのいずれかの場合、定義されたディレクトリに保存されます。

[Microsoft Output Directory] の値は、ストレージエリア ネットワーク (SAN) を使用した展開または単一ノード展開の場合、ネットワーク共有またはマップされたドライブのいずれかへの UNC パスとして入力できます。

図 1-14 は、[Output] セクションの設定を示しています。

図 1-14 出力設定

Output	
Flash7 Output Directory	\\MXE3000C\output
Flash8 Output Directory	\\MXE3000C\output
H264 Output Directory	\\MXE3000C\output
Indexing Output Directory	\\MXE3000C\output
Microsoft Output Directory	\\MXE3000C\output
MP3 Output Directory	\\MXE3000C\output
MPEG Output Directory	\\MXE3000C\output
QuickTime Output Directory	\\MXE3000C\output
QuickTime Temp Directory	\\MXE3000C\output
Real Output Directory	\\MXE3000C\output
Speech To Text Output Directory	\\MXE3000C\output
Thumbnail Output Directory	\\MXE3000C\output
WAV Output Directory	\\MXE3000C\output

248166

## [General Settings] セクション

図 1-15 は、[General Settings] セクションを示しています。

図 1-15 全般設定

General Settings	
Default Copyright	Cisco © 2009
LCS Disconnect Notifications	yes <input type="button" value="v"/>
LCS Notification Frequency (in secs)	300
License Expiration Warning (in days)	4
Simultaneous Node Restart Limit	3
SMTP Server	localhost
System Administrator Email	administrator@yourcompany.com

248117

表 1-4 は、これらの設定を説明しています。

表 1-4 全般設定および説明

設定	説明
Default Copyright	すべてのジョブ送信ページの著作権フィールドに反映される、デフォルトの著作権情報を定義します。[Default Copyright] は、システム全体に対する設定です。ユーザはジョブ送信時に、表示されているデフォルトの情報の上から入力することで、入力されている値を上書きできます。
LCS Disconnect Notifications	[yes] の場合、LCS が ECS から切断された際に、Cisco MXE 3500 は（システム管理者へ送信される）E メールを生成します。
LCS Notification Frequency	複数回切断が発生する場合に、LCS 切断の E メールが生成される頻度（秒）です。
License Expiration Warning	[System Administrator Email] フィールドに定義されている E メールアドレスにライセンスの有効期限の何日前に E メールを送信するか、期間（日）を定義します。
Simultaneous Node Restart Limit	キャプチャまたはストリーミング中に発生した問題による、IP キャプチャジョブの再起動可能回数を定義します。この回数を超えるとジョブはエラーになります。
SMTP Server	通知メッセージの送信に使用する E メールサーバを定義します。指定するサーバは、Simple Mail Transport Protocol (SMTP) サービスを実行し、E メールメッセージを処理可能である必要があります。
System Administrator Email	システム管理者への連絡に使用する E メールアドレスを保存します。この E メールアドレスは、通常の E メールアカウント、文字対応のポケットベルまたは携帯電話へのメッセージの送信に使用できます。システム管理者の E メールアドレスは、[From Email Address] または [To Email Address] で [System Administrator] オプションが選択されている場合、通知プロファイルで使用されます。

## [Status Settings] セクション

図 1-16 は、[Status Settings] セクションを示しています。

図 1-16 状態設定

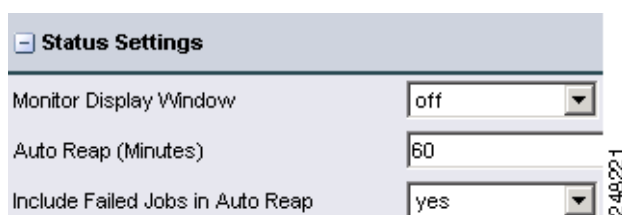


表 1-5 は、これらの設定を説明しています。

表 1-5 状態設定および説明

設定	説明
Monitor Window Display	この設定は、コンソール モードでのみ適用されます。[on] に設定されている場合、プリプロセッサやエンコーダなど一部のワーカで、モニタ ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、処理中のビデオが表示されます。 <b>(注)</b> このオプションは CPU サイクルやメモリなどのシステム リソースを使用するため、ジョブ処理が全体的に遅くなります。デバッグやエンコード出力の表示に使用できます。
Auto Reap (Minutes)	モニタリング ページのジョブ情報を消去するために使用する、自動リープの間隔を定義します。自動リープに定義されている時間によって、ジョブに関する情報がモニタリング ページに表示され、期限切れになるまでの時間の長さが決まります。自動リープの間隔は、ジョブが完了した時点からカウントされます。
Include Failed Jobs in Auto Reap	<ul style="list-style-type: none"> <li>[yes] : 失敗したジョブを自動リープに含めます。</li> <li>[no] : 失敗したジョブを自動リープに含めません。</li> </ul>

## [Data Purging] セクション

時間が経過すると、ジョブ、タスク、実行コンテキスト、実行コンテキスト ログ、関連テーブルなどのジョブ データが増え、ディスク領域がいっぱいになります。[Data Purging] セクションでは、適切なレコードが物理的に削除されるよう、自動でのシステム パージを設定できます。



**(注)** この機能を有効にしたり、変更をすぐに適用したりするには、[Data Purging] の値を初期設定またはリセットした後、CAM サービスを再起動してください。

図 1-17 は、[Data Purging] セクションを示しています。

図 1-17 データ パージ設定

表 1-6 は、これらの設定を説明しています。

表 1-6 データ パージ設定および説明

設定	説明
Purge Enabled	<ul style="list-style-type: none"> <li>[yes] : パージは有効です。</li> <li>[no] : パージは有効ではありません。</li> </ul>

表 1-6 データ パージ設定および説明 (続き)

Job Completion Duration	ジョブが完了してから削除されるまでの時間 (分) です。
Purge Batch Size	この設定により、削除されるジョブの数を制限します。
Time to Execute Purge	パージを行う時刻を設定します。
Purge Interval	パージとパージの間の日数を設定します。

## [Audio Capture] セクション

図 1-18 は、[Audio Capture] セクションを示しています。

図 1-18 オーディオ キャプチャ設定

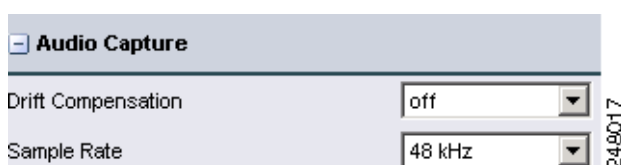


表 1-7 は、これらの設定を説明しています。

表 1-7 オーディオ キャプチャ設定および説明

設定	説明
Drift Compensation	ドリップダウンで [on] を選択し、オーディオおよびビデオの同期を有効にします。この設定は、アナログ オーディオ キャプチャカードを使用し、5 分を超える長さのクリップをキャプチャする場合のみ必要です。デジタル オーディオ入力 (内蔵 SDI、AES/EBU、または DV) を使用する場合は必要ありません。 <b>(注)</b> 長いアナログ オーディオ クリップをキャプチャする際、Cisco MXE 3500 によりフレームが挿入または削除され、長時間にわたってオーディオの同期が保たれます。この補正の効果は、一般的なストリーミング メディア出力 (320 × 240、15fps 以下のサイズまたはフレーム レート) では簡単には見えませんが、長いクリップを MPEG2 形式にエンコードする場合など、D1 クリップにおいてコマ落ちや音飛びが見られることがあります。デジタル オーディオ入力に切り替えることが、唯一の回避策です。
Sample Rate	オーディオ サンプリング レートを設定し、オーディオ品質、転送帯域幅、ファイルサイズ制限をトレード オフします。

## ユーザ設定

Cisco MXE 3500 では、事前にユーザが 1 つ定義されています。

- **admin** : デフォルトのパスワードも *admin* です。admin パスワードは、すぐに変更することを推奨します。



(注)

スタンドアロンの Cisco MXE 3500 設定では、1 つの管理ユーザが存在し、追加ユーザを作成するオプションはありません。役割の定義や Web UI 機能へのユーザ アクセスの制限などのユーザ管理は、Resource Manager 設定で利用できます。

## ユーザ メタデータ設定

この [User Metadata Administration] ページでは、各ジョブ（およびジョブ内の各タスク）と共に送信できる、カスタム名と値のペアを作成できます。このカスタム メタデータは、HTTP POST ジョブ ステータス XML など、詳細なジョブ ステータスで返されます。（送信する場合）このメタデータは各ジョブのデータベースにも保存され、（送信した組織やジョブのトラッキングなどの）レポートの目的に使用したり、（HTTP POST 経由で）他のシステム（Velocity など）に返す場合に使用できます。

[Data Type] は、[Integer]、[String]、[Decimal]、または [Enum]（列挙）として定義できます。このタイプは、[Job Submission] ページでのユーザ メタデータの値の入力時に、検証のために使用されます。

[User Metadata Administration] ページへは、ツールボックスで [Administration] をクリックしてから [User Metadata] をクリックしてアクセスできます。

[New User Metadata] または [Edit User Metadata] ポップアップ（[図 1-19](#) を参照）では、ユーザ メタデータ設定を作成および変更できます。

図 1-19 ユーザ メタデータ設定

**Edit User Metadata...**

\* Name:

\* Data type:

\* Description:

Enum Name:

Enum Value:

Enumeration Name/Value Pairs:		
Name	Value	Default

## IP キャプチャ（ライブストリーミング）設定

Cisco MXE 3500 では、UDP/IP を介してライブの MPEG-2 トランスポート ストリームを、この機能の一般的な使用を可能にする管理、設定、および状態と共に取り込むことができます。IP キャプチャは、MPEG2 ビデオおよび AC3/Layer2/AES3 オーディオ エッセンスでのトランスポート ストリームに限られます。

[IP Capture Configuration] ページは、管理者が IP キャプチャ ソースを追加、編集、または削除するために使用します。

このページへは、ツールボックスで [Administration] をクリックしてから [IP Capture] をクリックしてアクセスできます。

[New IP Capture Source] または [Edit IP Capture Source] ポップアップ（[図 1-20](#) を参照）では、プロフィール スペースを作成および変更できます。

図 1-20 IP キャプチャ ソース設定

表 1-8 は、これらの設定を説明しています。

表 1-8 IP キャプチャ ソース設定および説明

設定	説明
Name	一意の IP キャプチャ ソース名です。
IP Address	ソース UDP non-RTP MPEG2 TS ストリームのマルチキャスト IP アドレスです。このために予約されている IP アドレスは、224.0.0.0 ~ 239.255.255.255 です。
Port	バインドするマルチキャスト ポートです。値は 0 ~ 65535 の範囲です。
Program Map PID	MPEG-2 マルチプログラム トランスポート ストリーム (MPTS) で目的のプログラムのプログラム マップ テーブル パケット ID (PMT PID) を指定します。  MPEG-2 シングル プログラム トランスポート ストリーム (SPTS) の場合、または指定されていない場合、プログラム マップ テーブルの一覧の先頭にあるプログラムが自動的に使用されます。有効な値は 16 ~ 8190 の範囲です。



(注) ジョブを送信する前に、以下を実行する必要があります。

1. IP キャプチャ ソースを追加します。

2. [Host Administration] ページで、ipCapturePrefilter ワーカーを設定します。「ホストの設定」(P.1-16) も参照してください。
3. [Live Submission] ページで、ビデオ形式を IP キャプチャに設定し、定義した IP キャプチャ ソース、開始および終了トリガ タイプを選択します。[Live Submission] ページを表示するには、ツールボックスで [Submission] を展開し、[Live] をクリックします。

## Cisco MXE 3500 の展開の確認

システムが正しく展開および設定されていることを確認するには、以下のテストを実行します。

- 「テスト 1：ファイル ジョブ送信を使ったジョブの送信」(P.1-28)
- 「テスト 2：フォルダ アテンダントを使ったジョブの送信」(P.1-29)
- 「テスト 3：ライセンス機能が有効であることの確認」(P.1-29)

### テスト 1：ファイル ジョブ送信を使ったジョブの送信

#### 作業を開始する前に

C:\ProgramFiles\QuickTime フォルダで、Sample.mov を選択し、このファイルを C:\Media フォルダへコピーします。

#### 手順

- ステップ 1 UI にアクセスします。「Cisco MXE 3500 の Web ユーザ インターフェイスへのアクセス」(P.1-2) も参照してください。
- ステップ 2 ツールボックスで [Submission] を展開し、[File] をクリックします。[File Job Submission] ページが表示されます。
- ステップ 3 [Profile] セクションで、Cable\_Broadband.job.awp を選択します。
- ステップ 4 [Input] セクションで、次のタスクを実行します。
  - a. [Browse] をクリックします。
  - b. C:\Media\Sample.mov を選択します。
  - c. [Add File(s)] をクリックし、ファイルをメディア ディレクトリからメディア ソース ボックスへ移動します。
- ステップ 5 [Submit] をクリックします。
- ステップ 6 ツールボックスで、[View]、[Monitoring]、[Job Status] の順に選択します。
- ステップ 7 [Job Status] ウィンドウを監視して、ジョブが完了するのを確認します。
- ステップ 8 C:\Output フォルダへ移動し、Sample.Cable\_Broadband.Cable\_Broadband.wmv を見つけてファイルを再生します。Windows Media Player で警告メッセージやアラートが表示された場合は承諾します。

## テスト 2 : フォルダ アテンダントを使ったジョブの送信

### 作業を開始する前に

「テスト 1 : ファイル ジョブ送信を使ったジョブの送信」を完了したら、メディア ファイルを C:\media および C:\output フォルダから削除します。

### 手順

- 
- ステップ 1** フォルダ アテンダントにアクセスします。「Cisco MXE 3500 の Web ユーザー インターフェイスへのアクセス」(P.1-2) も参照してください。
- ステップ 2** フォルダ アテンダントが監視するディレクトリを追加します。
- ツールボックスで、[Folder Attendant] をクリックします。
  - [Directory] ドロップダウンメニューで、[Add] を選択します。[Directory] フィールドが [Folder Attendant Administration] ページに表示されます。
  - [Directory Path] フィールドに **C:\media** と入力し、必要に応じてその他のフィールドを入力します。
- ステップ 3** ディレクトリにウォッチを追加します。
- ツールボックスで、[Folder Attendant] をクリックします。
  - ウォッチを追加するディレクトリを強調表示し、[Watch] ドロップダウンで [Add] をクリックします。[Watch] フィールドが [Folder Attendant Administration] ページに表示されます。
  - [Watch Extensions] フィールドに、**MPEG-4** と入力します。
  - [Job Profile] フィールドで、[Cable\_Broadband] を選択します。
  - 必要に応じてその他のフィールドを入力します。
- ステップ 4** ツールボックスで、[Monitoring] を選択してから [Job Status] を選択します。
- ステップ 5** C:\ProgramFiles\QuickTime フォルダで、**Sample.mov** を選択し、このファイルを **C:\Media** フォルダへコピーします。
- ステップ 6** [Job Status] ペインを見て、ジョブが開始して完了するのを確認します。
- ステップ 7** C:\Output フォルダへ移動し、**Sample.Cable\_Broadband.Cable\_Broadband.wmv** ファイルを確認します。
- ステップ 8** 「テスト 1 : ファイル ジョブ送信を使ったジョブの送信」(P.1-28) で別のバージョンのファイルを作成した場合は、ファイルが再作成されたことを確かめるためタイム スタンプが最新になっていることを確認し、そのファイルを再生します。
- 

## テスト 3 : ライセンス機能が有効であることの確認

- 機能ライセンスをインストール後、ライブ取り込み機能が有効であることを確認するには、以下のセクションを参照してください。
  - 「ライブ WMV IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー」(P.3-3)
  - 「ライブ Flash 8 および H.264 IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー」(P.3-5)

- 機能ライセンスをインストール後、音声文字変換機能またはグラフィック オーバーレイ機能が有効であることを確認するには、以下のセクションを参照してください。
  - 「音声文字変換の設定ワークフロー」 (P.3-7)
  - 「グラフィック オーバーレイ機能の設定ワークフロー」 (P.3-9)



## CHAPTER 2

# Resource Manager 設定での Cisco MXE 3500 の展開

この項では、次のトピックを扱います。

- 「Cisco MXE 3500 Resource Manager 展開の概要」 (P.2-1)
- 「Resource Manager 展開に関するガイドライン」 (P.2-2)
- 「Resource Manager の展開手順の特定」 (P.2-3)
- 「Cisco MXE 3500 ユーザ インターフェイスへのアクセス」 (P.2-5)
- 「Resource Manager デバイスへのライセンスのインストール」 (P.2-5)
- 「システム管理 E メール通知の有効化」 (P.2-9)
- 「サービス アカウントの確認」 (P.2-9)
- 「フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成」 (P.2-10)
- 「管理ツールを使った Resource Manager デバイスの設定」 (P.2-10)
- 「Resource Manager の展開の確認」 (P.2-22)

## Cisco MXE 3500 Resource Manager 展開の概要

Cisco MXE 3500 Resource Manager (Resource Manager) 展開は、ユーザ アカウント、ジョブ プロファイル、ライセンス機能、ユーザ インターフェイスを一式持つ単一のグループとして実行中の、1 つまたは複数の Cisco MXE 3500 デバイスによって構成されます。また、Resource Manager は、特定の役割や、Web UI の特定のセクションへのアクセス権を持つユーザの作成などの、ユーザ管理機能を提供します。

Resource Manager 展開内には、単一の Resource Manager および最大 9 つの Resource Node、2 種類の Cisco MXE 3500 デバイスがあります。

- Resource Manager : 同じ Cisco MXE 3500 デバイス上で Enterprise Control System (ECS; エンタープライズ コントロール システム)、Configuration and Monitoring (CAM; 設定およびモニタリング) サービス、Local Control System (LCS; ローカル コントロール システム) コンポーネントを実行し、グループ内のすべての Resource Node を認識します。Resource Manager は、Resource Node にさまざまなトランスコード ジョブを割り当て、Resource Manager で Resource Node ごとに設定した容量、制限、費用の値に基づいてジョブ負荷を均一に分散することで、マルチノード マネージャとして機能します。

- Resource Node : LCS コンポーネントのみを実行し、トランスコードジョブを実行します。1 つの Resource Manager デバイスは、それ自身も 1 個のノードとして含めて、最大 10 個の Resource Node をサポートできます。Resource Manager は LCS も実行するため、Resource Node として機能しジョブを処理できることに留意してください。



(注)

Cisco MXE 3500 コンポーネントの詳細については、[Cisco.com](http://Cisco.com) の『*User Guide for Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照するか、UI の [Help] をクリックしてください。

## Resource Manager 展開に関するガイドライン

Resource Manager 展開には、次の設定に関するガイドラインおよび制約事項が適用されます。

- 購入したすべての Resource Node を含む Resource Manager 展開のためのライセンスを取得するには、次の手順に従って製品ライセンス登録を完了する必要があります。
  - Resource Manager デバイスの MAC アドレスを入力して、製品ライセンス登録を完了します。E メールでライセンスが届いたら、登録は完了です。このライセンスには Resource Node が関連付けられていないため、インストールしないでください。
  - Resource Manager で入力した際と同じ MAC アドレスを入力して、Resource Node の製品ライセンス登録を完了します。Resource Node が 1 つだけの場合は、このライセンスをインストールします。それ以外の場合は、ライセンスを廃棄します。
  - グループ内のすべての Resource Node について、1 つずつ登録処理を完了します。登録およびライセンスの取得が 1 つ終わってから、次の Resource Node の登録処理に進みます。最後の登録処理のライセンス ファイルを取得したら、ライセンス ファイルを保存します。これが、Resource Manager にインストールするライセンスです。
- Resource Manager および Resource Node は、出荷時に同じホスト名 **mxe3500** が設定されています。ホスト設定を設定する前に、ホスト名を各デバイス上で一意の名前に変更する必要があります。
- Resource Manager および Resource Node は、DHCP が有効の状態でも出荷されています。固定 IP アドレスを使用する場合は DHCP を無効にし、各デバイスに IP アドレスを割り当ててからホスト設定を設定します。
- ノードは、すべてネットワークを介して読み取り可能である必要があるため、Resource Manager で設定するパスはローカルパスではなく、すべて UNC パスにする必要があります。
- MXE-Service は、すべての MXE サービスにログインするために使用するデフォルトのユーザーアカウントです。MXE-Service には、すべての設定された UNC パスおよび IIS への読み取り/書き込みアクセス権がある必要があります。このアカウントは、削除または変更しないでください。**Cisco MXE 3500 が機能しなくなる場合があります。**
- メディア ファイルの転送のため、Resource Manager と Resource Node は同じ LAN 上に置くことを推奨します。ネットワーク遅延がある場合、ジョブがタイムアウトし、エラーが発生する可能性があります。
- Resource Node がエラーになった場合はジョブは失われず Resource Manager によって使用可能な他の Resource Node へ転送されますが、Resource Manager がエラーになった場合はフェールオーバーは発生しません。
- ライセンス機能を有効にするには、機能ライセンスを Resource Manager にインストールする必要があります。ライセンス機能の展開の詳細については、第 3 章「[Cisco MXE 3500 にライセンスされる機能の展開](#)」を参照してください。

## Resource Manager の展開手順の特定

Cisco MXE 3500 は、システムを使用する前に次の必須手順を実行する必要がある状態で出荷されています。また、省略可能な展開手順も含まれています。



(注) 展開を開始する前に、「[3 つのノードの Resource Manager の展開ワークフロー例](#)」(P.2-3) の展開ワークフロー例を参照してください。

### 必須の展開手順

- 「[Resource Manager デバイスへのライセンスのインストール](#)」(P.2-5)
- 「[入力および出力メディア ディレクトリ](#)の設定」(P.2-9)
- 「[システム管理 E メール通知の有効化](#)」(P.2-9)
- 「[Resource Manager 展開のシステム設定](#)」(P.2-15) の設定
- 「[ユーザ設定](#)」(P.2-18) の設定

### 省略可能な展開手順

- 「[サービス アカウントの確認](#)」(P.2-9)
- 「[フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成](#)」(P.2-10)
- 「[Resource Manager の展開の確認](#)」(P.2-22)
- 「[Cisco MXE 3500 にライセンスされる機能の展開](#)」(P.3-1)

## 3 つのノードの Resource Manager の展開ワークフロー例

次の表では、Resource Manager ノードと 2 つの Resource Node を含む、3 つのノードの Resource Manager を新しく展開する場合に完了しなければならない必須手順を示したワークフロー例について説明します。

一	タスク	リソース
ステップ 1	次の手順に従って、Resource Manager デバイスをセットアップします。 a. 一意の TCP/IP ホスト名を設定します。 b. 固定 IP アドレスを使用する場合、DHCP を無効にして IP アドレスを割り当てます。	『 <a href="#">Quick Start Hardware Installation Guide for Cisco Media Experience Engine 3500</a> 』
ステップ 2	次の手順に従って、Resource Node をセットアップします。 a. 一意の TCP/IP ホスト名を設定します。 b. 固定 IP アドレスを使用する場合、DHCP を無効にして IP アドレスを割り当てます。	『 <a href="#">Quick Start Hardware Installation Guide for Cisco Media Experience Engine 3500</a> 』

## Resource Manager の展開手順の特定

一	タスク	リソース
ステップ 3	<p>次の手順に従って、Resource Manager ライセンスを入手します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Resource Manager MAC アドレスを入手します。 注：要求する各ライセンスについて、同じ MAC アドレスを使用する必要があります。</li> <li>Resource Manager デバイスの PAK を入手します。</li> <li>Resource Manager デバイスを Cisco.com で登録します。</li> <li>Resource Manager ライセンスを E メールで入手します。このライセンスは、1 つのノードとしての Resource Manager デバイスに対してのみ有効です。このライセンスを廃棄します。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトウェア ライセンス権利証明書</li> <li>Resource Manager の製品認証キー (PAK)</li> <li>「Resource Manager MAC アドレスの入手」 (P.2-6)</li> <li>「Resource Manager のライセンスの取得」 (P.2-7)</li> </ul>
ステップ 4	<p>次の手順に従って、2 つの追加の Resource Node を含む、更新された Resource Manager ライセンスを入手します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Resource Manager ライセンスを入手する際に使用した Resource Manager MAC アドレスを入手します。</li> <li>Resource Node の PAK を入手します。</li> <li>Resource Manager デバイス用の同じ MAC アドレスを使用し、Resource Node を Cisco.com で登録します。</li> <li>更新された Resource Manager ライセンスを E メールで入手します。このライセンスは Resource Manager ノードと 1 つの Resource Node の合計 2 つのライセンス取得済みノードに対してのみ有効です。このライセンスを廃棄します。</li> <li>2 番目の Resource Node について、手順 1～手順 3 を繰り返します。この際、正しい PAK および MAC アドレスを使用します。</li> <li>更新された Resource Manager ライセンスを E メールで入手します。このライセンスは Resource Manager と 2 つの Resource Node の合計 3 つのライセンス取得済みノードに対して有効です。これが、Resource Manager デバイスにインストールするライセンスです。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトウェア ライセンス権利証明書</li> <li>Resource Node の PAK</li> <li>「Resource Manager MAC アドレスの入手」 (P.2-6)</li> <li>「Resource Manager のライセンスの取得」 (P.2-7)</li> </ul>

一	タスク	リソース
ステップ5	Resource Manager デバイスにライセンスをインストールします。	「Resource Manager へのライセンスのインストール」(P.2-8)
ステップ6	Resource Manager デバイスで、次の必須設定を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>入力および出力ディレクトリ</li> <li>E メール サーバ</li> <li>システム設定</li> <li>ホスト設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「入力および出力メディア ディレクトリの設定」(P.2-9)</li> <li>「システム管理 E メール通知の有効化」(P.2-9)</li> <li>「Resource Manager 展開のシステム設定」(P.2-15) の設定</li> <li>「ユーザ設定」(P.2-18) の設定</li> </ul>

## Cisco MXE 3500 ユーザ インターフェイスへのアクセス

Resource Manager デバイスでのユーザ インターフェイスへのアクセスの詳細については、第1章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「Cisco MXE 3500 の Web ユーザ インターフェイスへのアクセス」(P.1-2) を参照してください。



- (注)
- Cisco MXE 3500 ユーザ インターフェイスへは、Resource Manager デバイスでのみアクセスできます。Resource Node ではアクセスできません。
  - 各アプライアンスのデスクトップには、アプライアンスの Cisco MXE 3500 デバイス タイプを特定し識別しやすくするため、「Resource Manager」または「Resource Node」のどちらかのグラフィックが表示されます。このデスクトップ背景イメージは、削除しないことを推奨します。また、有効化されているサービスによってノードの機能を確認することもできます。「サービスアカウントの確認およびデバイス タイプの特定」(P.1-9) も参照してください。

## Resource Manager デバイスへのライセンスのインストール

Resource Manager 展開の場合、ライセンスは Resource Manager デバイスにのみインストールします。Resource Node にはライセンスをインストールする必要はありませんが、グループ内の各ノードを登録し、購入したすべてのノードをサポートする Resource Manager ライセンスを入手する必要があります。

この項では、次のトピックを扱います。

- 「Resource Manager MAC アドレスの入手」(P.2-6)
- 「Resource Manager のライセンスの取得」(P.2-7)
- 「Resource Manager へのライセンスのインストール」(P.2-8)

## Resource Manager MAC アドレスの入手



(注)

ライセンス処理では、Cisco MXE 3500 の 2 つのイーサネット MAC アドレスのうちどちらかを指定する必要があります。また、使用する MAC アドレスを一度選択すると、初期またはアップグレードのすべてのライセンス要求において、同じ MAC アドレスを使用する必要があります。

### 手順

**ステップ 1** Resource Manager デバイスを起動します。



ヒント

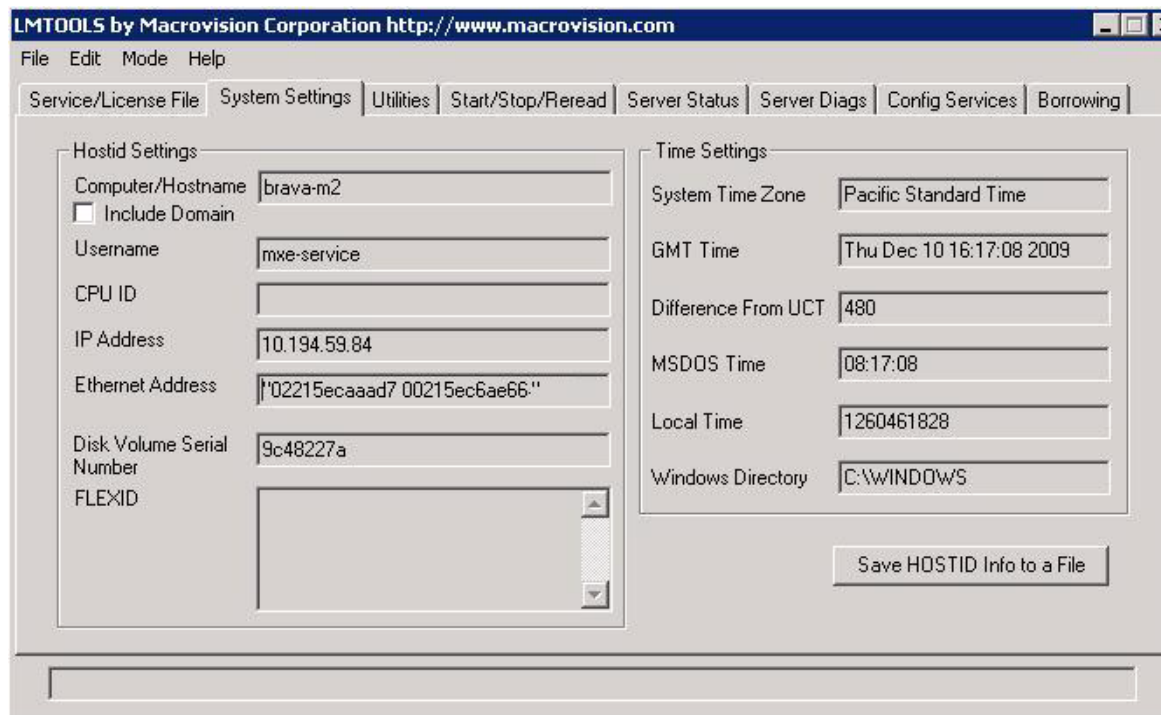
このデバイスのデスクトップ イメージには、Resource Manager が表示されています。

**ステップ 2** C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\bin へ移動します。

**ステップ 3** lmttools.exe をダブルクリックします。

**ステップ 4** [System Settings] タブを選択します (図 2-1 を参照)。

図 2-1 [System Settings] タブ



- ステップ 5** [Ethernet Address] フィールドで引用符の間に表示されているイーサネットアドレスのうち 1 つをコピーします。この数字を使用して Cisco MXE 3500 Resource Manager のライセンスを生成します。「Resource Manager のライセンスの取得」(P.2-7) も参照してください。



**ヒント** MAC アドレスおよびイーサネットアダプタの状態は、コマンドプロンプトを起動して **ipconfig /all** コマンドを実行することで確認できます。コマンドプロンプトは、デスクトップの [Command Prompt] ショートカットをダブルクリックして起動します。コマンド出力には、各イーサネットアダプタの状態および MAC アドレス（「Physical Address」の下）が表示されます。

## Resource Manager のライセンスの取得

Cisco.com Web サイトから Resource Manager 展開のライセンスを取得するには、まず Resource Manager デバイスを登録し、次に Resource Manager デバイスの MAC アドレスを使用して、購入した各 Resource Node を登録する必要があります。

この登録処理は、購入した Resource Node の数を Resource Manager デバイスの MAC アドレスに関連付けるために必要です。この関連付けを行うと、登録で使用する E メールアドレスに複数のライセンスが送信されます。



(注)

ライセンス処理では、Cisco MXE 3500 の 2 つのイーサネット MAC アドレスのうちどちらかを指定する必要があります。また、MAC アドレスを一度指定すると、初期またはアップグレードのどちらのライセンス要求においても、同じ MAC アドレスを指定する必要があります。

最初に Resource Manager デバイスの登録を完了し、その登録処理のライセンスを入手する必要があります。その後、Resource Node を登録し、1 つずつ登録を完了して、更新されたライセンス ファイルを入手します。最後に完了した登録処理で受け取ったライセンスを、Resource Manager デバイスにインストールします。

### 作業を開始する前に

- ライセンス Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のアカウントが必要です。
- Resource Manager デバイスの Cisco MXE 3500 MAC アドレスを入手します。「Resource Manager MAC アドレスの入手」(P.2-6) も参照してください。
- Resource Manager デバイスと Resource Node の製品認証キー (PAK) を入手します。PAK は、デバイスに付属するソフトウェア ライセンス権利証明書に記載されています。
- Resource Manager 展開のライセンス処理手順を理解していることを確認します。「Resource Manager 展開に関するガイドライン」(P.2-2) も参照してください。

### 手順

- ステップ 1** <http://www.cisco.com/go/license> にアクセスします。
- ステップ 2** Resource Manager デバイスの PAK を入力します。または、すでに Resource Manager のライセンスを取得している場合は、Resource Node の PAK を入力します。
- ステップ 3** Resource Manager デバイスを使用して登録 Web サイトにアクセスしている場合は、Enter キーを押します。そうでない場合は、[Submit] ボタンをクリックします。

- ステップ 4** 画面の指示に従って、プロンプトが表示されたら、Resource Manager デバイスの MAC アドレスを使用します。
- ステップ 5** 登録後、ライセンス ファイルが添付された E メールが届きます。
- a. ライセンス ファイルが Resource Manager デバイスのみに対するものである場合は、このライセンスを破棄します。Resource Node の PAK を使用し、**ステップ 1** に戻って Resource Node の登録処理を完了します。
  - b. このライセンスファイルが Resource Node に対するもので、登録する追加の Resource Node がある場合は、このライセンスを破棄します。Resource Node の PAK を使用し、**ステップ 1** に戻って別の Resource Node の登録処理を完了します。
  - c. このライセンスファイルが最後の Resource Node に対するものの場合は、ライセンス ファイルを保存します。このライセンス ファイルには、グループ内の Resource Manager デバイスと各 Resource Node に対する有効なライセンスが含まれているため、このライセンスを Resource Manager デバイスにインストールします。



(注) ライセンス ファイルは安全な場所に保存することを推奨します。ライセンス ファイルを紛失すると、再度複製を入手するのに最大 1 営業日かかる場合があります。

#### トラブルシューティングに関するヒント

登録 Web サイトに関して問題が発生した場合や、その他の質問がある場合に、すぐに回答を得るには、<http://tools.cisco.com/ServiceRequestTool/create/DefineProblem.do> の TAC Service Request ツールを使用して Service Request を開きます。

有効な Cisco ID およびパスワードをお手元にご用意ください。または、以下の電話番号のいずれかに問い合わせることもできます。

- アジア太平洋 : +61 2 8446 7411 (オーストラリア : 1 800 805 227)
- EMEA : +32 2 704 55 55
- 米国 : 1 800 553-2447

Cisco TAC の連絡先一覧は、<http://www.cisco.com/techsupport/contacts> で確認できます。

## Resource Manager へのライセンスのインストール

#### 作業を開始する前に

- Resource Manager デバイスの Cisco MXE 3500 ライセンス ファイルを入手します。  
「Resource Manager のライセンスの取得」(P.2-7) も参照してください。
- ライセンス ファイルは、Resource Manager デバイスのみにインストールします。

#### 手順

- ステップ 1** Resource Manager デバイスにログインします。
- ステップ 2** 生成された mxe.lic ファイルを、ライセンス ディレクトリ (C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license) にコピーします。

ステップ 3 Resource Manager デバイスを再起動します。

## 入力および出力メディア ディレクトリの設定

Resource Manager で入力および出力メディアを管理するには、入力および出力ディレクトリを設定する必要があります。

### 作業を開始する前に

設定するディレクトリが存在し、共有されていることを確認します。

### 手順

- ステップ 1 Resource Manager で <http://localhost/mxeUI> から UI にログインします。または、デスクトップの [Cisco MXE Web Interface] アイコンをクリックします。
- ステップ 2 ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [System] をクリックします。
- ステップ 3 [Input] セクションの以下のフィールドに、ノードが入力メディアを取得するディレクトリを入力します。詳細については、「[\[Input\] セクション](#)」(P.2-15) を参照してください。
  - [Bumper]
  - [common]
  - [Media]
  - [Watermark]
- ステップ 4 [Output] セクションのすべてのフィールドに、ノードが出力メディアを保存するディレクトリを入力します。詳細については、「[\[Output\] セクション](#)」(P.2-17) を参照してください。
- ステップ 5 [Save] をクリックします。

## システム管理 E メール通知の有効化

Resource Manager デバイスでの E メール通知の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「[システム管理 E メール通知の有効化](#)」(P.1-7) を参照してください。



(注)

ジョブの完了または失敗の通知を受け取ることができるように、E メール サーバを設定することを推奨します。

## サービス アカウントの確認

Resource Manager または Resource Node のサービス アカウントの詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「[サービス アカウントの確認およびデバイス タイプの特定](#)」(P.1-9) を参照してください。



(注)

MXE-Service には、すべての設定された UNC パスおよび IIS への読み取り / 書き込みアクセス権がある必要があります。



ヒント

どのサービスが有効になっているかを確認することで、Cisco MXE 3500 のデバイス タイプ (Resource Manager または Resource Node) を判断できます。

## フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成

Resource Manager デバイスでのフォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成」(P.1-11) を参照してください。



(注)

サービス アカウントに、フォルダ アテンダント ディレクトリのディレクトリ パスとして設定する UNC パスへの、適切なアクセス権があることを確認してください。「サービス アカウントの確認およびデバイス タイプの特定」(P.1-9) も参照してください。

## 管理ツールを使った Resource Manager デバイスの設定

ツールボックスの [Administration] セクションでは、以下の設定を設定できます。

- 「Resource Manager 展開のホスト設定」(P.2-10)
- 「Resource Manager 展開のシステム設定」(P.2-15)
- 「ユーザ設定」(P.2-18)
- 「役割設定」(P.2-19)
- 「プロファイル スペース設定」(P.2-21)
- 「ユーザ メタデータ設定」(P.2-21)
- 「IP キャプチャ設定」(P.2-22)



(注)

これらの設定を設定するには、管理ツール権限が必要です。

## Resource Manager 展開のホスト設定

[Host Administration] ページでは、管理者がネットワーク上のコンピュータで作業するように Cisco MXE 3500 を設定できます。ホストとは、Cisco MXE 3500 を実行しているコンピュータまたはシステムを言い換えただけの用語です。[Host Administration] ページは、ホストが実行できる機能 (マシンの負荷容量およびインストールされているソフトウェア) をエンタープライズ コントロール システム (ECS) に指示するために使用します。

このページへは、ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [Host] をクリックしてアクセスできます。ホストを選択して、そのホスト上で設定されているワーカーの概要情報の表示、ホストの削除、ホストの設定の編集を実行します。

「Resource Manager 展開のホスト設定の設定」(P.2-14) および「容量、費用、および制限について」(P.2-13) も参照してください。

図 2-2 は、ホスト設定を示しています。

図 2-2 Resource Manager 展開のホスト設定

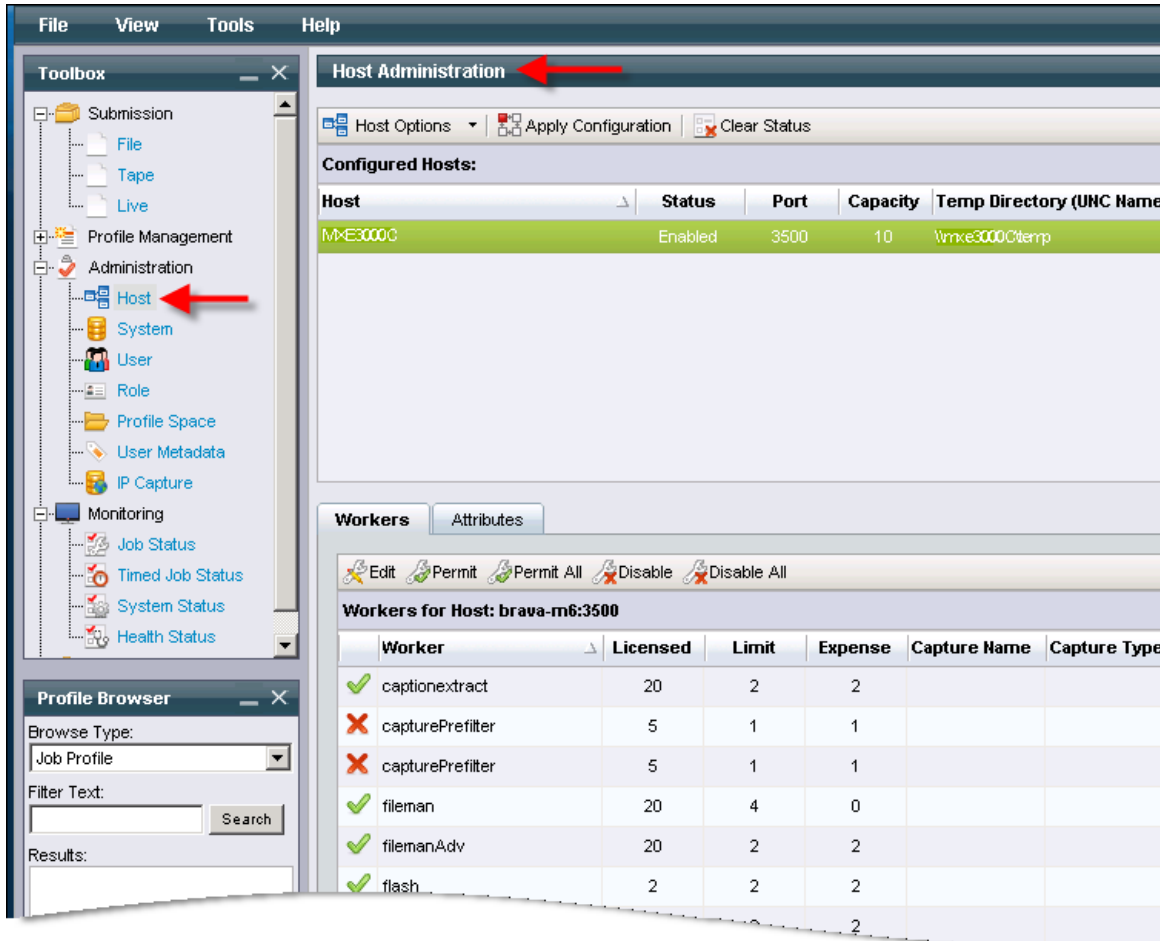


表 2-1 は、ホスト設定を説明しています。

表 2-1 Resource Manager 展開のホスト設定および説明

設定	説明
Host	<p>Resource Manager または Resource Node デバイスのホスト名またはコンピュータ名です。コンピュータ名とホスト名は正確に一致している必要があります。</p> <p><b>(注)</b> グループ内の Resource Manager および各 Resource Node は、一意の名前を持つ必要があります。</p> <p><b>ヒント</b> Windows Server コンピュータの名前を確認するには、デスクトップまたは [Start] メニューの [My Computer] アイコンを右クリックし、[Properties] を選択して、[Computer Name] を選択します。または、コマンドプロンプトで hostname コマンドを入力し、コンピュータ名を表示します。</p>

表 2-1 Resource Manager 展開のホスト設定および説明 (続き)

Status	<p>ホストの状態 ([Enabled] または [Disabled]) を表示します。</p> <p>状態を変更するには、[Host] を右クリックするか [Host Options] をクリックし、[Enabled] または [Disabled] を選択します。</p> <p>(注) 状態が無効になっている場合、その Cisco MXE 3500 ノードではジョブがスケジューリングされません。</p>
Port	<p>LCN がリスンしている TCP ポートです。デフォルトは 3500 です。</p>
Capacity	<p>割り当てられている数値が、表示されているホストの使用可能な合計処理容量に反映されます。</p> <p>有効な値は、0 ~ 99 です。</p> <p>特定のホストの容量は任意の数値にできますが、すべてのホストで同じ基準に従った数値にすることが重要です。たとえば、ある特定のホストについて合計容量が 5 に設定されているか 10 に設定されているかは問題ではありません。ただし、2 倍の容量を持つ別のホストがある場合、両方のホストの容量が同じ条件で指定されている必要があります。つまり、性能が 2 倍のホストは、最初のホストが 5 であれば 10 の容量を持ち、最初のホストが 10 であれば 20 の容量を持つこととなります。</p> <p>容量は、プロセッサ容量に直接関係しますが、ドライブの速度やネットワークの輻輳などその他の要素の影響を受ける場合もあります。容量の値を割り当てる際は、特定のホストが効率的に実行できる作業量に影響するすべての要素を考慮する必要があります。</p> <p>(注) 一般的に、5 ~ 30 の間の数値が最適です。この設定を 30 より大きな数値に設定すると、システム状態モニタの読み取りが難しくなる場合があります。</p> <p>「容量、費用、および制限について」(P.2-13) および図 2-2 「Resource Manager 展開のホスト設定」も参照してください。</p>
Temp Directory (UNC Name)	<p>ジョブ処理中に一時ファイルおよびプリプロセッサ出力を保存するディレクトリを指定します。</p> <p>このディレクトリは、他のホストがこのディレクトリに書き込まれたファイルにアクセスできるように、ローカルパスではなく UNC パスである必要があります。</p> <p>また、MXE-Service には、このディレクトリへの読み取り/書き込みアクセス権がある必要があります。</p> <p>(注) [Output] タブの [Preprocessor] チェックボックスがオンになっていて、プリプロセッサ ファイルを保存するように指定されていない場合、一時ディレクトリへ書き込まれたファイルは、エンコード完了時に自動的に削除されます。</p>
Worker Status	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 緑色のチェックマーク：右側に一覧表示されているワーカーが、表示されているホスト上で実行するように設定されており、現在オンラインでタスクを処理可能であることを示します。</li> <li>• 赤い X：次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– 右側に一覧表示されているワーカーが、表示されているホスト上で実行するように設定されているが現在オフラインであり、ECS で連絡を取ることができないことを示します。</li> <li>または</li> <li>– ワーカーが有効になっていないか、設定されていません。</li> </ul> </li> </ul>
Worker	<p>表示されているホスト上で実行するように設定されているすべてのワーカーの一覧を表示します。</p>

表 2-1 Resource Manager 展開のホスト設定および説明 (続き)

Licensed	このワーカー タイプ (プリフィルタ、エンコーダ、配布) の、システム (その ECS によって制御されるすべてのノード) 上で実行可能な同時インスタンス数を示します。この値は、Cisco MXE 3500 ライセンス ファイルで定義されています。
Limit	表示されているホスト上で同時に実行可能な特定のワーカーの最大数を表示します。有効な値は、0 ~ 99 です。 「容量、費用、および制限について」(P.2-13) および図 2-2 「Resource Manager 展開のホスト設定」も参照してください。
Expense	ワーカーの費用がホスト容量の割り当てとして表示されます。有効な値は、0 ~ 99 です。 「容量、費用、および制限について」(P.2-13) および図 2-2 「Resource Manager 展開のホスト設定」も参照してください。
Capture Name	この設定は、Cisco MXE 3500 Release 3.0 では使用できません。 ライブ キャプチャ ワーカーに関連付けられる名前を定義します。ホストは 2 つ以上のビデオ キャプチャを持つことができ、2 つ以上のライブ キャプチャ ワーカーを実行するように設定できるため、ワーカーが使用する特定のキャプチャ カードを特定するために [Capture Name] が必要です。この設定は、ライブ キャプチャ ワーカーに対してのみ表示されます。
Capture Type	この設定は、Cisco MXE 3500 Release 3.0 では使用できません。 キャプチャ カードのタイプ (DV、DVCAM、AJA-SDI、Custom など) です。カスタム以外の値を選択すると、オーディオおよびビデオ チャンネルが事前定義されます。
Video CH/Audio CH	この設定は、Cisco MXE 3500 Release 3.0 では使用できません。 各ライブ キャプチャ ワーカーのビデオ チャンネルおよびオーディオ チャンネルを表示します。

## 容量、費用、および制限について



(注)

ワーカーや ECS など、Cisco MXE 3500 コンポーネントの詳細については、Cisco.com の『*User Guide for Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照するか、UI の [Help] をクリックしてください。

「Resource Manager 展開のホスト設定」(P.2-10) も参照してください。

ECS は容量と費用を使用して、タスクを特定のホスト上の特定のワーカーに割り当て、エンコードプロセスでの効率的なジョブの進行を維持し、単一のホストの負荷が過剰になることがないようにして、ボトルネックの発生を防ぎます。

容量は、プロセッサ容量に直接関係しますが、ドライブの速度やネットワークの輻輳などその他の要素の影響を受ける場合もあります。容量の値を割り当てる際は、特定のホストが効率的に実行できる作業量に影響するすべての要素を考慮する必要があります。

特定のホストの容量は任意の数値にできますが、すべてのホストで同じ基準に従った数値にする必要があります。たとえば、ある特定のホストについて合計容量が 5 に設定されているか 10 に設定されているかは問題ありませんが、2 倍の容量を持つ別のホストがある場合、両方のホストの容量が同じ条件で指定されている必要があります。つまり、性能が 2 倍のホストは、最初のホストが 5 であれば 10 の容量を持ち、最初のホストが 10 であれば 20 の容量を持つことになります。一般的に、5 ~ 30 の間の数値が適切です。

ワーカーの費用は、次の例に示すように、ホスト容量の割り当てとして示されます。

ホスト容量	必要な合計処理能力の割り当て	ワーカーの費用
100	2 分の 1	50
6	2 分の 1	3
9	3 分の 1	3
6	3 分の 1	2

費用はワーカーのタイプごとに異なり、特定のタイプのワーカーが必要とする処理能力は、いつも同じとは限りません。たとえば、MPEG エンコードはマイクロソフトのエンコードよりワーカーの負荷が大きいので、MPEG のワーカーにはマイクロソフトのワーカーより高い費用が割り当てられます。

制限は、容量および費用と共に使用して、費用の違いを調整します。たとえば、ある特定のタイプのワーカーを実行すると一定の費用量がかかり、これを 2 つ実行すると 2 倍の量が必要になります。しかし、一定の数を超えると効率性が低下する可能性があります。同じワーカーの 4 つのインスタンスがトリガされるまではすべてが良好ですが、これを超えると、ホストが完全にダウンして性能が損なわれます。この特定のワーカーの制限を 3 に設定すると、4 つのインスタンスの通常のコストを許容できる十分な容量がある場合であっても、ECS で 4 つのワーカーがトリガされなくなります。4 番目のワーカーがトリガされると費用が急激に増加するため、制限を 3 に設定することでワーカーの通常のコストのしきい値を作成し、同時に実行できるインスタンスの数に上限を設定します。

## Resource Manager 展開のホスト設定の設定

以下の手順に従って、Resource Manager デバイスを含む Resource Manager 展開内のすべてのノードのホスト設定を設定します。

「容量、費用、および制限について」(P.2-13) および「Resource Manager 展開のホスト設定」(P.2-10) も参照してください。

### 作業を開始する前に

1. TCP/IP ホスト名を各 Cisco MXE 3500 デバイス上で一意の名前に変更したことを確認します。これらの名前は、ホスト設定の設定中に使用します。
2. ホスト設定の設定は、Resource Manager デバイスおよび各 Resource Node の両方で必要です。
3. Resource Manager デバイスのホスト設定は、Resource Node の設定を設定する前に行います。

### 手順

- ステップ 1 ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [Host] をクリックします。「ユーザ設定」(P.2-18) も参照してください。
- ステップ 2 次の手順に従って、新しいホストを作成します。
  - a. [Host Administration] メニューから、[Host Options] の右にある矢印をクリックしてから、[New] をクリックします。[New Host] ポップアップが表示されます。



(注) 最初に Resource Manager デバイスのホスト設定を設定し、次に Resource Node の設定を設定します。

- a. [Host Name] フィールドにホスト名を入力します。この名前は、Resource Manager を設定した場合、Resource Manager デバイスまたは Resource Node 用に設定した、有効なコンピュータ名である必要があります。

- c. [Capacity] を入力します。
- d. [Temp Directory] フィールドに、手順 b. で設定した、ホスト上の一時フォルダの UNC パスを、`\\host_name\temp` のように入力します。
- e. [Create] をクリックします。[Hosts] ペインに新しいホストが表示されます。

**ステップ 3** 次の手順に従って、[ステップ 2](#) で作成したホストにワーカーを追加します。

- a. ホストに割り当てる各ワーカーを選択します。
- b. [Permit] をクリックするか、[Permit All] をクリックします。



**(注)** 表示されるワーカーのリストは、ライセンス レベルによって制御されます。[Permit All] オプションを選択した場合、すべての非ライブ ワーカーのみが許可されます。ライブ ワーカーは、追加データを手作業で入力する必要があります。

**ステップ 4** 次の手順に従って、各ワーカーの [Limit]、[Expense]、およびライブ キャプチャ情報を設定します。

- a. 各ワーカーをクリックし、[Edit] をクリックします。[Edit worker] ポップアップが表示されます。
- b. [Limit] および [Expense] を入力します。
- c. ライブ キャプチャの場合は、[Capture Name]、[Capture Type]、[Video CH]、および [Audio CH] を入力します。
- d. [Save] をクリックします。

**ステップ 5** ページ上部の [Apply Configuration] をクリックします。

**ステップ 6** (省略可能) ツールボックスで、[Monitoring] を選択してから [System Status] を選択し、ノードが正常に追加されていることを確認します。ホスト名が [System Status Monitor] の最初の列に表示されます。

**ステップ 7** 購入した各ノードについて、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返します。

## Resource Manager 展開のシステム設定

ツールボックスの [Administration] セクションは、Cisco MXE 3500 Resource Manager デバイスの設定に使用します。これらの設定を設定するには、管理ツール権限が必要です。

このページへは、ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [System] をクリックしてアクセスできます。

[System] ページは、以下のセクションで構成されています。

- 「[Input] セクション」 (P.2-15)
- 「[Output] セクション」 (P.2-17)
- 「[General Settings] セクション」 (P.2-18)
- 「[Status Settings] セクション」 (P.2-18)
- 「[Data Purging] セクション」 (P.2-18)

### [Input] セクション



**(注)** ディレクトリの値は、ネットワーク共有への UNC パスである必要があります。

図 2-3 は、[Input] セクションの設定を示しています。

図 2-3 入力設定

Input	
Bumper/Trailer Directory	WMXE3000C\media
Common Directories	WMXE3000C\media
Media Directory	WMXE3000C\media
Profile Directory	C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles
Valid Input Extensions	.mov, .avi, .mpg, .mpeg, .mpv, .mpa, .m1v, .m2v, .mp2, .mp4, .m4v, .omf, .ref, .lst, .raw, .saf, .c
Watermark Directory	WMXE3000C\media

表 2-2 は、[Input] セクションの設定を説明しています。

表 2-2 Resource Manager 展開の入力設定および説明

設定	説明
Bumper/Trailer Directory	Cisco MXE 3500 でエンコードされたクリップへのバンパーまたはトレーラとして使用できるファイルの場所を定義します。[Bumper/Trailer Directory] は、Cisco MXE 3500 が [Preprocessing Profile] ページの [Bumper Source] および [Trailer Source] フィールドに表示されるファイルを検索するディレクトリパスを制御します。  [Bumper/Trailer Directory] の値は、ストレージエリアネットワーク (SAN) を使用した展開または単一ノード展開の場合、ネットワーク共有またはマップされたドライブのいずれかへの UNC パスとして入力できます。[Bumper/Trailer Directory] の場所は、すべてのホストへアクセス可能な場所である必要があります。
Common Directories	メディアファイルが保存されるディレクトリを定義します。複数のディレクトリを定義できます。セミコロンを使用して、ディレクトリの入力を区切ります。ディレクトリの値は、ネットワーク共有への UNC パスである必要があります。
Media Directory	Cisco MXE 3500 へ送信されるメディアファイルが保存されるディレクトリを定義します。[Media Directory] は、Cisco MXE 3500 が [File Submission] ページの [Source] ボックスに表示されるファイルを検索するディレクトリパスを制御します。  [Media Directory] の値は、ストレージエリアネットワーク (SAN) を使用した展開または単一ノード展開の場合、ネットワーク共有またはマップされたドライブのいずれかへの UNC パスとして入力できます。[Media Directory] は、すべてのホストへアクセス可能な共有された場所である必要があります。ディレクトリの値は、ネットワーク共有への UNC パスである必要があります。
Profile Directory	ECS が、送信されたジョブを処理する際にジョブプロファイルを検索するために使用するデフォルトパスを定義します。

表 2-2 Resource Manager 展開の入力設定および説明 (続き)

Valid Input Extensions	共通ディレクトリ内のファイルの有効な拡張子の一覧を定義します。このフィールドの一覧にある拡張子を持つファイルのみが、[File Job Submission] フォームの [Input] セクションの [Selection List] ウィンドウに表示されます。ファイル拡張子の入力、セミコロンで区切ります。
Watermark Directory	Cisco MXE 3500 でエンコードされたクリップへのウォーターマークとして使用できるファイルの場所を定義します。ウォーターマークは、Cisco MXE 3500 が、[Preprocessing Profile] ページの [Watermark] セクションの [Source] ドロップダウンに表示されるファイルを検索するディレクトリパスを制御します。 ディレクトリの値は、ネットワーク共有への UNC パスである必要があります。[Watermark Directory] の場所は、すべてのホストへアクセス可能な場所である必要があります。

## [Output] セクション

出力ディレクトリは、Cisco MXE 3500 が、Cisco MXE 3500 システムのライセンス レベルによってサポートされている各エンコード形式のファイルを保存するために使用する場所を定義します。エンコードされたファイルは、[Distribution] > [Output Profile] がジョブ プロファイルに含まれていないか、[Output Profile] の [Save Local File] のチェックボックスがオンになっているかのいずれかの場合、定義されたディレクトリに保存されます。



(注) すべてのディレクトリの値は、ネットワーク共有への UNC パスである必要があります。

図 2-4 は、[Output] セクションの設定を示しています。

図 2-4 出力設定

Output Directory	Path
Flash7 Output Directory	\\MXE3000C\output
Flash8 Output Directory	\\MXE3000C\output
H264 Output Directory	\\MXE3000C\output
Indexing Output Directory	\\MXE3000C\output
Microsoft Output Directory	\\MXE3000C\output
MP3 Output Directory	\\MXE3000C\output
MPEG Output Directory	\\MXE3000C\output
QuickTime Output Directory	\\MXE3000C\output
QuickTime Temp Directory	\\MXE3000C\output
Real Output Directory	\\MXE3000C\output
Speech To Text Output Directory	\\MXE3000C\output
Thumbnail Output Directory	\\MXE3000C\output
WAV Output Directory	\\MXE3000C\output

## [General Settings] セクション

Resource Manager デバイスでの全般設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「[General Settings] セクション」(P.1-22) を参照してください。

## [Status Settings] セクション

Resource Manager デバイスでの状態設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「[Status Settings] セクション」(P.1-23) を参照してください。

## [Data Purging] セクション

Resource Manager デバイスでのデータ パージ設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「[Data Purging] セクション」(P.1-24) を参照してください。

## [Audio Capture] セクション

Resource Manager デバイスでのオーディオ キャプチャ設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「[Audio Capture] セクション」(P.1-25) を参照してください。

## ユーザ設定

[User Administration] ページは、管理者がユーザのアクセスおよび権限を設定するために使用します。このページへは、ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [User] をクリックしてアクセスできます。

[User Administration] の上のペインには、作成されたユーザが表示されます。下のペインには、各ユーザの権限が表示されます。

Cisco MXE 3500 では、事前にユーザが 1 つ定義されています。

- **admin** : デフォルトのパスワードも *admin* です。admin パスワードは、管理者がすぐに変更することを推奨します。



(注)

システムを受領した時点では、ユーザの作成、役割の割り当て、ユーザの削除、ユーザ権限の拒否または削除など、フォルダ アテンダントの管理タスクを実行できるユーザは、事前定義の管理ユーザのみです。新しい管理ユーザを 1 つ以上作成するまでは、事前定義の管理ユーザを削除しないでください。

[New User] または [Edit User] ポップアップ (図 2-5 を参照) では、システム ユーザを作成および変更できます。

図 2-5 ユーザ設定

表 2-3 は、これらの設定を説明しています。

表 2-3 ユーザ設定および説明

設定	説明
User Name	メニュー バーで、[New] をクリックするか、ユーザを選択して [Edit] をクリックします。[New User] または [Edit User] ポップアップが表示されます。ユーザの名前を入力します。
Password	新しいユーザのパスワードを入力します。
Confirm Password	確認のため、パスワードを再入力します。
First Name	ユーザの名を入力します。
Last Name	ユーザの姓を入力します。
E-mail	ユーザの E メール アドレスを入力します。
Role	ドロップダウン メニューから役割を選択します。役割によって、フォルダ アテンダントの機能に対するユーザのアクセス レベルが決まります。役割は展開の際に定義され、通常は管理者およびユーザです。

## 役割設定

各 Cisco MXE 3500 ユーザは、さまざまなシステム機能へのアクセス レベルを制御する役割を割り当てられます。

[Role Administration] ページへは、ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [Role] をクリックしてアクセスできます。

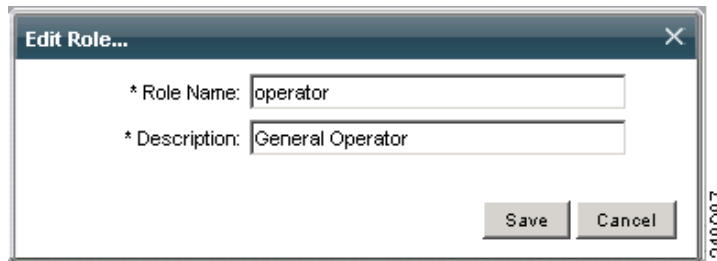
[Role Administration] ページの上のペインには、作成された役割が表示されます。下のペインには、各役割の権限が表示されます。

次の 3 つの事前定義された役割があります。

- **admin** : すべての機能にアクセスできる権限が設定されます。
- **operator** : ジョブ プロファイル編集にはアクセスできますが、タスク プロファイル編集にはアクセスできない権限が設定されます。
- **user** : 管理機能以外のすべての機能にアクセスできる権限が設定されます。

[New Role] または [Edit Role] ポップアップ (図 2-6 を参照) では、システム ユーザを作成および変更できます。

図 2-6 役割設定



システム管理者は役割を作成した後、その役割の権限を設定します。各役割は、以下の Cisco MXE 3500 機能を使用する権限を許可または拒否されます。

- 管理ツール : Cisco MXE 3500 管理ツールにアクセスできます。
- フォルダ アテンダント : フォルダ アテンダントにアクセスできます。
- ジョブ プロファイル編集 : ジョブ プロファイル編集機能にアクセスできます。
- モニタリング : モニタリング機能にアクセスできます。
- モニタリング (詳細) : ユーザが再スケジュール、停止、削除などを実行できます。
- レポート : レポート機能にアクセスできます。
- 送信 : 送信ツールにアクセスできます。
- タスク プロファイル編集 : プロファイル編集機能にアクセスできます。

選択した役割の権限は、[Role Administration] ページの一番下に表示されます。

表 2-4 は、権限の表の列を説明しています。

赤い X は、その機能に対する権限が拒否されることを示します。緑のチェック マークは、選択したユーザに機能へのアクセス権限があることを示します。

表 2-4 役割設定および説明

設定	説明
Default	Cisco MXE 3500 の出荷時に設定されている権限のデフォルト値を表示します。
Role	役割に設定されている権限を表示します。役割に設定された権限は、デフォルトの権限を上書きします。この列に指定される役割の権限は、[Role Administration] ページから設定します。
User	選択されているユーザに対して設定されている権限を表示します。ユーザに対して設定された権限は、役割の権限を上書きします。
Allow	選択されているユーザに対して設定されている実際の権限です。

## プロファイル スペース設定

[Profile Administration] ページでは、システム内の複数のプロファイル ディレクトリを管理できます。Cisco MXE 3500 では、出荷時に 1 つのプロファイル ディレクトリが設定されています。プロファイル ディレクトリの初期データベース設定は、次のとおりです。

**C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles**

Cisco MXE 3500 は、システム設定済みのプロファイル ディレクトリを使用して、ジョブ プロファイルの一覧にアクセスします。しかし、グループ別または顧客別に、別のプロファイル ディレクトリを維持する場合があります。

プロファイル スペースは必要な数だけ作成できますが、Cisco MXE 3500 は、各プロファイル ディレクトリが存在するかを作成時に確認します。

Cisco MXE 3500 のセッションは一度に 1 つのプロファイル スペースにリンクします。それによって、プロファイル ブラウザで表示できるプロファイルが決まります。

[Profile Administration] ページへは、ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [User] をクリックしてアクセスできます。



ヒント

作業するプロファイル スペースは、[Tools] をクリックしてから [Select Profile Space] をクリックすることで、いつでも変更できます。

[New Profile Space] または [Edit Profile Space] ポップアップ (図 2-7 を参照) では、プロファイル スペースを作成および変更できます。

図 2-7 プロファイル スペース設定

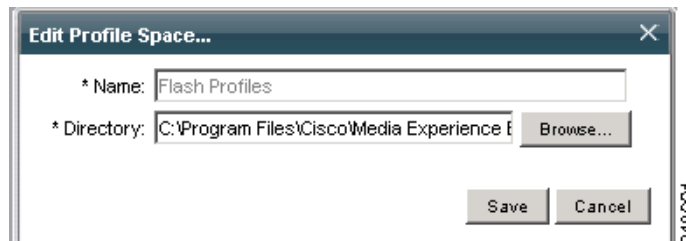


表 2-5 は、これらの設定を説明しています。

表 2-5 プロファイル スペース設定および説明

設定	説明
Name	一意の名前を入力します。
Directory	確認可能なディレクトリを入力します。

## ユーザ メタデータ設定

この [User Metadata Administration] ページでは、各ジョブ (およびジョブ内の各タスク) と共に送信できる、カスタム名と値のペアを作成できます。このカスタム メタデータは、HTTP POST ジョブ ステータス XML など、詳細なジョブ ステータスで返されます。(送信する場合) このメタデータは各ジョブのデータベースにも保存され、(送信した組織やジョブのトラッキングなどの) レポートの目的に使用したり、(HTTP POST 経由で) 他のシステム (Velocity など) に返す場合に使用できます。

Resource Manager デバイスでのユーザ メタデータ設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「ユーザ メタデータ設定」(P.1-26) を参照してください。

## IP キャプチャ設定

Cisco MXE 3500 では、UDP/IP を介してライブの MPEG2 トランスポート ストリームを、この機能の一般的な使用を可能にする管理、設定、および状態と共に取り込むことができます。IP キャプチャは、MPEG2 ビデオおよび AC3/Layer2/AES3 オーディオ エッセンスでのトランスポート ストリームに限られます。

[IP Capture Configuration] ページは、管理者が IP キャプチャ ソースを追加、編集、または削除するために使用します。

Resource Manager デバイスでの IP キャプチャ設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「IP キャプチャ (ライブ ストリーミング) 設定」(P.1-27) を参照してください。

## Resource Manager の展開の確認

システムが正しく展開および設定されていることを確認するには、以下のテストを実行します。

- 「テスト 1 : ファイル ジョブ送信を使ったジョブの送信」
- 「テスト 2 : フォルダ アテンダントを使ったジョブの送信」
- 「テスト 3 : ライセンス機能が有効であることの確認」

### テスト 1 : ファイル ジョブ送信を使ったジョブの送信

#### 作業を開始する前に

- **C:\ProgramFiles\QuickTime** フォルダで、**Sample.mov** を選択し、このファイルを **C:\Media** フォルダへコピーします。
- **C:\media** フォルダで、グループ内の Resource Node ごとに **Sample.mov** ファイルのコピーを 1 つ作成します。たとえば、4 つのノードがある場合、4 つのコピーを作成します。

#### 手順

- ステップ 1** UI にアクセスします。「Cisco MXE 3500 の Web ユーザーインターフェイスへのアクセス」も参照してください。
- ステップ 2** ツールボックスで [Submission] を展開し、[File] をクリックします。[File Job Submission] ページが表示されます。
- ステップ 3** [Profile] セクションで、**Cable\_Broadband.job.awp** を選択します。
- ステップ 4** [Input] セクションで、次のタスクを実行します。
  - [Browse] をクリックします。
  - Resource\_Manager\_IP\_Address\media** へ移動し、**Sample.mov** ファイルのコピーをすべて選択します。
  - [Add File(s)] をクリックし、ファイルをメディア ディレクトリからメディア ソース ボックスへ移動します。

- ステップ 5** [Submit] をクリックします。
- ステップ 6** ツールボックスで、[View]、[Monitoring]、[Job Status] の順に選択します。
- ステップ 7** [Job Status] ウィンドウを監視して、ジョブが完了するのを確認します。
- ステップ 8** `%%Resource_Mananger_IP_Address%output` へ移動し、複数の `FileName.Sample.Cable_Broadband.Cable_Broadband.wmv` ファイルを見つけてファイルを再生します。Windows Media Player で警告メッセージやアラートが表示された場合は承諾します。
- ステップ 9** Resource Node が完了したトランスコードジョブを確認するには、Resource Node にログインして `C:%ProgramFiles\Cisco%Media Experience Engine%log` フォルダへ移動します。次に、現在の日付の LCS ログを開き、「PP Input」を検索してその特定の Resource Node によってトランスコードされたファイルを確認します。

## テスト 2：フォルダ アテンダントを使ったジョブの送信

### 作業を開始する前に

- `C:%ProgramFiles%QuickTime` フォルダで、`Sample.mov` を選択し、このファイルを `C:%Media` フォルダへコピーします。
- `C:%media` フォルダで、グループ内の Resource Node ごとに `Sample.mov` ファイルのコピーを 1 つ作成します。たとえば、4 つのノードがある場合、4 つのコピーを作成します。

### 手順

- ステップ 1** フォルダ アテンダントにアクセスします。「[Cisco MXE 3500 ツールへのアクセス](#)」も参照してください。
- ステップ 2** フォルダ アテンダントが監視するディレクトリを追加します。
- a. ツールボックスで、[Folder Attendant] をクリックします。
  - b. [Directory] ドロップダウンメニューで、[Add] を選択します。[Directory] フィールドが [Folder Attendant Administration] ページに表示されます。
  - c. [Directory Path] フィールドに `C:%media` と入力し、必要に応じてその他のフィールドを入力します。
- ステップ 3** ディレクトリにウォッチを追加します。
- a. ツールボックスで、[Folder Attendant] をクリックします。
    - a. ウォッチを追加するディレクトリを強調表示し、[Watch] ドロップダウンで [Add] をクリックします。[Watch] フィールドが [Folder Attendant Administration] ページに表示されます。
    - b. [Watch Extensions] フィールドに、`MPEG-4` と入力します。
    - c. [Job Profile] フィールドで、[Cable\_Broadband] を選択します。
    - d. 必要に応じてその他のフィールドを入力します。
- ステップ 4** ツールボックスで、[Monitoring] を選択してから [Job Status] を選択します。
- ステップ 5** `Sample.mov` ファイルのすべてのコピーを、`C:%media` フォルダから `%%Resource_Mananger_IP_Address%watch` フォルダへドラッグします。
- ステップ 6** [Job Status] ペインを見て、ジョブが開始して完了するのを確認します。

- ステップ 7** `¥¥Resource_Mananger_IP_Address¥output` へ移動し、複数の `FileName.Sample.Cable_Broadband.Cable_Broadband.wmv` ファイルを見つけてファイルを再生します。Windows Media Player で警告メッセージやアラートが表示された場合は承諾します。
- ステップ 8** Resource Node が完了したトランスコード ジョブを確認するには、Resource Node にログインして `C:¥ProgramFiles¥Cisco¥Media Experience Engine¥log` フォルダへ移動します。次に、現在の日付の LCS ログを開き、「PP Input」を検索してその特定の Resource Node によってトランスコードされたファイルを確認します。
- 

## テスト 3 : ライセンス機能が有効であることの確認

- 機能ライセンスをインストール後、ライブ取り込み機能が有効であることを確認するには、以下のセクションを参照してください。
  - 「ライブ WMV IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー」(P.3-3)
  - 「ライブ Flash 8 および H.264 IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー」(P.3-5)
- 機能ライセンスをインストール後、音声文字変換機能またはグラフィック オーバーレイ機能が有効であることを確認するには、以下のセクションを参照してください。
  - 「音声文字変換の設定ワークフロー」(P.3-7)
  - 「グラフィック オーバーレイ機能の設定ワークフロー」(P.3-9)



## CHAPTER 3

# Cisco MXE 3500 にライセンスされる機能の展開

この章は、次の項で構成されています。

- 「ライブストリーミング (IP キャプチャ) 機能」 (P.3-1)
- 「音声文字変換機能とグラフィック オーバーレイ機能」 (P.3-6)

## ライブストリーミング (IP キャプチャ) 機能

ライブストリーミング (IP キャプチャ) 機能により、Cisco MXE 3500 ではライブのエンタープライズ TV や IPTV フィードを取り込み、さまざまなエンドポイントで表示できるようにライブコンテンツを再定義することができます。



### 有効化

この機能を使用するには、機能ライセンスを購入してスタンドアロン Cisco MXE 3500 または Resource Manager デバイス上にインストールする必要があります。

この項では、次のトピックを扱います。

- 「ライブストリーミング機能に必要なコンポーネント」 (P.3-1)
- 「ライブ WMV IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開のネットワーク設計」 (P.3-3)
- 「ライブ WMV IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー」 (P.3-3)
- 「ライブ Flash 8 および H.264 IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開のネットワーク設計」 (P.3-4)
- 「ライブ Flash 8 および H.264 IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー」 (P.3-5)

## ライブストリーミング機能に必要なコンポーネント

ライブストリーミング機能のライセンスのほか、次のコンポーネントが必要です。

1. 「取り込み (入力)」 (P.3-2)
2. 「ジョブプロファイル (トランスコード)」 (P.3-2)
3. 「配信 (出力)」 (P.3-2)



(注)

サポートされる取り込みフォーマットとサポートされるストリームの最大数の詳細については、『[Release Notes for Cisco MXE 3500 Release 3.0](#)』を参照してください。

## 取り込み (入力)

Cisco MXE 3500 では、MPEG-2 シングルプログラム ストリームかマルチプログラム ストリームのいずれか、またはその両方を、Protocol Independent Multicast (PIM) が有効に設定されたルータを介して取り込みます。着信ストリームには、次の特性が必要です。

- MPEG-2 TS パッケージング
- MPEG-2 でエンコードされたペイロード
- AC3 またはレイヤ 2 のオーディオ
- UDP/IP トランスポート (RTP はサポートされていません)
- (オプション) EIA 608 クローズド キャプションおよび 708 クローズド キャプション

次のソースでは、ストリームされたコンテンツを提供できます。

- ヘッドエンド設定を介して調整および配信が行われるケーブルまたはサテライト フィード
- Cisco MXE 3500 の入力要件に準拠した MPEG-2 エンコーダからの直接出力

## ジョブ プロファイル (トランスコード)

Cisco MXE 3500 では、着信 MPEG-2 TS を Windows Media Video (WMV)、Flash 8、または H.264 ストリーミング フォーマットにリアルタイムでトランスコーディングできます。トランスコーディング (ファイル変換) を行うには、Cisco MXE 3500 内に適切なジョブ プロファイルが必要です。

## 配信 (出力)

Cisco MXE 3500 で実行できる HTTP ストリーミングは限定されます。WAN でリモート クライアントへの効率的なストリーミングを行うには、RTSP ストリーミングおよび最適化されたストリーム配信ネットワーク用に別のストリーミング サーバを展開することを推奨します。別のストリーミング サーバを展開しない場合は、Cisco MXE 3500 のパフォーマンスや容量が低下し、ストリーミングが正しく行われなくなります。

次のストリーミング サーバを推奨します。

- Windows Media Video (WMV) : Microsoft Windows 2008 Server Enterprise Edition に付属の Windows Media Streaming Server

- Flash 8 および H.264 : Adobe Flash Media Server (FMS)

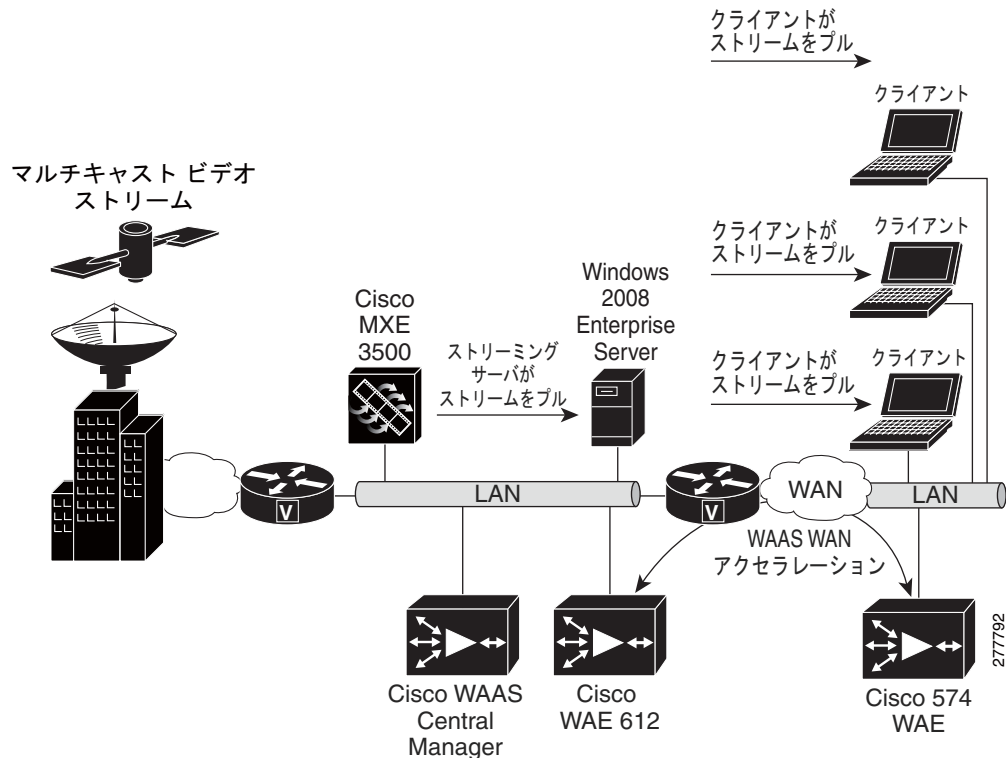
次のストリーム配信ネットワーク ソリューションを推奨します。

- WMV : Cisco WAN Application Acceleration Solution (WAAS)
- Flash8 および H.264 : 次のソースで入手できる Commercial Content Delivery Network (CDN) サービス
  - Akamai
  - Limelight
  - Internap

## ライブ WMV IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開のネットワーク設計

図 3-1 に、WMV IP ストリーミングおよび Cisco Wide Area Application Services (WAAS) による Cisco MXE 3500 展開のソリューション ネットワークの例を示します。

図 3-1 Cisco WAAS を使用した WMV IP ストリーミングのソリューション ネットワークの例



## ライブ WMV IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー



(注) Web UI の使用の詳細については、『[User Guide for Cisco MXE 3500 Release 3.0](#)』を参照してください。

プリプロセッサの設定とエンコーダ プロファイルの設定は、ファイル間のトランスコーディングと同じです。

1. 複数の Cisco MXE 3500 ホストによる Resource Manager 展開の場合は、すべての Windows Media エンコーディングを 1 台の Cisco MXE 3500 に制限します。

各 Cisco MXE 3500 ホスト (すべての Windows Media エンコーディングを実行する 1 台のホスト以外) では、次のワーカーを削除します。

- microsoftAudioStream
- microsoftStream

『[user guide](#)』の「Removing Workers from a Host」も参照してください。

2. 新しい Web キャスト プロファイルを作成します。Web キャスト プロファイルは、エンコードされた出力をライブでインターネットにストリーミングするパラメータを定義するために使用されます。
  - a. 新しいプロファイルを作成します。
  - b. [Profile Class] から [Distribution and Webcast] を選択します。
3. 次のように Web キャスト プロファイルの設定を行います。
  - [Profile] : ジョブの一部である Windows エンコーダ プロファイルを選択します。
  - [Server] : Cisco MXE 3500 の IP アドレスを入力します。
  - [Port] : 使用中でないポート番号を入力します。
  - [Filename] : ストリームのファイル名を入力します。このフィールドは必須項目です。この設定はストリームされるファイルの名前の生成に使用されるため、たとえば *CNNStream* など、わかりやすいファイル名を入力します。

図 3-2 ストリームの設定例 : WMV ストリーミング

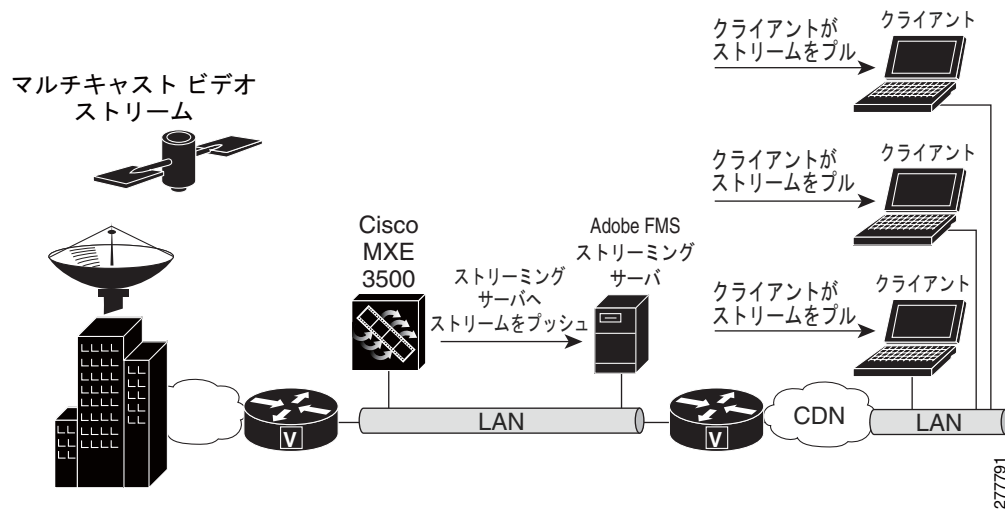
Stream 1		
Stream 1:	<input checked="" type="checkbox"/>	Enables Stream 1
Profile:	WMV400x300 High.ms.awp <span style="float: right;">Browse...</span>	
CDN:	Other	CDN for Stream 1
Server:	http://10.194.59.84	Server for Stream 1
Port:	9876	Port on server for Stream 1
Filename:	FileStream	Filename for Stream 1
Username:		Username for Stream 1
Password:		Password for Stream 1

4. Web キャスト プロファイルを、[Distribution: Webcast] 設定のジョブ プロファイルに追加します。
5. [Submission] > [Live] ページでジョブ プロファイルをライブ ジョブとして送信します。
6. Windows Media ストリーミング サーバで、新しいパブリッシング ポイントを追加します。エンコーダの Cisco MXE 3500 IP アドレスと手順 3. で指定したポート番号を入力します。
7. 配信のセットアップでは、『*Microsoft Windows Server on Cisco WAAS Deployment Guide*』の説明に従って、Cisco WAAS を設定します。このガイドには、次の URL からアクセスできます。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6870/prod\\_white\\_papers\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6870/prod_white_papers_list.html)
8. クライアント PC で Windows Media Player を開き、次の URL を入力します。 **mms://streaming server/publishing\_point**

## ライブ Flash 8 および H.264 IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開のネットワーク設計

図 3-3 に、Flash 8 IP ストリーミングおよびコンテンツ配信ネットワーク (CDN) による Cisco MXE 3500 展開のソリューション ネットワークの例を示します。

図 3-3 CDN を使用した Flash 8 および H.264 IP ストリーミングのソリューション ネットワークの例



## ライブ Flash 8 および H.264 IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー



(注) Web UI の使用の詳細については、『[User Guide for Cisco MXE 3500 Release 3.0](#)』を参照してください。

プリプロセッサの設定とエンコーダ プロファイルの設定は、ファイル間のトランスコーディングと同じです。

1. 新しい Web キャスト プロファイルを作成します。Web キャスト プロファイルは、エンコードされた出力をライブでインターネットにストリーミングするパラメータを定義するために使用されます。
  - a. 新しいプロファイルを作成します。
  - b. [Profile Class] から [Distribution and Webcast] を選択します。
2. 次のように Web キャスト プロファイルの設定を行います。
  - [Profile] : ジョブの一部である Flash 8 または H.264 エンコーダ プロファイルを選択します。
  - [Server] : `rtmp://Streaming Server IP address/publishing point` のように、Flash ストリーミングサーバの IP アドレスを入力します。
  - [Port] : 80 または 1935 を入力します。
  - [Filename] : ストリームのファイル名を入力します。このフィールドは必須項目です。この設定はストリームされるファイルの名前の生成に使用されるため、たとえば `CNNStream` など、わかりやすいファイル名を入力します。

図 3-4 ストリームの設定例 : Flash 8 ストリーミング

Stream 1		
Stream 1:	<input checked="" type="checkbox"/>	Enables Stream 1
Profile:	Flash8-Simul-1.flash8.avcp	<input type="button" value="Browse..."/>
CDN:	Other	CDN for Stream 1
Server:	rtmp://194.59.166.4	Server for Stream 1
Port:	1935	Port on server for Stream 1
Filename:	Flash8Stream-480i-1	Filename for Stream 1
Username:		Username for Stream 1
Password:		Password for Stream 1

- Web キャスト プロファイルを、[Distribution: Webcast] 設定のジョブ プロファイルに追加します。
- [Submission] > [Live] ページでジョブ プロファイルをライブ ジョブとして送信します。
- Flash ストリーミング サーバで、サーバ パブリッシング ポイントを追加します。
- クライアント PC で RTMP をサポートできる Flash プレーヤーを開き、次の URL を入力します。  
*rtmp://StreamingServerIPAddress/live/FileName*

## 音声文字変換機能とグラフィック オーバーレイ機能

Cisco MXE 3500 では、音声文字変換機能を使用してビデオからテキスト トランスクリプトを作成できます。Cisco MXE 3500 では、グラフィック オーバーレイ機能により、トランスクリプトをビデオのテキスト キャプションとして埋め込むこともできます。



### 有効化

これらの機能のいずれかを使用するには、機能ライセンスを購入してスタンドアロン Cisco MXE 3500 または Resource Manager デバイス上にインストールする必要があります。

この項では、次のトピックを扱います。

- 「音声文字変換機能とグラフィック オーバーレイ機能の概要」(P.3-6)
- 「音声文字変換機能とグラフィック オーバーレイ機能に必要なコンポーネント」(P.3-7)
- 「音声文字変換の設定ワークフロー」(P.3-7)
- 「グラフィック オーバーレイ機能の設定ワークフロー」(P.3-9)
- 「音声文字変換の精度向上のためのガイドライン」(P.3-10)
- 「Cisco MXE 3500 へのスピーカ プロファイルのインポート」(P.3-11)

## 音声文字変換機能とグラフィック オーバーレイ機能の概要

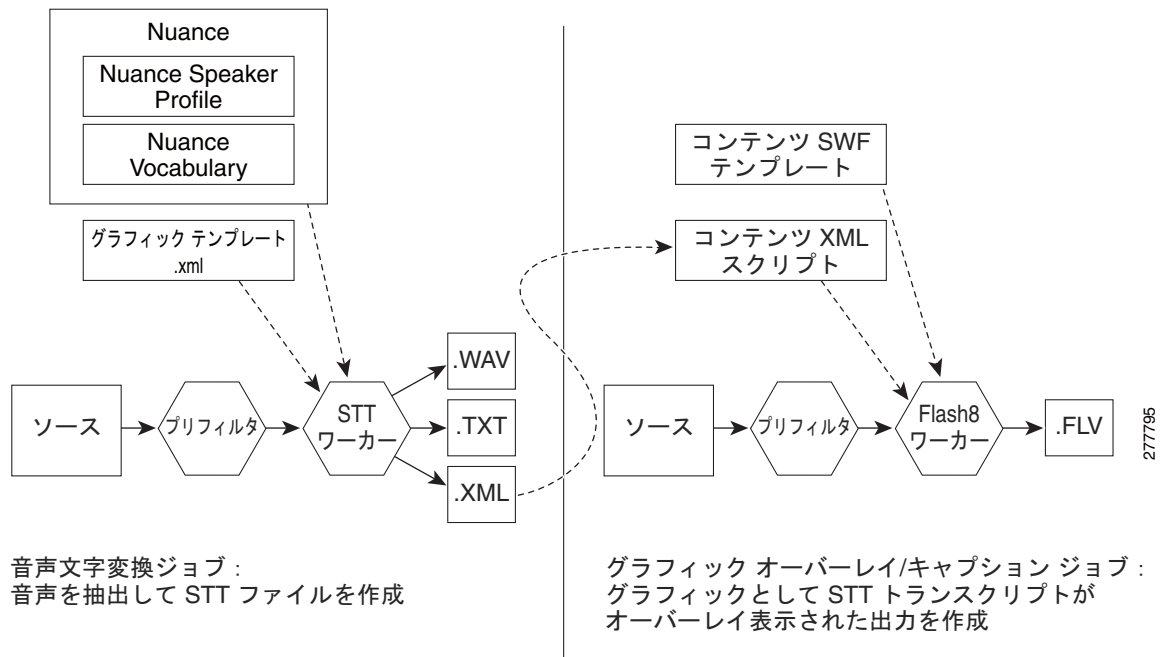
Cisco MXE 3500 の音声文字変換機能では、次の機能がサポートされます。

- 音声文字変換 : Cisco MXE 3500 では、Cisco MXE 3500 に含まれる Nuance の音声文字変換トランスクリプション エンジンを使用し、ビデオからオーディオトラックを抽出してテキストに変換することができます。

- 音声文字変換グラフィック オーバーレイ 機能（グラフィックとキャプション）：Cisco MXE 3500 では、個別のジョブの一部として、音声文字変換で生成したテキストを入力ビデオに重ね、字幕テキスト付きの単一のビデオ出力を生成することができます。

図 3-5 は、Cisco MXE 3500 で音声文字変換とオーバーレイ機能に使用されるプロセスを示しています。

図 3-5 音声文字変換とオーバーレイ機能のプロセス



(注)

音声文字変換とグラフィック オーバーレイ機能には、個別のジョブ プロファイルが必要です。

## 音声文字変換機能とグラフィック オーバーレイ機能に必要なコンポーネント

音声文字変換とグラフィック オーバーレイ機能には、次のコンポーネントが必要です。

- 音声文字変換機能ライセンス
- グラフィック オーバーレイ 機能ライセンス
- 入力ビデオ：Cisco MXE 3500 でサポートされるオーディオ付きのビデオを使用できます。
- 音声文字変換機能用のジョブ プロファイル
- グラフィック オーバーレイ機能用のジョブ プロファイル

## 音声文字変換の設定ワークフロー

次のワークフローでは、ジョブをセットアップして、STT テキスト出力と XML ファイルを取得し、グラフィック オーバーレイとして使用する方法を説明します。



(注) Web UI の使用の詳細については、『[User Guide for Cisco MXE 3500 Release 3.0](#)』を参照してください。

プリプロセッサの設定とエンコーダ プロファイルの設定は、ファイル間のトランスコーディングと同じです。

1. 新しい STT エンコーダ プロファイルを作成します。エンコーダ プロファイルでは、配信用非圧縮プリプロセッサの圧縮方法を指定するパラメータを指定します。
  - a. 新しいプロファイルを作成します。
  - b. [Profile Class] から [Encoder and Speech To Text] を選択します。
2. 次のように、STT エンコーダ プロファイルの設定を行います。
  - 出力ファイル フォーマットを選択します。Cisco MXE 3500 により、変換中に次の最大 3 つのファイルが生成されます。
    - [Audio Output] : WAVE 形式に変換されたオーディオで .WAV オーディオ ファイルを生成します。
    - [Text Output] : 変換された音声 (オーディオ) のテキストのみの出力を生成します。
    - [Overlay Output] : グラフィック テンプレート ファイルで指定されたフォントと形式情報を使用して、タイムコード化されたテキストを含む XML ファイルを生成します。XML ファイルは、音声文字変換グラフィック オーバーレイ機能で使用されるメタデータ ファイルです。
  - [Nuance Speaker Profile] : STT スピーカ プロファイルを選択します。STT エンジンではこのプロファイルを使用して、変換されたデータの精度を向上させます。
  - [STT Topic Vocabulary] : STT ボキャブラリを選択します。STT エンジンではこのボキャブラリを使用して、変換されたデータの精度を向上させます。
  - [Graphics Template] : グラフィック テンプレートを選択します。Cisco MXE 3500 ではこのテンプレートを使用して、音声文字変換グラフィック オーバーレイ機能で後で使用するために生成される XML ファイルのフォーマットが行われます。このファイルで、フォントスタイル、フォント サイズ、および形式などのパラメータを定義します。Cisco MXE 3500 には、次の 3 つのサンプル テンプレート ファイルが付属しており、必要に応じて変更できます。これらのファイルは、**C:\media\SpeechToTextFiles** フォルダにあります。
    - DemoTemplate.xml
    - IntroductionTemplate.xml
    - SubTitleTemplate.xml

図 3-6 音声文字変換エンコーダ設定

The screenshot shows a web interface titled 'Settings' for the STT Encoder. It includes the following fields:

- Quality: A numeric input field with the value '0' and arrow buttons for increment/decrement.
- Audio Output: A checkbox, currently unchecked.
- Text Output: A checkbox, currently unchecked.
- Overlay Output: A checkbox, currently unchecked.
- STT Speaker Profile: A dropdown menu.
- STT Topic/Vocabulary: A dropdown menu.
- Graphics Template: A text input field.

## グラフィック オーバーレイ機能の設定ワークフロー

次のワークフローでは、ジョブをセットアップして、ビデオから XML STT 出力ファイルを取得し、そのビデオでグラフィック オーバーレイとして使用する方法を説明します。



(注) Web UI の使用の詳細については、『[User Guide for Cisco MXE 3500 Release 3.0](#)』を参照してください。

プリプロセッサの設定とエンコーダ プロファイルの設定は、ファイル間のトランスコーディングと同じです。エンコーダ プロファイルには、Cisco MXE 3500 がサポートするビデオ エンコーダを使用できます。

1. プリプロセッサ プロファイルの設定は、ジョブ送信パラメータとして、または [Submission] > [File] ページの [File Job] 設定で行えます。

プリプロセッサ プロファイルには、次の設定を行います。

- [Enabled] : Graphics Overlay Content 領域の [Enable] チェックボックスをオンにします。
- [Template File] : ビデオの字幕としてテキストを重ねるために使用されるグラフィック要素を含むコンテンツ Flash SWF テンプレートを指定します。Cisco MXE 3500 には、サンプルの SWF ファイルが 1 つ付属しています。
- [Metadata File/URL] : 音声文字変換機能で生成された、タイムコード化された XML ファイルを指定します。

File ジョブには、次の設定を行います。

- [Content XML Script] : 音声文字変換機能で生成された、タイムコード化された XML ファイルを指定します。
- [Content SWF Template] : ビデオの字幕としてテキストを重ねるために使用されるグラフィック要素を含むコンテンツ Flash SWF テンプレートを指定します。Cisco MXE 3500 には、次の 3 つのサンプル テンプレート ファイルが付属しており、必要に応じてお客様が使用したり修正したりできます。次のサンプル ファイルは、**C:\media\SpeechToTextFiles** フォルダにあります。
  - corporate-r09\_1080.swf
  - corporate-r09-bigwatermark.swf
  - corporate-r09-iphone.swf

## 音声文字変換の精度向上のためのガイドライン

この項では、次のトピックを扱います。

- 「音声入力スタイル」 (P.3-10)
- 「ビデオに複数のスピーカが登場する場合」 (P.3-10)
- 「スピーカ プロファイル」 (P.3-10)
- 「オーディオを取得する方法」 (P.3-10)

### 音声入力スタイル

より高い精度で音声をテキストに出力するには、話し手（スピーカ）が次のガイドラインを使用することを推奨します。

- 常に同じ口調で話すこと。
- 常に同じ速さで話すこと（急にペースを変えない）。
- それぞれの単語の後に意図的に間を開けずに話すこと。システムでは、自然音声に最も近いなめらかさが好ましい。
- 静かな環境で音声を録音すること。
- それぞれの単語を明瞭に発音すること。ただし、単語内の音節はそれぞれ区切らないようにすること。

### ビデオに複数のスピーカが登場する場合

音声文字変換システムは、ビデオに複数のスピーカが登場する録音では十分に機能しません。スピーカが複数の場合は精度に悪影響を与えます。これは、それぞれのスピーカに独自の発話形式やアクセントなどがあり、複数のスピーカを切り替えると一人の話し手に適応するためのシステムの機能に混乱を招くためです。

### スピーカ プロファイル

音声文字変換の精度は、Cisco MXE 3500 が変換するオーディオのスピーカのアクセントや音声パターンに、Nuance 音声文字変換エンジン（STT Engine）が正しく適応しているかどうか依存します。

Cisco MXE 3500 には、米国の地方でよく聞かれるアクセントに適応した一般的なスピーカ プロファイルがいくつか付属しています。Cisco.com [ソフトウェア ダウンロード](#) 領域の [Video, Cable and Content Delivery] > [Cisco MXE 3500] では、さまざまな国のアクセントの一般的なスピーカ プロファイルを入手できます。対応するアクセントの音声を含むオーディオと組み合わせると、一般的なスピーカ プロファイルにより生成されるテキスト出力の精度が向上する場合があります。ただし、最大限正確に変換を行うには、音声（オーディオ）を変換する特定のスピーカのカスタム プロファイルを生成する必要があります。最適の精度を得るには、Nuance Dragon Naturally Speaking Version 10 Professional Edition を入手してデスクトップ コンピュータまたはサーバにインストールし、スピーカに固有のプロファイルを作成して Cisco MXE 3500 にインポートすることを推奨します。[「Cisco MXE 3500 へのスピーカ プロファイルのインポート」 \(P.3-11\)](#) も参照してください。

### オーディオを取得する方法

スピーカは、適切な機器を使用してビデオのオーディオトラックを生成することにより、音声文字変換の精度を大幅に向上させることができます。次の方法を推奨します。

- スタジオで録画されたビデオ：一般的に、スタジオで録画されたビデオトラックのオーディオの品質は最適で、改善する必要はありません。ただし、ビデオに音楽や複数のスピーカなどの背景音が入っている場合は、精度に影響を与えます。
- ビデオカメラで録画したトレーニング ビデオ、企業通信用コンテンツ、または講義：オーディオは、マイクロフォンやラベル マイクロフォン接続 (LINE IN) からビデオカメラまたは録音デバイスに直接入力されていることを推奨します。ビデオの録画は、必ず静かな環境 (周囲騒音の低い環境)で行ってください。
- デスクトップ ビデオ作成およびビデオ ブログ：デスクトップ ビデオ用にメディアを録画する際は、ノイズキャンセル ヘッドセットを使用してください。

## Cisco MXE 3500 へのスピーカ プロファイルのインポート



(注) Dragon Naturally Speaking では「ユーザ」プロファイルという用語が使用されていますが、Cisco MXE 3500 では「スピーカ」プロファイルという用語が使用されています。

この項では、次のトピックを扱います。

- 「[Cisco.com からのスピーカ プロファイルのインポート](#)」 (P.3-11)
- 「[Dragon Naturally Speaking を使用して作成されたスピーカ プロファイルのインポート](#)」 (P.3-12)

## Cisco.com からのスピーカ プロファイルのインポート

Cisco MXE 3500 には、米国の地方でよく聞かれるアクセントに適応した一般的なスピーカ プロファイルがいくつか付属しています。Cisco.com でさまざまな国のアクセントの一般的なスピーカ プロファイルを手し、Cisco MXE 3500 にインポート (コピー) できます。

### 作業を開始する前に

Resource Manager の設定では、展開中の各 Resource Manager および Resource Node 上にスピーカ プロファイルをインポートする必要があります。

### 手順

- ステップ 1** 次の URL の Cisco.com ソフトウェア ダウンロード センターにアクセスします。  
<http://www.cisco.com/cisco/web/download/index.html>
- ステップ 2** [Video, Cable and Content Delivery] > [Media Experience Engines] > [Cisco MXE 3000 Series] > [Cisco MXE 3500] > [Latest Releases] > [3.0.0] の順に選択します。
- ステップ 3** スピーカ プロファイルをダウンロードし、ポータブル USB ドライブに保存します。ダウンロードしたファイルは、.zip ファイルに圧縮されています。
- ステップ 4** スピーカ プロファイルを、ポータブル USB ドライブから Cisco MXE 3500 デスクトップにコピーします。
- ステップ 5** それぞれの .zip ファイルを右クリックし、[Extract] を選択します。
- ステップ 6** 画面の指示に従って、各スピーカ プロファイル ファイルを次の Cisco MXE 3500 フォルダに展開します。C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Nuance\Dragon SDK Server Edition\0\Users\。フォルダとファイルが含まれている新しいフォルダが表示されます。

## Dragon Naturally Speaking を使用して作成されたスピーカ プロファイルのインポート

Dragon Naturally Speaking Professional 10 で新しいユーザ プロファイルを作成して Cisco MXE 3500 にそのプロファイルのコピーすると、スピーカ プロファイルを Cisco MXE 3500 にインポート（コピーアンドペースト）できます。プロファイルをインポートすると、音声文字変換エンコーダ設定の [Cisco MXE 3500 STT Speaker Profile] ドロップダウン リストに表示されます。

### 作業を開始する前に

- Nuance の指示に従って、Windows PC に Dragon Naturally Speaking Professional 10 のインストールと設定を行います。
- Resource Manager の設定では、展開中の各 Resource Manager および Resource Node 上にスピーカ プロファイルをインポートする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** Nuance の指示に従って、Dragon Naturally Speaking Professional 10 を使用して PC に新しいユーザ プロファイルを作成します。
  - ステップ 2** Nuance の指示に従って、ユーザ プロファイルをエクスポートします。
  - ステップ 3** エクスポートしたユーザ プロファイルを、ポータブル USB ドライブまたは Cisco MXE 3500 からアクセスできるネットワークの共有ドライブに保存します。エクスポートしたユーザ プロファイルは、フォルダやファイルが含まれているフォルダ（ディレクトリ）として表示されます。
  - ステップ 4** Cisco MXE 3500 に直接ログインするか、リモート デスクトップ接続を使用して別の PC からログインします。
  - ステップ 5** エクスポートしたスピーカ プロファイルを次の Cisco MXE 3500 フォルダにコピーします。  
**C:\¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Nuance¥Dragon SDK Server Edition10¥Users¥**
-



## CHAPTER 4

# Cisco MXE 3500 のセキュリティに関するベスト プラクティスとバックアップのガイドライン

この項では、次のトピックを扱います。

- 「Cisco MXE 3500 のセキュリティに関するベスト プラクティス」 (P.4-1)
- 「Windows サービス」 (P.4-2)
- 「Cisco MXE 3500 のバックアップに関するガイドライン」 (P.4-5)

## Cisco MXE 3500 のセキュリティに関するベスト プラクティス

Cisco MXE 3500 は、高いレベルのセキュリティを確保する Windows 2003 Server の設定で出荷されています。管理者は Windows の設定を変更できますが、Cisco TAC が推奨する場合を除き変更することは控え、以下のベスト プラクティスに従うことを推奨します。

- 製品マニュアルで推奨されている場合を除き、Cisco MXE 3500 に追加のソフトウェア、アプリケーション、またはファームウェアをインストールしないでください。「Cisco MXE 3500 マイクロソフト ホットフィックス リリース ポリシー」 (P.4-2) も参照してください。
- 製品マニュアルに記載されている目的以外に Cisco MXE 3500 を使用しないでください。
- Cisco MXE 3500 を汎用の Windows デバイスとして使用しないでください。
- Cisco MXE 3500 で [www.cisco.com](http://www.cisco.com) および [www.microsoft.com](http://www.microsoft.com) 以外のインターネットサイトを参照して、製品マニュアルやパッチをダウンロードしないでください。
- Windows コンポーネントは、設定されているデフォルトから変更しないでください。
- サービスのスタートアップの種類は、製品マニュアルに記載されサポートされている場合を除き、変更しないでください。
- 定期的に Cisco MXE 3500 をバックアップしてください。「Cisco MXE 3500 のバックアップ」 (P.4-5) も参照してください。

# Cisco MXE 3500 マイクロソフト ホット フィックス リリース ポリシー

マイクロソフトは、毎月第2火曜日に、セキュリティ関連のホット フィックスの一覧をリリースします。シスコは、祝日を除く毎月第3火曜日に、Cisco MXE 3500 にインストールすることを推奨するマイクロソフト セキュリティ情報のホット フィックス ID と合わせて、技術情報をリリースします。この際、以下のタスクを実行する必要があります。

1. 推奨される各ホット フィックスに対するシスコ技術情報をダウンロードして読みます。
2. マイクロソフト セキュリティ情報をダウンロードして読みます。
3. 推奨される各マイクロソフト ホット フィックスをダウンロードします。
4. マイクロソフトが指示する手順に従い、Cisco MXE 3500 にホット フィックスをインストールします。

緊急の問題に対応するため、マイクロソフトが月例以外のセキュリティ ホット フィックスをリリースした場合、シスコは対応する技術情報をリリースします。

Cisco MXE 3500 の技術情報には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/ps10631/index.html>

## Windows サービス

表 4-1 は、Cisco MXE 3500 の Windows 2003 Server サービスとスタートアップの種類の一覧です。



(注)

DHCP Client サービスの設定のみサポートされています。

表 4-1 Cisco MXE 3500 の Windows 2003 Server サービス

サービスの名前	スタートアップの種類
.NET Runtime Optimization	手動 — 未開始
Alerter	無効
Application Experience Lookup	自動
Application Layer Gateway	手動 — 未開始
Application Management	手動 — 未開始
ASP .NET State	手動 — 未開始
Automatic Updates	手動
Background Intelligent Transfer Service	自動開始
ClipBook	無効
COM+ Event System	自動
COM+ System Application	手動 — 未開始
Computer Browser	自動
Cryptographic Services	自動
DCOM Server Process Launcher	自動

表 4-1 Cisco MXE 3500 の Windows 2003 Server サービス (続き)

サービスの名前	スタートアップの種類
DHCP Client	自動 (注) DHCP Client サービスは、管理者が設定できます。
Distributed File System	手動 — 未開始
Distributed Link Tracking Client	自動
Distributed Link Tracking Server	無効
Distributed Transaction Coordinator	自動
DNS Client	自動
Error Reporting Service	自動
Event Log	自動
File Replication	手動 — 未開始
Help and Support	自動
HID Input Service	自動
HTTP SSL	手動 — 未開始
IIS Admin Service	自動
IMAPI-CD Burning COM Service	無効
Indexing Service	無効
Internet Connection Sharing	無効
Intersite Messaging	無効
IPSEC Services	自動
IPSEC Policy Agent	自動
Kerberos Key Distribution Center	無効
License Logging Service	無効
Logical Disk Manager	自動
Logical Disk Manager Administrative Service	手動
Messenger	無効
Microsoft Software Shadow Copy Provider	手動 — 未開始
Net Logon	手動
Net .tcp port Sharing Sharing	無効
Netmeeting Remote Desktop Sharing	無効
Network Connections	手動
Network DDE	無効
Network DDE DSDM	無効
Network Location Awareness	手動 — 未開始
Network Provisioning Service	手動
NT LM Security Support Provider	手動
Performance Logs and Alerts	自動
Plug and Play	自動

表 4-1 Cisco MXE 3500 の Windows 2003 Server サービス (続き)

サービスの名前	スタートアップの種類
Portable Media Serial Number Service	手動
Print Spooler	自動
Protected Storage	自動
Remote Access Auto Connection Manager	手動
Remote Access Connection Manager	手動
Remote Desktop Help Session Manager	自動
Remote Procedure Call (RPC)	自動
Remote Procedure Call (RPC) Locator	無効
Remote Registry Service	自動
Removable Storage	手動
Resultant Set of Policy Provider	手動
Routing and Remote Access	無効
Secondary Logon	自動
Security Accounts Manager	自動
Server	自動
Shell Hardware Detection	自動
Smart Card	手動
Special Administration Console Helper	手動
SQL Server (MSSQLSERVER)	自動
SQL Server Active Directory Helper	無効
SQL Server Browser	無効
SQL Server VSS Writer	自動
SNMP Service	自動
SNMP Trap Service	手動
System Event Notification	自動
Task Scheduler	自動
TCP/IP NetBIOS Helper Service	自動
Telephony	手動
Telnet	無効
Terminal Services	手動
Terminal Services Session Directory	手動
Themes	無効
Uninterruptible Power Supply	手動
Virtual Disk Service	手動
Virtual Shadow Copy	手動
WebClient	無効
Windows Audio	自動
Windows Firewall/Internet Connection Sharing (ICS)	無効

表 4-1 Cisco MXE 3500 の Windows 2003 Server サービス (続き)

サービスの名前	スタートアップの種類
Windows CardSpace	手動
Windows Image Acquisition (WIA)	無効
Windows Installer	手動
Windows Management Instrumentation	自動
Windows Management Instrumentation Driver Extensions	手動
Windows Time	自動
Windows Presentation Foundation Font Cache 3.0.0.0	手動
Windows User mode Driver Framework	手動
WinHTTP Web Proxy Auto-Discovery Service	手動
Wireless Configuration	自動
World Wide Web Publishing Service	自動

## Cisco MXE 3500 のバックアップに関するガイドライン

Cisco MXE 3500 にはリカバリ DVD が同梱されており、システム リカバリを実行して、ソフトウェアをデフォルトの出荷時設定に復元できます。ただし、以下の変更内容はリカバリ処理中に失われます。

- ウォッチ設定を含むフォルダ アテンダント設定
- デフォルト プロファイルの変更内容
- 新規プロファイル
- 入力、出力、ウォッチの各ディレクトリに保存されているメディア ファイル
- ライセンス ファイル
- カスタム スピーカ プロファイル
- カスタム グラフィック オーバーレイ ファイル



(注) 現在のところ、<http://host/mxeUI/> の URL より行った、新規ユーザアカウント、ライセンス、制限およびしきい値の設定、入力および出力ディレクトリの場所、SMTP サーバのアドレス、管理者の E メールアカウント（ただし、これらに限りません）などの設定の変更は、自動的にバックアップできません。変更内容を記録しておく必要があります。

定期的なバックアップを推奨します。バックアップ頻度は、Cisco MXE 3500 の使用頻度によって異なります。貴重なデータの喪失を避けるため、組織において適切な頻度を判断する必要があります。リカバリでは Cisco MXE 3500 を出荷時イメージへ復元する必要があるため、少なくとも毎月 1 回以上はバックアップを行うことを推奨します。

## Cisco MXE 3500 のバックアップ

この項では、次のトピックを扱います。

- 「[フォルダ アテンダント データベースのバックアップ](#)」 (P.4-6)
- 「[Cisco MXE 3500 ファイルのバックアップ](#)」 (P.4-6)

## フォルダ アテンダント データベースのバックアップ

設定の変更内容を確実に保存するため、SQL Server Management Studio Express を使用し、以下の手順に従って NCS という名前のフォルダ アテンダント設定データベースをバックアップします。SQL Server Management Studio Express 2005 は、Cisco MXE 3500 にあらかじめインストールされています。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco MXE 3500 にログインします。
- ステップ 2** [Start]、[Programs]、[Microsoft SQL Server 2005]、[SQL Server Management Studio Express] の順にクリックし、バックアップする Cisco MXE 3500 に接続します。
- ステップ 3** [Object Explorer] 領域で、[Databases] をダブルクリックします。
- ステップ 4** [NCS] を右クリックし、[Tasks] を選択してから [Back Up] を選択します。[Back Up Database] ウィンドウの [General] ページが表示されます。
- ステップ 5** 次の手順に従って、バックアップ元とバックアップ先を指定します。
- [Source] 領域で、[Database] フィールドに [NCS] が表示されていることを確認し、[Full] をバックアップタイプとして選択します。
  - [Destination] 領域で、[Disk] または [Tape] を選択します。
  - [Add] をクリックします。[Select Backup Destination] ダイアログが表示されます。デフォルトパスを変更しないことを推奨します。
  - NCS.bak など、.bak の拡張子が付いたファイル名を入力します。
  - [OK] をクリックします。
- ステップ 6** 次の手順に従って、上書きおよび信頼性の設定を選択します。
- [Select a page] 領域で、[Options] をクリックします。
  - [Overwrite media] 領域で、[Overwrite all existing backup sets] を選択します。
  - [Reliability] 領域で、[Verify backup once finished] をオンにします。
- ステップ 7** [OK] をクリックしてバックアップを開始します。ダイアログ ボックスにバックアップの状況が表示されます。
- ステップ 8** 完了したら、**Microsoft SQL Management Studio Express** を終了します。
- 

## Cisco MXE 3500 ファイルのバックアップ

以下の手順に従って、フォルダ アテンダント設定データベースに含まれていないファイルをバックアップします。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco MXE 3500 にログインします。
- ステップ 2** ライセンス ディレクトリにあるファイルをすべてバックアップします。デフォルトの場所は、C:\Program Files\Cisco\media Experience Engine\license です。
- ステップ 3** プロファイル ディレクトリにあるすべてのファイルをバックアップします。デフォルトの場所は、C:\Program Files\Cisco\media Experience Engine\profiles です。

- ステップ 4** カスタム音声文字変換スピーカ プロファイル フォルダをバックアップします。デフォルトの場所は、C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Nuance\Dragon SDK Server Edition\10\Users です。
- ステップ 5** カスタム グラフィック オーバーレイ ファイル (SWF ファイル) および音声文字変換用のコンテンツ XML スクリプトをバックアップします。デフォルトの場所は、C:\media\SpeechToTextFiles です。
- ステップ 6** Internet Explorer を起動し、**http://host/MxeUI/** から Web UI にログインします。
- ステップ 7** [Administration] を選択してから [System] を選択します。[System Settings Administration] ページが表示されます。
- ステップ 8** [Input] および [Output] セクションにあるディレクトリの場所を記録します。
- ステップ 9** これらのディレクトリのファイルをバックアップします。

## Cisco MXE 3500 設定の復元

この項では、次のトピックを扱います。

- 「Cisco MXE 3500 のリカバリ」 (P.4-7)
- 「フォルダ アテンダント データベースの復元」 (P.4-7)
- 「その他の Cisco MXE 3500 ファイルの復元」 (P.4-8)

## Cisco MXE 3500 のリカバリ

第 7 章「Cisco MXE 3500 のリカバリ」に記載されているリカバリ手順に従って、Cisco MXE 3500 をリカバリします。

## フォルダ アテンダント データベースの復元

以下の手順に従って、Cisco MXE 3500 にあらかじめインストールされている SQL Server Management Studio Express 2005 を使用し、以前バックアップしたフォルダ アテンダント データベースを復元します。

### 作業を開始する前に

復元に使用するバックアップ ファイルは、同じ Cisco MXE 3500 から取得したバックアップである必要があります。異なる Cisco MXE 3500 からのバックアップの復元については、シスコ テクニカル サポートまでお問い合わせください。

### 手順

- ステップ 1** Cisco MXE 3500 にログインします。
- ステップ 2** 次の手順に従って、Cisco MXE サービスを停止して無効にします。
- [Start]、[Settings]、[Control Panel]、[Administrative Tools]、[Services] の順にクリックします。[Services] ウィンドウが表示されます。
  - [MXE Folder Attendant] を右クリックし、[Stop] を選択します。
  - [MXE Folder Attendant] を右クリックし、[Properties] を選択します。
  - [Startup type] ドロップダウンリストで、[Disable] を選択します。

- e. [OK] をクリックします。
  - f. **MXE CAM、MXE ECS、MXE Log Service、MXE Encoder** の各サービスについて、手順 b ～手順 e を繰り返します。
  - g. コントロール パネルを閉じます。
- ステップ 3** [Start]、[Programs]、[Microsoft SQL Server 2005]、[SQL Server Management Studio Express] の順にクリックし、復元する Cisco MXE 3500 に接続します。
- ステップ 4** 次の手順に従って、既存のフォルダ アテンダント データベースを削除します。
- a. [Object Explorer] 領域で、[Databases] をダブルクリックします。
  - b. [NCS] を右クリックし、[Delete] を選択します。
  - c. [Delete Object] ウィンドウで、[OK] をクリックします。
- ステップ 5** 次の手順に従って、バックアップ ファイルからフォルダ アテンダント データベースを復元します。
- a. [Object Explorer] 領域で、[Databases] を右クリックし、[Restore Database] を選択します。[Restore Database] ウィンドウの [General] ページが表示されます。
  - b. [Destination for restore] 領域で、[To database] フィールドで [NCS] を選択または入力します。
  - c. [Source for restore] 領域で、[From Device] を選択し、[...] ボタンをクリックします。[Specify Back Up] ウィンドウが表示されます。
  - d. [Backup media] ドロップダウン メニューから、[File] を選択します。
  - e. [Add] をクリックし、復元するバックアップ ファイルへ移動して、[OK] をクリックします。
  - f. [Specify Backup] ウィンドウで、[OK] をクリックします。
  - g. [Select the backup sets to restore] 領域で、ファイルの隣のチェックボックスをオンにします。
  - h. [Restore Database] ウィンドウで、[OK] をクリックします。完了すると、正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。
- ステップ 6** **Microsoft SQL Management Studio Express** を終了します。
- ステップ 7** 次の手順に従って、Cisco MXE 3500 サービスを有効にします。
- a. [Start]、[Settings]、[Control Panel]、[Administrative Tools]、[Services] の順にクリックします。[Services] ウィンドウが表示されます。
  - b. [MXE Folder Attendant] を右クリックし、[Start] を選択します。
  - c. [MXE Folder Attendant] を右クリックし、[Properties] を選択します。
  - d. [Startup type] ドロップダウンリストで、[Enable] を選択します。
  - e. [OK] をクリックします。
  - f. **MXE CAM、MXE ECS、MXE Log Service、MXE Encoder** の各サービスについて、手順 b ～手順 e を繰り返します。
  - g. コントロール パネルを閉じます。

## その他の Cisco MXE 3500 ファイルの復元

以下の手順に従って、フォルダ アテンダント データベースに含まれていないその他のファイルを復元します。

---

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco MXE 3500 にログインします。
- ステップ 2** 最近バックアップされたライセンス ファイルを、ライセンス ディレクトリへ復元します。デフォルトの場所は、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license です。
- ステップ 3** Cisco MXE 3500 を再起動します。
- ステップ 4** 最近バックアップされたプロファイルを、プロファイル ディレクトリへ復元します。デフォルトの場所は、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles です。
- ステップ 5** 最近バックアップされたカスタム音声文字変換スピーカ プロファイル フォルダを復元します。デフォルトの場所は、C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Nuance\Dragon SDK Server Edition10\Users\ です。
- ステップ 6** 最近バックアップされた、カスタム グラフィック オーバーレイ ファイル (SWF ファイル) および音声文字変換用のコンテンツ XML スクリプトを復元します。デフォルトの場所は、C:\media\SpeechToTextFiles です。
- ステップ 7** Internet Explorer を起動し、**http://host/MxeUI/** から Web UI にログインします。
- ステップ 8** [Administration] を選択してから [System] を選択します。[System Settings Administration] ページが表示されます。
- ステップ 9** [Input] および [Output] セクションのディレクトリの場所を入力します。
- ステップ 10** 最近のバックアップから、それらのすべてのディレクトリのコンテンツを復元します。
-





## CHAPTER 5

# スタンドアロン デバイスからの Cisco MXE 3500 のアップグレード



注意

アップグレードを行う前に、保管するすべてのファイルをコピーし、Cisco MXE 3500 以外の場所に保存することを推奨します。

この項では、次のトピックを扱います。

- 「アップグレードのガイドライン」(P.5-1)
- 「スタンドアロン デバイスから Resource Manager デバイスへの Cisco MXE 3500 のアップグレード」(P.5-1)
- 「スタンドアロン デバイスから Resource Node デバイスへの Cisco MXE 3500 のアップグレード」(P.5-6)
- 「既存の Resource Manager 展開への新しい Resource Node の追加」(P.5-11)

## アップグレードのガイドライン

アップグレードを行う前に、次のガイドラインを検討します。

- アップグレードを行う前に、ローカルに保管されたすべてのソース コンテンツを、Cisco MXE 3500 以外の場所に保存します。
- Cisco MXE 3500 を元のデバイス タイプに戻す場合は、デバイス上でソフトウェア リカバリを実行する必要があります。スタンドアロン デバイスまたは Resource Manager デバイスに戻す場合は、元のライセンスを再インストールする必要があります。「Cisco MXE 3500 のリカバリ」(P.7-1) も参照してください。
- アップグレードを行う前に、元のライセンスを Cisco MXE 3500 以外の場所に保存します。このライセンスは、Cisco MXE 3500 を元の デバイス タイプに戻した場合に、スタンドアロン デバイスまたは Resource Manager デバイス上で機能を再度有効にするために必要となります。

## スタンドアロン デバイスから Resource Manager デバイスへの Cisco MXE 3500 のアップグレード

この項では、次のトピックを扱います。

- 「アップグレードの準備」(P.5-2)

- 「Resource Manager へのアップグレード用のライセンスの入手」(P.5-3)
- 「Resource Manager デバイスのアップグレード」(P.5-3)
- 「Resource Manager アップグレード設定の完了」(P.5-5)

## アップグレードの準備



(注)

スタンドアロン展開と Resource Manager 展開の設定の違いを確認します。「Resource Manager 展開に関するガイドライン」(P.2-2) も参照してください。

システムのアップグレードを行う前に、デバイス上のジョブ プロファイル、ライセンス ファイル、およびコンテンツをバックアップすることが重要です。アップグレードの準備を行うには、表 5-1 の作業を実行します。

表 5-1 スタンドアロン展開から Resource Manager 展開へのアップグレードの準備作業

バックアップの対象	作業内容
ジョブ プロファイル	プロファイル ディレクトリを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 プロファイル ディレクトリは、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles にあります。
ライセンス ファイル	mxe.lic ファイルを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 ライセンス ファイルは、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license\mxe.lic にあります。 <b>(注)</b> Cisco MXE 3500 をスタンドアロン展開に戻す場合は、使用するライセンスをバックアップします。アップグレードプロセスの一部として、Resource Manager デバイスで新しいライセンスを入手してインストールする点に注意してください。
ソース コンテンツ	すべてのウォーターマーク ファイルとビデオ ファイルを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 Cisco MXE 3500 では、ソース コンテンツ ファイルの場所は既定で C:\media ディレクトリに設定されています。
出力コンテンツ	すべてのウォーターマーク ファイルとビデオ ファイルを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 Cisco MXE 3500 では、エンコードされたファイルの場所は C:\output ディレクトリに設定されています。
E メール サーバの設定	(ツールボックスから [Administration] > [System] をクリックして) System Settings Administration ページを開き、次の設定を書き留めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Eメールの設定</li> <li>• SMTP サーバの設定</li> </ul>
フォルダ アテンダントの設定	faConfig.xml ファイルを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 faConfig.xml ファイルは、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\Folder Attendant\bin にあります。 <b>(注)</b> Cisco MXE 3500 デバイスにあるすべてのウォッチ ディレクトリは、アップグレードプロセスの途中で削除されます。

表 5-1 スタンドアロン展開から Resource Manager 展開へのアップグレードの準備作業（続き）

バックアップの対象	作業内容
サービス	次の Cisco MXE 3500 の各サービスを開き、システムを実行中の各ユーザ アカウントを確認します。デフォルトの MXE-Service から変更されたアカウントがあった場合は、そのユーザ アカウントの名前を書き留めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• IIS Admin Service</li> <li>• Mxe CAM</li> <li>• Mxe ECS</li> <li>• Mxe Encoder</li> <li>• Mxe Folder Attendant</li> <li>• Mxe Log Service</li> </ul>
Temp ディレクトリ	C:\temp ディレクトリ内のファイルはすべて破棄されることがあります。Temp ディレクトリ内のすべてのファイルが削除されるのは、よくあるメンテナンスの手順です。
音声文字変換ファイル	すべてのカスタム スピーカ プロファイルを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 スピーカ プロファイルは、C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Nuance\Dragon SDK Server Edition10\Users\ にあります。
グラフィック オーバーレイ ファイル	すべてのカスタム グラフィック テンプレート、コンテンツ XML スクリプト、および SWF テンプレートを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。これらのファイルは、C:\media\SpeechToTextFiles にあります。

## Resource Manager へのアップグレード用のライセンスの入手

スタンドアロン Cisco MXE 3500 を Resource Manager デバイスにアップグレードする場合は、元のライセンスを入手する際に使用したスタンドアロン Cisco MXE 3500 と同じ MAC アドレスを使用する必要があります。Resource Manager およびその Resource Node の新しいライセンスを入手したら、Resource Manager にライセンスをインストールします。

Resource Manager ライセンスの入手およびライセンスの要件の詳細については、「[Resource Manager のライセンスの取得](#)」(P.2-7) を参照してください。

## Resource Manager デバイスのアップグレード

この項では、次のトピックを扱います。

- 「[アップグレード ソフトウェアの入手](#)」(P.5-3)
- 「[Resource Manager へのアップグレードの実行](#)」(P.5-4)

### アップグレード ソフトウェアの入手

スタンドアロン Cisco MXE 3500 Release 3.0 設定を Resource Manager 設定または Resource Node 設定にアップグレードするソフトウェアは、1 つのソフトウェア パッケージに含まれています。アップグレードを実行する際に、Cisco MXE 3500 設定をどちらにアップグレードするかを選択します。

**作業を開始する前に**

ソフトウェアをダウンロードする Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のアカウントが必要です。

**手順**

- 
- ステップ 1 <http://www.cisco.com/public/sw-center/index.shtml> にアクセスし、Cisco.com にログインします。
  - ステップ 2 [Select a Software Product Category] 領域で、[Video, Cable and Content Delivery] を選択します。
  - ステップ 3 [Media Processing] > [Cisco MXE 3500 Software (Media Experience Engine)] を選択します。
  - ステップ 4 [Latest Releases] > [3.0.0] > [MXE 3500 Release 3.0.0 Resource Manager Upgrade] の順にクリックします。ソフトウェアへのリンクは、ブラウザ ウィンドウの右側にあります。
  - ステップ 5 **MXE3K-R3-0-UPG.zip** をフラッシュ ドライブなどの一時メディアに保存するか、アップグレードの際に Cisco MXE 3500 からアクセスできるネットワーク サーバに保存します。
  - ステップ 6 「[Resource Manager へのアップグレードの実行](#)」(P.5-4) の手順に進みます。
- 

**Resource Manager へのアップグレードの実行**

次の手順に従って、スタンドアロン Cisco MXE 3500 Release 3.0 設定を Resource Manager 設定にアップグレードします。

**作業を開始する前に**

- 「[アップグレードの準備](#)」(P.5-2) の手順の作業を実行します。
- 「[アップグレード ソフトウェアの入手](#)」(P.5-3) の手順の作業を実行します。
- アップグレードする Cisco MXE 3500 で実行中のすべてのアプリケーションを閉じます。

**手順**

- 
- ステップ 1 アップグレードする Cisco MXE 3500 にログインします。
  - ステップ 2 アップグレードの実行元となる新しいフォルダを作成します。この手順では、`C:\Upgrade` を例として使用します。
  - ステップ 3 [ステップ 2](#) で作成したフォルダに **MXE3K-R3-0-UPG.zip** をコピーします。
  - ステップ 4 [MXE3K-R3-0-UPG.zip] を右クリックし、[Extract All] をクリックします。
  - ステップ 5 [Next] を 2 回クリックします。
  - ステップ 6 [Finish] をクリックします。
  - ステップ 7 コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
  - ステップ 8 コマンドプロンプトで、`cd C:\Upgrade\MXE3K-R3-0-UPG` と入力して **Upgrade-Patch.bat** と入力します。
  - ステップ 9 コマンドプロンプトで **RM** と入力します。アップグレードプロセスが続行され、完了すると「RM upgrade patch installation complete」(RM アップグレードパッチ インストールが完了しました) というメッセージが表示されます。

アップグレードプロセスが完了すると、Cisco MXE 3500 に自動的に再起動されることを通知するダイアログボックスが表示されます。クリックや文字入力などの操作をせず、再起動が完了するまで待ちます。これで、ソフトウェア アップグレードが完了しました。

- ステップ 10** Cisco MXE 3500 スタンドアロン設定用の元のライセンス ファイル (mxe.lic) を C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license (デフォルトのファイル名およびインストール先) にインストールした場合は、アップグレードプロセスで新しいフォルダが作成され、元のライセンスは C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license\OldStandaloneLicense に移動されます。デフォルトのファイル名またはインストール先を変更した場合は、誤操作を防ぐために次の手順を完了する必要があります。
- a. 現在のスタンドアロン ライセンス ファイルの名前を変更するか、別のフォルダに保存します。
  - b. Resource Manager にライセンスをインストールする場合は、Resource Manager 設定ライセンス ファイルが、変更したライセンス設定と同じ場所に同じ名前で作成されていることを確認します。
- ステップ 11** 「Resource Manager アップグレード設定の完了」 (P.5-5) の手順に進みます。

## Resource Manager アップグレード設定の完了

アップグレード設定を完了するには、表 5-2 の作業を実行します。これらの手順を実行すると、Cisco MXE 3500 Resource Manager を使用する準備が完了します。

表 5-2 アップグレードに必要な作業

設定の対象	作業内容
ジョブ プロファイル	Resource Manager デバイス上で、すべてのプロファイルが変更されていないかどうかを確認します。変更されている場合は、バックアップしたプロファイルを C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles にコピーします。  元のジョブ プロファイルの 1 つを使用して、最初にテスト ジョブをいくつか実行することもできます。
ライセンス ファイル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Resource Manager ライセンスを入手します。「Resource Manager へのアップグレード用のライセンスの入手」 (P.5-3) も参照してください。</li> <li>2. Resource Manager ライセンスをインストールします。「Resource Manager へのライセンスのインストール」 (P.2-8) も参照してください。</li> </ol> <p>(注) Cisco MXE 3500 を実行するには、ライセンス ファイルが必要です。</p>
E メール サーバの設定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 次の資格情報を使用して、Resource Manager デバイス上で UI にログインします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ログイン ユーザ名 : admin</li> <li>• パスワード : admin</li> </ul> 「Cisco MXE 3500 の Web ユーザ インターフェイスへのアクセス」 (P.1-2) も参照してください。 </li> <li>2. (ツールボックスから [Administration] &gt; [System] をクリックして) System Settings Administration ページを開き、アップグレードの準備の際に書き留めた SMTP サーバと E メール の情報を確認または修正します。</li> </ol>
サービス	すべての Cisco MXE 3500 サービスが「アップグレードの準備」 (P.5-2) の手順で書き留めたアカウントで実行されていることを確認します。  (注) MXE サービスには、すべての設定済み UNC パスおよび IIS への読み書き権限が設定されている必要があります。

表 5-2 アップグレードに必要な作業 (続き)

設定の対象	作業内容
フォルダ アテンダントの設定	<p>1. Resource Manager デバイス上で、バックアップしたフォルダ アテンダントの設定ファイル <code>faConfig.xml</code> を、<code>C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\Folder Attendant\bin</code> ディレクトリにコピーします。</p> <p>2. ディレクトリがオンラインで表示されない場合は、Cisco MXE 3500 のフォルダ アテンダント サービスを実行中のユーザ アカウントに、ウォッチ ディレクトリの読み書き権限が設定されているかどうかを確認します。</p> <p>(注) システム上のエンコード プロファイルおよびウォッチ ディレクトリをすべて復元するまで、フォルダ アテンダントが正しく機能しない場合があります。</p> <p>3. ライセンス ファイルとフォルダ アテンダントの設定ファイルをインストールしたら、Cisco MXE 3500 をリポートします。</p> <p>「フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成」(P.1-11) も参照してください。</p>
Resource Manager の設定	<p>Resource Manager デバイス上で、Resource Manager 展開のシステム設定およびホスト設定を行います。</p> <p>「管理ツールを使った Resource Manager デバイスの設定」(P.2-10) も参照してください。</p>
ソース コンテンツ	<p>Resource Manager デバイス上のシステム設定入力セクションで設定した UNC パスに、バックアップしたソース コンテンツをコピーします。</p> <p>「[Input] セクション」(P.2-15) も参照してください。</p>
音声文字変換ファイル	<p>すべてのカスタム スピーカ プロファイルを、<code>C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Nuance\Dragon SDK Server Edition10\Users</code> ディレクトリにコピーします。</p>
グラフィック オーバーレイ ファイル	<p>すべてのカスタム グラフィック テンプレート、コンテンツ XML スクリプト、および SWF テンプレートを、<code>C:\media\SpeechToTextFiles</code> にコピーします。</p>

## スタンドアロン デバイスから Resource Node デバイスへの Cisco MXE 3500 のアップグレード

この項では、次のトピックを扱います。

- 「アップグレードの準備」(P.5-7)
- 「Resource Node へのアップグレード用のライセンスの入手」(P.5-8)
- 「Resource Node デバイスのアップグレード」(P.5-9)

## アップグレードの準備



(注)

スタンドアロン展開と Resource Manager 展開の設定の違いを確認します。「[Resource Manager 展開に関するガイドライン](#)」(P.2-2) も参照してください。

システムのアップグレードを行う前に、デバイス上のジョブ プロファイル、ライセンス ファイル、およびコンテンツをバックアップすることが重要です。アップグレードの準備を行うには、[表 5-1](#) の作業を実行します。

表 5-3 Resource Node スタンドアロン展開から 展開へのアップグレードの準備作業

バックアップの対象	作業内容
ジョブ プロファイル	プロファイルディレクトリを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 プロファイルディレクトリは、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles にあります。
ライセンス ファイル	mxe.lic ファイルを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 ライセンス ファイルは、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license\mxe.lic にあります。 <b>(注)</b> Cisco MXE 3500 をスタンドアロン展開に戻す場合は、使用するライセンスをバックアップします。Resource Manager デバイス上でこの展開の新しいライセンスを入手し、インストールする必要がある点に注意してください。
ソース コンテンツ	すべてのウォーターマーク ファイルとビデオ ファイルを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 Cisco MXE 3500 では、ソース コンテンツ ファイルの場所は既定で C:\media ディレクトリに設定されています。
出力コンテンツ	すべてのウォーターマーク ファイルとビデオ ファイルを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 Cisco MXE 3500 では、エンコードされたファイルの場所は C:\output ディレクトリに設定されています。
E メール サーバの設定	(ツールボックスから [Administration] > [System] をクリックして) System Settings Administration ページを開き、次の設定を書き留めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Eメールの設定</li> <li>SMTP サーバの設定</li> </ul>
フォルダ アテンダントの設定	faConfig.xml ファイルを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 faConfig.xml ファイルは、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\Folder Attendant\bin にあります。 <b>(注)</b> Cisco MXE 3500 デバイスにあるすべてのウォッチ ディレクトリは、アップグレードプロセスの途中で削除されます。

表 5-3 Resource Node スタンドアロン展開から 展開へのアップグレードの準備作業 (続き)

バックアップの対象	作業内容
サービス	次の Cisco MXE 3500 の各サービスを開き、システムを実行中の各ユーザ アカウントを確認します。デフォルトの MXE-Service から変更されたアカウントがあった場合は、そのユーザ アカウントの名前を書き留めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• IIS Admin Service</li> <li>• Mxe CAM</li> <li>• Mxe ECS</li> <li>• Mxe Encoder</li> <li>• Mxe Folder Attendant</li> <li>• Mxe Log Service</li> </ul>
Temp ディレクトリ	C:\temp ディレクトリ内のファイルはすべて破棄されることがあります。Temp ディレクトリ内のすべてのファイルが削除されるのは、よくあるメンテナンスの手順です。
音声文字変換ファイル	すべてのカスタム スピーカ プロファイルを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 スピーカ プロファイルは、C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Nuance\Dragon SDK Server Edition10\Users\ にあります。
グラフィック オーバーレイ ファイル	すべてのカスタム グラフィック テンプレート、コンテンツ XML スクリプト、および SWF テンプレートを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 これらのファイルは、C:\media\SpeechToTextFiles にあります。

## Resource Node へのアップグレード用のライセンスの入手

スタンドアロン Cisco MXE 3500 を Resource Node にアップグレードする場合は、元のライセンスを入手する際に使用した **Resource Manager** デバイスと同じ MAC アドレスを使用する必要があります。新しいライセンスを入手したら、Resource Manager にライセンスをインストールして Resource Node をグループに追加します。

### 作業を開始する前に

- ライセンス Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のアカウントが必要です。
- Resource Manager デバイスの Cisco MXE 3500 MAC アドレスを入手します。元のライセンスを入手する際に使用した **Resource Manager** デバイスと同じ MAC アドレスを使用する必要があります。「**MAC アドレスの入手**」(P.1-3) も参照してください。
- Resource Node の製品認証キー (PAK) を入手します。PAK は、デバイスに付属するソフトウェア ライセンス権利証明書に記載されています。

### 手順

- ステップ 1** <http://www.cisco.com/go/license> にアクセスします。
- ステップ 2** Resource Node の PAK を入力します。

- ステップ 3** Resource Manager デバイスを使用して登録 Web サイトにアクセスしている場合は、Enter キーを押します。そうでない場合は、[Submit] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 画面の指示に従って、プロンプトが表示されたら、Resource Manager デバイスの MAC アドレスを使用します。
- ステップ 5** 登録後、ライセンス ファイルが添付された E メールが送信されます。
- ステップ 6** ライセンス ファイルを保存します。ライセンスにはグループ内の Resource Manager デバイスおよび各 Resource Node に有効なライセンスが含まれているので、このライセンスを Resource Manager デバイスにインストールします。ライセンスのインストールの詳細については、「[Resource Manager へのライセンスのインストール](#)」(P.2-8) を参照してください。



(注) ライセンス ファイルは安全な場所に保存することを推奨します。ライセンス ファイルを紛失すると、再度複製を入手するのに最大 1 営業日かかる場合があります。

## Resource Node デバイスのアップグレード

次の手順に従って、Cisco MXE 3500 に Resource Node ソフトウェアをインストールし、新しいライセンスを入手して Resource Manager デバイス上にインストールし、Resource Manager デバイス上に Resource Node を設定します。これらの手順を実行すると、Resource Node を使用する準備が完了します。

### 作業を開始する前に

- 「[アップグレードの準備](#)」(P.5-7) の手順の作業を実行します。
- 「[Resource Node へのアップグレード用のライセンスの入手](#)」(P.5-8) の手順の作業を実行します。
- 「[アップグレード ソフトウェアの入手](#)」(P.5-3) の手順の作業を実行します。
- アップグレードする Cisco MXE 3500 で実行中のすべてのアプリケーションを閉じます。

### 手順

- ステップ 1** アップグレードする Cisco MXE 3500 にログインします。
- ステップ 2** アップグレードの実行元となる新しいフォルダを作成します。この手順では、`C:\Upgrade` を例として使用します。
- ステップ 3** **ステップ 2** で作成したフォルダに **MXE3K-R3-0-UPG.zip** をコピーします。
- ステップ 4** [MXE3K-R3-0-UPG.zip] を右クリックし、[Extract All] をクリックします。
- ステップ 5** [Next] を 2 回クリックします。
- ステップ 6** [Finish] をクリックします。
- ステップ 7** コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
- ステップ 8** コマンドプロンプトで、`cd C:\Upgrade\MXE3K-R3-0-UPG` と入力して **Upgrade-Patch.bat** と入力します。
- ステップ 9** コマンドプロンプトで **RN** と入力します。アップグレードプロセスが続行され、完了すると「RN upgrade patch installation complete」(RM アップグレード パッチ インストールが完了しました) というメッセージが表示されます。

アップグレードプロセスが完了すると、Cisco MXE 3500 に自動的に再起動されることを通知するダイアログボックスが表示されます。クリックや文字入力などの操作をせず、再起動が完了するまで待ちます。これで、ソフトウェア アップグレードが完了しました。

Cisco MXE 3500 スタンドアロン設定用の元のライセンス ファイル (mxe.lic) を C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license (デフォルトのファイル名およびインストール先) にインストールした場合は、アップグレード プロセスで新しいフォルダが作成され、元のライセンスは C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license\OldStandaloneLicense に移動されます。デフォルトのファイル名またはインストール先を変更しても、ライセンス ファイルは変更されません。

**ステップ 10** Resource Manager にライセンスをインストールし、Resource Manager デバイス上に Resource Node を設定するには、「既存の Resource Manager 展開への新しい Resource Node の追加」(P.5-11) の手順を実行します。

**ステップ 11** (オプション) Resource Manager デバイス上にバックアップした Cisco MXE 3500 スタンドアロン設定 (ステップ 10 にインストールしたライセンス ファイルを除く) を使用するには、「Resource Manager アップグレード設定の完了」(P.5-5) の手順を実行します。



(注) スタンドアロン Cisco MXE 3500 用の元のライセンス ファイルの再インストールは行わないでください。

# 既存の Resource Manager 展開への新しい Resource Node の追加

既存の Resource Manager 展開に Resource Node を追加するには、表 5-4 の手順を実行します。

表 5-4 Resource Node の追加に必要な作業

設定の対象	説明
Resource Node	<p>Resource Manager 展開の新しい Resource Node を準備するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Resource Node には、出荷時に同じ TCP/IP ホスト名が設定されています。TCP/IP ホスト名をこのデバイスに一意的な名前に変更します。</li> <li>Resource Node は、出荷時に DHCP が有効の状態に設定されています。スタティック IP アドレスを使用する場合は、DHCP を無効にし、このデバイスに IP アドレスを割り当てます。</li> </ol>
ライセンス ファイル	<p><b>(注)</b> 新しいライセンスを依頼する前に、Resource Manager ライセンスの仕組みを確認します。「<a href="#">Resource Manager のライセンスの取得</a>」(P.2-7) も参照してください。</p> <p>既存のライセンス ファイルをバックアップし、新しいライセンスを入手して Resource Manager デバイス上にインストールするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>mxe.lic ファイルを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。Cisco MXE 3500 をスタンドアロン展開に戻す場合は、使用するライセンスをバックアップします。 ライセンス ファイルは、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license\mxe.lic にあります。</li> <li>別の Resource Node を設定できるように、新しい Resource Manager ライセンスを入手します。「<a href="#">Resource Node へのアップグレード用のライセンスの入手</a>」(P.5-8) も参照してください。</li> <li>Resource Manager デバイスに新しい Resource Manager ライセンスをインストールします。「<a href="#">Resource Manager へのライセンスのインストール</a>」(P.2-8) も参照してください。</li> </ol> <p><b>(注)</b> Cisco MXE 3500 でこのノードを設定するには、新しいライセンス ファイルが必要です。</p>
Resource Manager	<p>Resource Manager デバイス上でこの Resource Node のホスト設定を行います。「<a href="#">Resource Manager 展開のホスト設定の設定</a>」(P.2-14) も参照してください。</p>

■ 既存の Resource Manager 展開への新しい Resource Node の追加



# CHAPTER 6

## トラブルシューティング Cisco MXE 3500

この項では、次のトピックを扱います。

- 「ロギング」 (P.6-1)
- 「トラブルシューティング」 (P.6-1)

### ロギング

ECS および LCS コンポーネントは、すべての情報、警告、エラーのメッセージのログを、たとえば C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\logs などの [MXE install directory]/logs ディレクトリのローリング ログ ファイルに毎日記録するように設定されています。

ログ ファイルは、各ノードのローカルにあります。ファイルは ECS01.log または LCS01.log です。Resource Manager 展開の場合、Resource Manager デバイスには ECS および LCS ログ ファイルの両方があり、Resource Node には LCS ログ ファイルのみがあります。スタンドアロン展開の場合、Cisco MXE 3500 には ECS および LCS ログ ファイルの両方があります。

新しいログ ファイルは、日付け入りで毎日作成されます。たとえば、ECS01.log はその月の 1 日目の ECS ログ、ECS02.log はその月の 2 日目の ECS ログ、などとなります。毎月、その月で日が経つに従って、ログ ファイルは上書きされます。

ログ ファイルを表示するには、次の操作を行います。

ノードの適切なディレクトリパスに移動し、ログ ファイルをクリックして開きます。



(注)

テキスト エディタを使用してファイルを開きます。選択したテキスト エディタでファイルを開くには、拡張子を指定する必要があります。

### トラブルシューティング

この項では、次のトピックを扱います。

- 「トラブルシューティングの手順」 (P.6-2)
- 「トラブルシューティングの FAQ」 (P.6-2)

## トラブルシューティングの手順

問題を特定するには、次の初期トラブルシューティングの手順を実行します。

1. ログ ファイルを確認します。Resource Manager 展開の場合は、各ノードに独自のログ ファイルがあります。「[ロギング](#)」(P.6-1) も参照してください。
2. エラー メッセージやエラー コードを確認し、問題、ファイル名、および場所を特定します。
3. 入手できるロギング情報を基に、次の質問に回答します。
  - 問題は断続しているか、持続しているか。
  - Resource Manager 展開の場合は、問題が 1 つのノードのみに影響しているか、すべてのノードに影響しているか。
4. 次の情報を確認し、問題を特定します。

問題の状況				可能性のある問題
持続している	断続している	1 つのノード	すべてのノード	—
X				ローカル ノードの問題
	X			ネットワークまたは Resource Manager の問題
X			X	システム側の問題
	X	X		ローカル ノードの問題
	X		X	ネットワークの問題 (接続)

「[トラブルシューティングの FAQ](#)」(P.6-2) も参照してください。

## トラブルシューティングの FAQ

この項では、次のトピックを扱います。

- 「[スタンドアロン展開と Resource Manager 展開](#)」(P.6-2)
- 「[Resource Manager 展開](#)」(P.6-3)

### スタンドアロン展開と Resource Manager 展開

- Q. 問題がデコード関連か、エンコード関連かはどのように判断するのですか。
- A. エラーがプリフィルタで発生している場合、問題はデコードエラーです。エラーがエンコーダで発生している場合、問題はエンコードエラーです。
- Q. Resource Manager またはスタンドアロンの Cisco MXE 3500 に Administrator としてログインすると、[Hosts] ページが見えないのはなぜですか。
- A. この問題は、インターネット セキュリティの設定によるものです。Internet Explorer を開き、[Tools] > [Internet Options] > [Security] > [Local intranet] をクリックします。セキュリティ レベルで「中」を選択し、この設定を適用します。再度 [Hosts] ページにアクセスします。

## Resource Manager 展開

### インストール、アップグレード、およびライセンスについて

- Q.** スタンドアロン Cisco MXE 3500 を Resource Manager または Resource Node にアップグレードできますか。
- A.** はい。アップグレードには、新しいソフトウェアと新しいライセンスが必要です。「[スタンドアロンデバイスからの Cisco MXE 3500 のアップグレード](#)」(P.5-1) も参照してください。
- Q.** ソフトウェアのライセンス ファイルを Resource Manager デバイス上の正しいフォルダにコピーしても、Resource Node がトランスコーディングを行わないのはなぜですか。
- A.** ライセンス ファイルをコピーした後、Resource Manager ですべてのノードをホストとして設定する必要があります。「[Resource Manager 展開のホスト設定の設定](#)」(P.2-14) も参照してください。
- Q.** Resource Manager と Resource Node ソフトウェアが正しくインストールされたかどうか、またハードウェアとソフトウェア要件に適合しているかどうかはどのように確認できますか。
- A.** C:\¥Cisco-Batch-Files フォルダに、PostInstallation.bat ファイルがあります。コマンドプロンプトで PostInstallation.bat ファイルを参照すると、PASS/FAIL の結果を確認できます。
- Q.** Resource Manager は Resource Node として機能し、トランスコーディング作業を実行できますか。
- A.** Resource Manager は、グループ内の Resource Node の 1 つとして機能します。Resource Manager は、トランスコーディング ジョブのほか、グループでのロード バランシングや配信ジョブを実行します。

### システム ステータスについて

- Q.** Resource Node で実行中のジョブはどのように確認できますか。
- A.** UI にログインします。ツールボックスから [Monitoring] > [System Status] を選択し、各 Resource Node で実行中のジョブを確認します。「[Cisco MXE 3500 の Web ユーザーインターフェースへのアクセス](#)」(P.1-2) も参照してください。
- Q.** Resource Node がダウンしているかどうかはどのように確認できますか。
- A.** Resource Node がダウンしたりネットワークから切断されると、[System] ページで有効な SMTP サーバと E メールアドレスが設定されている場合、Resource Manager からシステム管理者に E メールが送信されます。

### 設定について

- Q.** Resource Node でウォッチを作成できますか。
- A.** どの Resource Node でもウォッチを作成できますが、ウォッチは Resource Manager とグループ内のその他すべてのノードにアクセス可能である必要があります。
- Q.** Resource Manager デバイスにローカル接続された UI (C:\¥media) にあるメディア ファイルを選択すると、エラーが表示されるのはなぜですか。
- A.** トランスコーディング ジョブはどの Resource Node でも実行できるため、メディア ファイルは UNC パスの共有フォルダ内にある必要があります。ローカルマシンにあるファイル (C:\¥media) は選択できません。「[\[Input\] セクション](#)」(P.2-15) も参照してください。

### ダウンしたノードについて

- Q.** 特定のジョブを実行中に Resource Node がダウンした場合、別の Resource Node で残りのサブジョブを実行できますか。
- A.** Resource Node がダウンすると、Resource Manager により残りのジョブが再度配信されます。別の Resource Node がサブジョブの実行を最初から開始し直します。サブジョブの途中から開始することはありません。
- Q.** Resource Manager がダウンして再起動した場合、すべてのメディア ファイルを再度送信する必要がありますか。
- A.** はい、すべてのメディア ファイルを再度送信する必要があります。
- Q.** Resource Node がダウンして再起動した場合は、再度設定する必要がありますか。
- A.** いいえ。Resource Node は自動的にグループの一部となります。また、Resource Node の起動を検出すると Resource Manager はジョブの配信を開始します。

### 失敗したジョブや実行中でないジョブについて

- Q.** ワーカーが失敗するのはなぜですか。
- A.** ワーカーが 1 つのノードでは失敗するが他のノードでは実行できる場合、ローカル ノードに問題がある可能性があります。ワーカーがすべてのノードで失敗する場合、ネットワークまたは Resource Manager に問題がある可能性があります。
- Q.** Resource Manager でホストとして設定された Resource Node でジョブが実行されないのはなぜですか。
- A.** 2 つの可能性ががあります。
- Resource Node がネットワーク上に存在しない。
  - 設定に問題がある可能性がある。[Systems] ページで SMTP サーバを設定し E メールアドレスを指定している場合は、ダウンしているノードを特定する E メールが送信されます。その Resource Node が実行中で Resource Manager から Resource Node にアクセスできる場合は、設定の問題である可能性があります。[Hosts] ページを参照し、そのノードの [permit all] チェックボックスがオンになっていることを確認します。「[ユーザ設定](#)」(P.2-18) も参照してください。



# CHAPTER 7

## Cisco MXE 3500 のリカバリ



注意

このリカバリ プロセスでは、Cisco MXE 3500 をリセットし、お客様にお届けしたときと同じ状態と設定に戻します。変更内容および Cisco MXE 3500 にコピーされたコンテンツはすべて削除されます。他のトラブルシューティングのオプションがすべて失敗した場合のみ、リカバリ プロセスを実行してください。

この項では、次のトピックを扱います。

- 「リカバリの準備」(P.7-1)
- 「Cisco MXE 3500 の復旧」(P.7-3)
- 「設定の復元」(P.7-5)

### リカバリの準備

システムを復旧する前に、デバイス上のジョブ プロファイル、ライセンス ファイル、およびコンテンツをバックアップすることが重要です。リカバリの準備を行うには、表 7-1 の作業を実行します。



注意

保管するすべてのファイルを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーする必要があります。すべてのファイルは復元プロセス中に削除されます。

表 7-1 リカバリの準備作業

バックアップの対象	作業内容
ジョブ プロファイル	個人用プロファイル ディレクトリにあるプロファイル ディレクトリおよびすべてのプロファイルを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 プロファイル ディレクトリは、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles にあります。
ライセンス ファイル	mxe.lic ファイルを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。 ライセンス ファイルは、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license\mxe.lic にあります。

表 7-1 リカバリの準備作業（続き）

バックアップの対象	作業内容
ソース コンテンツ	すべてのウォーターマーク ファイルとビデオ ファイルを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。  Cisco MXE 3500 では、ソース コンテンツ ファイルの場所は既定で C:\media ディレクトリに設定されています。
出力コンテンツ	すべてのウォーターマーク ファイルとビデオ ファイルを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。  Cisco MXE 3500 では、エンコードされたファイルの場所は C:\output ディレクトリに設定されています。
E メール サーバの設定	(ツールボックスから [Administration] > [System] をクリックして) System Administration ページを開き、次の設定を書き留めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>E メール サーバの設定</li> <li>SMTP サーバの設定</li> </ul>
フォルダ アテンダントの設定	faConfig.xml ファイルを Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。  faConfig.xml ファイルは、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\Folder Attendant\bin にあります。  (注) Cisco MXE 3500 デバイスにあるすべてのウォッチ ディレクトリは、リカバリ プロセスの途中で削除されます。
サービス	次の Cisco MXE 3500 の各サービスを開き、システムを実行中の各ユーザ アカウントを確認します。デフォルトの MXE-Service から変更されたアカウントがあった場合は、そのユーザ アカウントの名前を書き留めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IIS Admin Service</li> <li>Mxe CAM</li> <li>Mxe ECS</li> <li>Mxe Encoder</li> <li>Mxe Folder Attendant</li> <li>Mxe Log Service</li> </ul>
Temp ディレクトリ	C:\temp ディレクトリ内のファイルはすべて破棄されることがあります。Temp ディレクトリ内のすべてのファイルが削除されるのは、よくあるメンテナンスの手順です。
音声文字変換ファイル	すべてのカスタム音声文字変換スピーカ プロファイル フォルダを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。  スピーカ プロファイルは、C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Nuance\Dragon SDK Server Edition10\Users\ にあります。
グラフィック オーバーレイ ファイル	テキスト合成用のすべてのカスタム グラフィック オーバーレイ ファイル (SWF ファイル) およびコンテンツ XML スクリプトを、Cisco MXE 3500 以外の場所にコピーします。  これらのファイルは、C:\media\SpeechToTextFiles にあります。

## Cisco MXE 3500 の復旧

この項では、次のトピックを扱います。

- 「Quiet Boot 設定の無効化およびハード ドライブの RAID-0 としての設定」 (P.7-3)
- 「アプライアンスを復旧する Cisco MXE 3500 ソフトウェアのインストール」 (P.7-4)

### Quiet Boot 設定の無効化およびハード ドライブの RAID-0 としての設定

次の手順に従って、BIOS で Quiet Boot を無効にし、ハード ドライブを RAID-0 として設定します。

#### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco MXE 3500 の電源をオンにします。
- ステップ 2** F2 を押して BIOS セットアップに切り替えます。オプションが有効な間に F2 を押せなかった場合は、Cisco MXE 3500 をリブートします。
- ステップ 3** [Main] タブで、Quiet Boot 設定が [Disabled] になっているかどうかを確認します。
- Quiet Boot 設定が [Disabled] の場合は、[ステップ 5](#) に進み BIOS セットアップを終了します。
  - Quiet Boot 設定が [Enabled] の場合は、[ステップ 4](#) に進み設定を無効にします。
- ステップ 4** 次のように Quiet Boot 設定を無効にします。
- a. Enter キーを押して、[Quiet Boot] メニューを表示します。
  - b. 矢印キーを使用して [Disabled] を選択し、Enter を押します。
  - c. F10 を押します。
  - d. [Save and Reset] メニューが表示されたら、矢印キーを使用して [Yes] を選択します。
  - e. Enter キーを押します。Cisco MXE 3500 がリブートされます。
  - f. [ステップ 6](#) に進みます。
- ステップ 5** 次のように BIOS セットアップを終了します。
- a. Esc キーを押します。
  - b. [Exit Without Saving] メニューが表示されたら、矢印キーを使用して [Yes] を選択します。
  - c. Enter を押します。
  - d. Cisco MXE 3500 をリブートします。
  - e. [ステップ 6](#) に進みます。
- ステップ 6** 次のようにハード ドライブを RAID-0 として設定します。
- a. 最初のブート メッセージのプロンプトが表示されたら、Ctrl+C を押して LSI Corp Config Utility に切り替えます。
  - b. [Adapter List] ウィンドウが表示されたら、Enter を押します。
  - c. 矢印キーを使用して [RAID Properties] に移動し、Enter を押します。
  - d. [Manage Array] オプションに移動し、Enter を押します。
  - e. [Delete Array] に移動し、Enter を押します。
  - f. Y を押します。システムによりアレイが削除され、自動的に [Adaptor Properties] ウィンドウに移動します。

- g. 矢印キーを使用して [RAID Properties] に移動し、Enter を押します。
- h. 矢印キーを使用して [Create IS Volume] に移動し、Enter を押します。[Create New Array] ウィンドウが表示されます。
- i. [Raid Disk] 列の [No] に移動し、スペース キーを押して [Slot 0] 行の値を [Yes] に変更します。
- j. 下矢印キーとスペース キーを押して、[Slot 1] 行の値を [Yes] に変更します。
- k. C を押してアレイを作成します。
- l. [Save changes then exit this menu] に移動し、Enter を押します。システムが処理を完了すると、[Adaptor Properties] ウィンドウが自動的に表示されます。
- m. 終了のプロンプトが表示されるまで Esc を押し、[Exit the Configuration Utility and Reboot] に移動して、Enter を押します。システムがリブートされ、ハードディスクの RAID0 設定が完了します。

ステップ 7 「アプライアンスを復旧する Cisco MXE 3500 ソフトウェアのインストール」(P.7-4) の手順に進みます。

## アプライアンスを復旧する Cisco MXE 3500 ソフトウェアのインストール

次の手順に従って、Cisco MXE 3500 ソフトウェアをインストールし、アプライアンスを再イメージします。

### 作業を開始する前に

- 「Quiet Boot 設定の無効化およびハード ドライブの RAID-0 としての設定」(P.7-3) の手順の作業を実行します。
- Cisco MXE 3500 の電源がオフになっていることを確認します。

### 手順

- ステップ 1 DVD ドライブに起動ディスク DVD を挿入します。
- ステップ 2 Cisco MXE 3500 の電源をオンにします。DVD からアプライアンスが起動されます。
- ステップ 3 プロンプトが表示されたら、[Restore] をクリックします。
- ステップ 4 DVD を取り出します。
- ステップ 5 [Exit] ボタンを押して、インストールを続行します。  
Cisco MXE 3500 が自動的に 2 回起動され、Windows セットアップが実行されます。
- ステップ 6 「dosapp.fon file missing」(dosapp.fon ファイルが見つかりません) というメッセージが表示されたら、[Cancel] を押します。インストールが続行され、Welcome to Windows (Windows へようこそ) ログオンプロンプトが表示されます。
- ステップ 7 UserID に **Administrator** と入力し、パスワードには Enter キーを押します。
- ステップ 8 「設定の復元」(P.7-5) に進みます。

## 設定の復元

この項では、次のトピックを扱います。

- 「スタンドアロン設定または Resource Manager の設定」(P.7-5)
- 「Resource Node の設定」(P.7-6)

## スタンドアロン設定または Resource Manager の設定

スタンドアロン Cisco MXE 3500 または Resource Manager の設定を復元するには、表 7-2 の作業を実行します。これらの手順を実行すると、Cisco MXE 3500 を使用する準備が完了します。

表 7-2 Cisco MXE 3500 スタンドアロン設定または Resource Manager 設定の復元に必要な作業

復元の対象	作業内容
ジョブ プロファイル	バックアップしたプロファイルを、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles にコピーします。  Cisco MXE 3500 に付属するデフォルトのジョブ プロファイルを使用して、最初にテスト ジョブをいくつか実行することもできます。準備の手順でバックアップしたプロファイルをコピーすると、デフォルトのプロファイルが変更されることがあります。
ライセンス ファイル	バックアップした mxe.lic ライセンス ファイルを、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license ディレクトリにコピーします。 <b>(注)</b> Cisco MXE 3500 を実行するには、ライセンス ファイルが必要です。
ソース コンテンツ	バックアップしたソース コンテンツを C:\Media ディレクトリにコピーします。
サーバの設定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 次の資格情報を使用して、http://localhost/mxeUI で UI にログインします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ログイン ユーザ名 : <b>admin</b></li> <li>• パスワード : <b>admin</b></li> </ul> </li> <li>2. (ツールボックスから [Administration] &gt; [System] をクリックして) System Administration ページを開き、「リカバリの準備」(P.7-1) で書き留めた SMTP サーバの情報を入力します。</li> <li>3. Resource Manager 展開がある場合は、Resource Manager デバイスを設定します。「管理ツールを使った Resource Manager デバイスの設定」(P.2-10) も参照してください。</li> </ol>
フォルダ アテンダントの設定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バックアップしたフォルダ アテンダントの設定ファイル faConfig.xml を、C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\Folder Attendant\bin ディレクトリにコピーします。</li> <li>2. ディレクトリがオンラインで表示されない場合は、Cisco MXE 3500 のフォルダ アテンダント サービスを実行中のユーザ アカウントに、ウォッチ ディレクトリの読み書き権限が設定されているかどうかを確認します。 <b>(注)</b> システム上のエンコード プロファイルおよびウォッチ ディレクトリをすべて復元するまで、フォルダ アテンダントが正しく機能しない場合があります。</li> <li>3. ライセンス ファイルとフォルダ アテンダントの設定ファイルを復元したら、Cisco MXE 3500 をリブートします。</li> </ol>

表 7-2 Cisco MXE 3500 スタンドアロン設定または Resource Manager 設定の復元に必要な作業 (続き)

復元の対象	作業内容
サービス	Cisco MXE 3500 サービスのいずれかがデフォルト (MXE-Service) 以外のアカウントで実行中の場合は、サービスのログオン アカウントを準備の手順で書き留めたサービス アカウントに変更します。 「リカバリの準備」(P.7-1) も参照してください。
音声文字変換ファイル	すべてのカスタム音声文字変換スピーカ プロファイル フォルダを、 C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Nuance\Dragon SDK Server Edition10\Users\ディレクトリにコピーします。
グラフィック オーバーレイ ファイル	すべてのカスタム グラフィック オーバーレイ ファイル (SWF ファイル) およびテキスト合成用のコンテンツ XML スクリプトを、 C:\media\SpeechToTextFiles ディレクトリにコピーします。

## Resource Node の設定

Resource Node を復元するには、表 7-3 の作業を実行します。

表 7-3 Resource Node の復元に必要な作業

復元の対象	作業内容
Resource Node で元の TCP/IP ホスト名を使用する	Resource Manager では、Resource Node がホスト名および UNC パスにより認識され、その情報は Resource Manager に格納されます。元のホスト名を設定し、復元された Resource Node の IP アドレスのみを変更する場合は、Resource Manager の設定を修正する必要はありません。 Resource Manager 展開で Resource Node を復元するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>Resource Node には、出荷時にデフォルトの TCP/IP ホスト名が設定されています。TCP/IP ホスト名を、このデバイスに割り当てて Resource Manager でホストとして設定した元の名前に戻します。</li> <li>Resource Node は、出荷時に DHCP が有効の状態に設定されています。スタティック IP アドレスを使用する場合は、DHCP を無効にし、このデバイスに IP アドレスを割り当てます。</li> </ol>
Resource Node で新しい TCP/IP ホスト名を使用する	Resource Manager 展開で Resource Node を復元するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>Resource Node には、出荷時に同じ TCP/IP ホスト名が設定されています。TCP/IP ホスト名をこのデバイスに一意の名前に変更します。</li> <li>Resource Node は、出荷時に DHCP が有効の状態に設定されています。スタティック IP アドレスを使用する場合は、DHCP を無効にし、このデバイスに IP アドレスを割り当てます。</li> <li>この Resource Node の元のホスト名を削除します。「ユーザ設定」(P.2-18) も参照してください。</li> <li>この Resource Node のホスト設定を行います。「Resource Manager 展開のホスト設定の設定」(P.2-14) も参照してください。</li> </ol>